

教 育 ・ 研 究 年 報

令和 6 年度

徳 島 文 理 大 学
人 間 生 活 学 部

ま え が き

令和6年度人間生活学部の教育・研究年報を刊行いたします。ご覧下さいまして、年報のあり方、あるいは教員の活動に対しご指導を賜りますことを願っております。

人間生活学部は6学科からなり、各学科が連携し、人間生活学の魅力的な教育・研究を展開させています。学科構成の多様性が人間生活学部の特徴・メリットです。令和6年度を振り返り、多くの出来事の中から各学科の活動や特徴を紹介しましょう。

人間生活学科から紹介します。豊かなくらしのあり方を幅広く学ぶ学科をめざしています。教育内容は、生活経営学、食物学、被服学、住居学、コミュニティデザイン、保育・保健・養護学の各分野から構成されています。長年の伝統につちかわれた養護教諭と家庭科教諭の養成に工夫を重ね、専用の施設・設備を活用し、より実践的・具体的な実習・教育を展開してきました。人間生活学科は「人の生活の本質を理解し、ウェルビーイングの実現と持続可能な社会の創造」を探究し、社会と生活の変化に対応して活躍する人材を育成します。

食物栄養学科は、食を通じて健康な生活を支えるプロフェッショナルを育成します。そして管理栄養士国家試験に合格できる学力をつけることを教育の基本にして、冬期講習等、国家試験合格率向上のための工夫を重ねてきました。さらに、栄養や保健、衛生の高度な学識と技術をもち、「人間栄養学」、すなわち人を健康にする栄養のプロフェッショナルである管理栄養士を養成し、小中学校において食育を担当する栄養教諭の養成にも力を注ぎました。これらの目的のために、栄養学、解剖生理学、病理学、臨床栄養学を深く学ぶことができます。

児童学科は、公私立の小学校・幼稚園・保育所・認定こども園等で働くプロの育成を目指します。本年度から、「人間力」の向上のために、SEL (Social Emotional Learning) の理論と実践を学ぶ授業を開設し、1年生から4年生までの希望者が楽しく活動しています。その成果は、中四国保育学生研究大会等で発表し、好評を得ることができました。また、昨今の高度情報化社会に対応し、保育・教育現場でも活用できるよう、タブレット等の環境を整備してICT能力の向上に努めています。さらに、小学校現場で外国語の授業等に生かせるように、小学校英語活動等の授業で、Classroom Englishを身につける活動をするなど、保育・教育の今日的課題に対応した学びを深めることができます。

メディアデザイン学科の考えるメディア（テクノロジー）とは、映像などデジタルコンテンツの処理からプログラミング、ビッグデータの統計分析など多岐にわたります。またデザインは狭い意味での「意匠」ではなく、「問題解決、新しい価値の創出」と捉えています。つまり、メディアデザインが意味するのは「メディアテクノロジーを活用し現代社会の問題解決を図る」ということです。そのために4年間を通してコンピュータの基礎はもちろん、市場調査・分析やライツマネジメントなどバランスよく学んでいきます。また近年では行政機関などからの地域再生プロジェクトの依頼もあり、学生がより実践的な場面で活躍しています。

建築デザイン学科では、建築教育の始まりを設計教育ととらえ、建築を構想し実現する力を育てることに重点を置いています。手書きの図面から始まり4年になるまでにコ

ンピュータによる設計ができるように CAD 教育にも力を入れています。加えて CAD の発展形である 3D モデリングや VR など学生に最先端の技術にチャレンジする機会を与えています。一方、地域の課題解決など、地域に密着した活動も継続しています。そして人と生活と環境を大切にして、建築の 3 要素である「強・用・美」をそなえた建築・インテリアを創造する人材を育成しています。卒業生は、総合建設業、設計事務所、住宅産業、不動産業などに幅広い分野に就職しています。

心理学科は公認心理師法の施行以降、各方面からの注目を集めています。中四国における臨床心理士養成校のパイオニアとしての長年の経験を元に、公認心理師養成に向けてカリキュラム等を整備し、着実に教育体制を整えてきました。心の問題は学校現場においても重要で、心理学を学び養護教諭をめざす人材の育成にも力を入れています。

「心の痛みの分かる、暖かく冷静な人に」が心理学科の目標です。

このように、各学科が多くの課題に果敢に挑戦していることの一端をお分かりいただけたと思います。

令和 7 年 1 月末は、新型コロナウイルス感染症が流行しはじめて満 5 年になります。すでに 5 類に分類され一年が経過しようとしています。しかし依然として、感染者は後を絶ちません。令和 2、3 年度は、感染を防ぐために対面授業から遠隔配信授業に切り替えましたが、令和 5 年度からは対面授業を行っています。一部の学科では、対面授業と遠隔授業を並行して行うことで、対面授業への参加が困難な学生にも、学習の機会を確保しています。さらにマイコプラズマ肺炎の流行があり、学生生活に様々な制限が続いているように思います。

日本の大学を取り巻く状況は大変厳しいものがあります。特に地方では若年人口の減少と都会への流出が続き、志願者の確保が難しくなっています。国立大学の定員充足率を高めるための難易度の低下も、本学の志願者減少の大きな一因になっています。

本学は、創立 130 周年に高松駅キャンパスを立ち上げ、3 キャンパス体制となります。これまで築き上げてきた伝統に加えて、新たな局面を開く良い機会として、上に記したような各学科の取組を一層発展させていくことで、本学の明るい未来を必ず見出していくことができると確信しています。

人間生活学部長 石堂 一巳

目次

まえがき 人間生活学部長 石堂 一巳

第1章 人間生活学部の概要

第1節 学部の沿革と基本理念	1
第2節 学部の構成	3
第3節 学部運営組織（各種委員会の構成）	5
第4節 学部各種委員会活動報告	8

第2章 学科スタンダード

第1節 人間生活学科	38
第2節 食物栄養学科	39
第3節 児童学科	40
第4節 メディアデザイン学科	41
第5節 建築デザイン学科	42
第6節 心理学科	43

第3章 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果

46

第4章 学生による授業評価アンケート集計結果

54

第5章 研究授業報告

62

第6章 教員活動状況

第1節 人間生活学科	70
第2節 食物栄養学科	84
第3節 児童学科	106
第4節 メディアデザイン学科	130
第5節 建築デザイン学科	142
第6節 心理学科	160

編集後記

182

第1章 人間生活学部の概要

第1節 学部の沿革と基本理念

(1) 沿革

本学園は明治 28 (1895) 年、学祖村崎サイ先生が「女も独り立ちできねばならぬ」と唱え、自立協同を建学の精神として、私立裁縫専修学校を創立したことに始まるが、その後、この専修学校が時代の変化・要請と共に拡大発展し、昭和 36 (1961) 年には徳島女子短期大学 (家政科)、次いで昭和 41 (1966) 年に徳島女子大学 (家政学部) が設置された。現在の人間生活学部はこうした歴史的発展のうえに成り立っているものである。

〔沿革の概要〕

昭和 41 (1966) 年	徳島女子大学家政学部家政学科設置
昭和 42 (1967) 年	管理栄養士専攻設置 管理栄養士専攻設置が管理栄養士養成施設として認可
昭和 45 (1970) 年	児童学科設置
昭和 49 (1974) 年	被服学科設置 (昭和 61 年廃止)
平成 5 (1993) 年	家政学専攻科設置
平成 6 (1994) 年	生活環境情報学科設置
平成 9 (1997) 年	大学院家政学研究科食物学専攻・生活環境情報学専攻修士課程設置
平成 10 (1998) 年	大学院家政学研究科に児童学専攻修士課程設置 人間発達学科設置 大学院家政学研究科に人間生活学専攻博士後期課程設置 大学院家政学研究科児童学専攻臨床心理学コースが臨床心理士養成機関に指定
平成 12 (2000) 年	児童学科が保育士養成施設として指定認可
平成 14 (2002) 年	家政学部を人間生活学部に変更 家政学科管理栄養士専攻を食物栄養学科に、生活環境情報学科を生活情報学科と住居学科に改組転換 家政学科家政学専攻を人間生活学科に変更
平成 15 (2003) 年	人間福祉学科設置 人間発達学科を心理学科に変更
平成 17 (2005) 年	大学院家政学研究科を人間生活学研究科に変更 大学院人間生活学研究科児童学専攻臨床心理学コースを改組し、心理学専攻〔博士課程 (前期)〕設置
平成 18 (2006) 年	生活情報学科をメディアデザイン学科に変更
平成 19 (2007) 年	人間福祉学科を人間福祉学部人間福祉学科として独立
平成 21 (2009) 年	住居学科を建築デザイン学科に変更
平成 30 (2018) 年	大学院人間生活学研究科心理学専攻が公認心理師国家試験受験資格を認定される。

（２）基本理念

家政学部は昭和 41 年に設置されたが、その後、科学技術の急速な進歩や産業構造の高度化に伴って、社会構造も複雑化し、その結果、教育の大衆化、生活様式や価値観の多様化、情報化、少子高齢化、さらには心の問題、ヒューマンリレーションの欠如といった諸々の問題が生じてきて、人間生活が大きく変貌してきた。

このような人間生活をめぐる社会的諸事象の変化に即応可能な人材を育成するため、従前のような衣食住を中心とする伝統的な家政学の分野を超えた新しい学部の在り方や内容を発展的・総合的に再検討する必要が生じてきた。そこで、これまでの歴史的・社会的役割とその成果を継承しつつ、有意な教育・研究体制を確立して、より一層の社会的貢献を果たすべく、平成 14 年に家政学部を人間生活学部として新しくスタートさせ、今日に至っている。

現在、本学部は、それぞれに特色ある目的・内容を持った 6 学科と専攻科より構成されている。このいずれもが人間の「生」と深く関わったものである。人間は環境（文化的・社会的・自然的環境等）との相互作用によって規定され得る生命体であるが、この観点から言えば、人間の「生」の問題は、取りも直さず生命の保持、健康の維持・促進、人間としての成長と発達、人間らしい生活の営みと行動の在り方、対人関係、文化の習得とその創造などと常に不可分の関係にある。しかし、そこには幾多の解決されねばならない課題も存在しているため、本学部では人間の自立と環境との共生という観点から、これらの課題解決に向けて常に科学し、新しいビジョンの下に創造していくことのできる人材、従って社会の新しい分野を担うことのできる人材の育成を目指している。それだけに本学部は諸科学、つまり人文科学、自然科学、社会科学等が有機的に連関するところに成り立つ特色ある学部であると言える。人間の開発・人間の自立の問題も、こうした関連科学の探究によってこそ保障されるものであると考えられる。

ところで、現代は「知識基盤社会」と言われ、知の伝達、知の創造と発見、知の応用が大切であるとされるが、快適で健全なる人間生活の創造を考えると、「知識基盤社会」にふさわしい人間の教育をこそ重視していかなければならない。このため、本学部では建学の精神に立脚して、次のような人間の育成をめざすものである。

第一は、豊かな人間性を身に付けた人材の育成である。教育の目的は、まさしく人格の完成にある。このため、充実した教育・研究を通じて、倫理観に裏付けられた知性と技能を有する個性豊かな品位ある人間の育成を目指す。このことは「人間の自立」、「知性と人間性の尊重」における根本精神でもある。

第二には、高度な専門的知識・技能の習得を目指すことにある。基礎・基本の習得と幅広い教養教育の確立を前提として、知の時代にふさわしい先端的な知識・技能を広い視野から身に付けた人材、つまり社会から常に必要とされ、しかも地域社会においてのみならず、国際的にも貢献できる実践的な専門家の養成をねらいとする。

第三には、意欲的で創造的な人間教育である。学生やる気・意欲を喚起し、夢と情熱を持って新しい事柄や未知の分野に柔軟な思考力で挑戦していく教育、従って知識・技能の応用力を高めつつ、学問的なパイオニア精神を培い、豊かな創造力を身に付ける教育を重視する。変化に対応できる人間教育である。

第2節 学部の構成

現在、人間生活学部は1～4学年をあわせて1,059名（令和6年5月1日現在）の学生を擁し、それぞれに特色ある人間生活、食物栄養、児童、メディアデザイン、建築デザイン、心理の6学科と専攻科から構成された学部である。

ここで各学科の特性について要約し、令和6年の教育等の質の向上への取り組みをまとめたい。

人間生活学科では、人間生活に関する衣食住のみならず、保育・保健・家族、さらには家庭経済や消費、地球環境問題、地域防災などを含めた内容を総合的に学びつつ、より健全なる人間の生き方を総合的に追究していく。学部の中では最も伝統ある学科である。カリキュラムの改訂を進めてきたことにより、多様な資格の取得や地域社会に目を向けることのできる学生が増え、学びの充実を図ることができた。令和7年度は、さらにビジネス社会や地域社会に求められる人材を育成するために、創造性や企画力、運営力を養う新たな科目としてクリエイティブ・デザインがスタートし、教育内容の充実を目指す。

食物栄養学科は、化学や生物などの内容を把握し、同時に人体の構造特性や機能等を理解したうえで、生活習慣病の予防をも視野に入れながら、人間の生命や健康に関わる食物栄養の特性などを実験等によって深く追究していく学科である。このため、栄養士、管理栄養士養成を主たる目的としている。カリキュラムの工夫と充実した対策により、管理栄養士国家試験受験資格と栄養教諭、家庭科教員免許を四年間で同時取得できる。なお、最近5年間（第34回から第38回）の管理栄養士国家試験における本学新卒の平均合格率は、88.3%である。

児童学科は、総合的な人間力を身につけた保育・教育の専門家を養成する学科である。乳幼児期から児童期に於いて、子どもの健全なる成長・発展と確かな学力を保障し、生きる力を育むことのできる専門的力量と豊かな指導性を養う学科である。教育面では、学生の視点に立った授業の充実における「アクティブラーニング」の工夫により、一定の授業評価を得ることができ、学生の満足度も高くなっている。学修面では実践力向上のための方策として、実習報告会を開き、実習での経験を後輩たちに伝えることで、学生の意識向上が図られ、実習先からの評価も向上してきた。学生の進路の実現に向けて、学科独自の教授対策講座の充実を図るなど夢の後押しに努めることで、令和6年度は、公立幼保に述べ6名、小学校教員に述べ23名している。

メディアデザイン学科では、急速に発展する情報化社会において、必要となる能力をバランスよく身につけます。実践的な授業で、プログラミングやネットワークなど、時代が求めるコンピュータの知識・技術を習得。さらにWebデザインや映像・グラフィックスなどのデジタルコンテンツ制作に必要なスキルも養います。また、情報化社会において、情報収集・データ分析・企画立案・プレゼンテーションの能力は、企業人として欠かせないものです。本学科では、経験豊富な教員のもとでの実践的な演習をとおして、あらゆる分野で即戦力となるデータ収集力・分析力・発信力を習得します。さらに、現代社会のさまざまな問題解決のための企画・立案・実践ができる能力をしっかりと身につけ、幅広い学びを社会にいかしていける実践的人材を育てます。そのために、地元企業や行政機関と連携した特色あるフィールドワークを数多く展開し、ICTスキルを活用した地域の課題解

決に取り組めます。

建築デザイン学科は、21 世紀のよりよい住まいの創造、即ち住生活空間をまちづくりや環境共生、インテリアなどの観点から、常にフレッシュな感覚を持って、総合的・実践的に指導する学科である。学科で作成した事業計画の方針を基に、毎年度の策定し掲げた施策を実行することとしている。課題・目標については、達成状況を PDCA サイクルにより改善・実行しつつ検証し、学長との会議に結果を報告している。また学生評価アンケートに応え、教育目的の達成状況の点検・評価を行い、自己点検・評価の結果は実現につなげている。学科カリキュラム以外である、建築士受験の夏季講座並びに通年行っている宅地建物取引士受験の国家資格講座も定着化、また 3D 建築模型制作の更なる技術の向上の取り組みや、就職支援に伴う学科独自の就職セミナーの開催など引き続き進めた。

心理学科では、複雑化する社会、特に教育、医療、福祉等の現場においてクローズアップされている心の問題に正面から取り組み、心のメカニズムや人間のとらえ方、対人関係のあり方、そして、カウンセリングやテストの技法などを具体的・実践的に学び、メンタルヘルスに関わる専門的知識・技能を習得する。優れた心理臨床家の養成と、学生の悩みに対するケアは本学科の重要な役割である。前者については、公認心理師試験の高い合格率や、OB の活躍ぶりをオープンキャンパス等において積極的にアピールしている。後者については、不登校経験者の比率が高く (42.7%と学内最高)、対応が不可欠となっているが、ハイブリッド授業の実施、情報共有の活発化などの対策により、中退率は学内平均を下回っている。

専攻科については、平成 17 年度から従来の家政学専攻科を人間生活学専攻科に名称変更し、これに伴って家政学専攻も人間生活学専攻となり、現在では児童学専攻と人間生活学専攻の 2 専攻となっている。これらの専攻科では、学部の内容を踏まえた上で、さらに内容の深化・発展を図ることになる。

なお、これらの学科(専攻科含む)で取得可能な免許・資格及び定員については以下の別表のとおりである。

表 1 取得可能な免許状・資格

学 科 名	取得可能な免許状・資格	入学定員	編入定員
人間生活学科	教員免許高一種・中一種(家庭・保健)、養護教諭一種、フードスペシャリスト、社会福祉主事の任用資格、医療秘書、福祉住環境コーディネーター、ファッションビジネス能力検定、二級建築士受験資格(実務 1 または 2 年)、上級情報処理士(N)、防災士	40	※
食物栄養学科	管理栄養士国家試験受験資格(実務経験不要)、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格、教員免許高一種・中一種(家庭)、栄養教諭一種、医療秘書	90	※

児童学科	教員免許小一種・幼一種、中学校英語二種、保育士、レクリエーション・インストラクター、スポーツ・レクリエーション指導者、准学校心理士、社会福祉主事、児童指導員、社会教育主事・社会教育士（養成資格）	70	※
メディアデザイン学科	教員免許高一種（情報）、上級情報処理士(N)、社会調査士、プレゼンテーション実務士、Web デザイン実務士	30	※
建築デザイン学科	教員免許高一種・中一種（家庭）、一級建築士受験資格（実務2年）、二級建築士受験資格（実務不要）、一級・二級建築施工管理技士受験資格、技術士補、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーター検定受験資格	45	※
心理学科	養護教諭一種、認定心理士、社会福祉主事・児童指導員の任用資格、医療秘書 なお、公認心理師、臨床心理士は大学院修士修了により受験資格を得られます。	80	※
※印の編入定員については、定員に余裕がある場合にのみ受け入れる。		(計) 355	

専攻科

専攻科	専攻	修業 年限	取得可能な免許状	入学 定員	入学 資格
人間生活学 専攻科	人間生活学 専攻	1年	教員専修免許/高・中（家庭） 養護教諭	8	大学 卒業者
	児童学専攻		教員専修免許/小・幼	6	

第3節 学部運営組織（各種委員会の構成）

人間生活学部における運営組織については、全教員が参加する学部教授総会、学部長および各学科長による学科長会議、各学科の教員による学科会議、ならびに役割に応じた各種の委員会（全学的委員会への参加および学部独自に設置された各種委員会）がある。

学部教授総会は第2火曜日に開催することを原則としている。

全学的委員会への参加を表1に、学部の各種委員会の構成を表2に示す。大学院等と学部を兼ねている教員もいるため、大学院等の委員会も含めて示している。なお、学部の「教員養成推進委員会」については、平成17年度に全学的な視点からの教員養成対策委員会並びに教員養成対策室が設けられたことから、従来の「教育実習委員会」をこれに対応させて「教員養成推進委員会」に名称変更した。

学部の各種委員会について、各委員は2年毎に交代することを原則としている。令和4年度の学部委員会は10の委員会から構成されており、それぞれにおいて選出された委員長（委員会によっては副委員長も選出）のリーダーシップの下に、学部教授会での決議事項等を踏まえて、その役割を果たしている。

各種委員会の会議については、委員会活動の課題に応じて適宜開催されるが、その具体的な活動内容については委員長が毎年3月末に学部長に報告することになっている。

表1 令和6年度委員一覧（全学的委員会）

人間生活学部
2024年4月10日現在

区分	学科		各学科委員						備考
	委員会		人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理	
全学的委員会	学生指導・支援協議会							中嶋	○ 学部学生指導委員会委員長とする。(任期2年)(小規模学科は1年)(R3年度メディア, R4年度:建築, R5.6年度:心理)
	人権教育推進委員会							阿波	○ 学部学生指導委員会から1名(任期2年, 小規模学科は1年)(R3年度メディア, R4年度:建築, R5.6年度:心理)
	紀要編集委員会					古本			○ 教育研究支援課の関係1名(大規模学科:任期2年)(R3.4年度:児童)(R5.6年度:、メディア)できれば博士号保有者。
	全学入試委員会						上田		* R2.3年度:心理学科, R4, 5年度:児童学科, R6年度:建築
	大学入学共通テスト委員							原田	* R2.3年度:児童, R4年度:メディア, R5年度:建築, R6・7年度:心理
	ハラスメント防止委員会	防止員			疋田				○ 学生部関係 R2.3年度:人間生活, R4.5年度:食米, R6・7年度:児童
		相談員		中川					○ 学生部関係 R2.3年度 メディア, R4.5年度:建築, R6.7年度:食米
	インターンシップ推進委員会		池添						○ 就職支援部関係 1名(任期2年) 30.R1年度:児童, R2.3年度:建築, R4.5年度:心理, R6.7年度:人間生活
	就職支援委員会			犬伏					○ 就職支援部関係 1名(任期2年) ○ 学部就職支援委員会委員長(R4年度:人間生活, R5.6年度:食米)
	教育開発機構	教務委員会						青木	○ 教務部関係, 学科長輪番, R3.4年度:児童(主要学科), R5.6年度:心理 ○ 学部教務委員会委員長とする。
		一般教育研究部会			藤村				○ 全学共通教育センター・語学センター関係(含む新入生教育) * 29年度:食米, 30.R1,R2.3年度:児童, R4.5年度:心理, R6.7年度:児童
		SD推進委員会		石堂					SD推進委員会設置要項にもとづき学長が指名する学部長
		FD研究部会		中谷					学部教育研究委員会委員長が兼務。(R3:児童, R4メディア, R5建築, R6人生)
	教職課程委員会			松本	三橋坂本			加賀谷	○ 教務部関係 4名(任期2年:R2.3年度) ○ 教職科目担当 3名(内2名は児童学科, 1名は心理学科) ○ 人生と食米(31, R2年度:食米)(R3, 4年度:人生)(R5, 6年度:食米)
	倫理審査委員会		高橋	石堂					○ 教育研究支援部関係2名(任期2年)(食米・石堂継続, 人生・高橋)
	研究者倫理教育委員会				松本				任期2年, R2.3年度:心理, R4.5年度:建築, R6.7年度:児童
	選挙管理委員会							原田	総務関係 1名(任期1年:隔年) R1.2年度古本 R3.4年度建築 R5.6年度心理
	退学者防止対策検討委員会		寺奥	釜野	岡山	長濱	川村	中嶋	各学科から1名
	広報担当委員会			栗飯原			岡松		学部広報委員会の正・副委員長とする(Hp等の作成)。 R2.3年度:人生・食米, R4.5年度:児童・メディア, R6.7年度:建築・食米
	認証評価委員会		竹内	増田	津守	篠原	山田	青木	R7年度第4回自己点検評価報告書の作成 R3年度自己点検評価の中間報告書を完成させた
	自己点検・評価委員会				前委員長 藤村	長濱			学部自己点検・自己評価委員会の委員長を各学科から選ぶ。任期1年。 委員会と協同して教育・研究年報を作成する。R4:食米 R5:児童 R6:メディア
	新入生セミナー運営委員会	2024年度実施	池添 中谷	吉村 栗飯原	定國 結城	加治 長濱	笠井 山田	新見 貴志	○ 各学科より2名を選出して構成する。(半数を前年度委員とする) ○ 任期2年。実施委員会(委員長は学部長)委員を兼ねる。
		2025年度実施	寺奥 池添	吉村 栗飯原	結城 上萩	長濱 山城	山田 岡松	新見 阿波	○ 任期は翌年の実施後のアンケート処理までとする。
	チーム医療促進委員会			増田				伊藤	委員長 * 医師, 管理栄養士, 臨床心理士各1名
	実験動物委員会			石堂					喜多委員長(薬学部)
	組み替えDNA委員会			石堂					石堂委員長 *
	○上記の委員は、各委員会に出席し、その内容を学部教授会において報告・連絡するとともに、必要に応じて議案を提出するなどして、それぞれの責務において速やかな対応を図るように努める。同時に、学部の関連する委員会とも密接な連携を図る。 * 学科長の意見を参考に学部長が指名する。								

表2 令和6年度委員一覧（人間生活学部各種委員会）

区分	学科 委員会	各学科委員						備 考
		人間 生活	食物 栄養	児童	メディア デザイン	建築 デザイン	心理	
人間生活学部委員会	教務委員会 (学科長)	竹内	増田	津守	篠原	山田	◎青木	○各委員は、所属学科のカリキュラムの実情を十分に把握したうえで学科間のカリキュラム調整を行う。 ○委員長は全学教務委員を兼ね他学部学科・教務部との調整をする。
	教育研究委員会 (FD研究部会) (各学科1名)	◎中谷	釜野	藤村	古本	上田	中嶋	○教員の研究発表会を運営する(発表者の選出、計画、実施) ○学生による授業評価や研究授業等に関する運営全般を行う。 ○図書購入の申請リスト作成等を行う(年2回)など。
	入学試験委員会 (各学科1名)	寺奥	近藤	上萩	長濱	◎上田	土中	○委員長は全学入試委員を兼ねる。 (R2.3年度心理・小坂、R4.5年度児童・津守、R6年度建築)
	自己点検・ 自己評価 委員会 (各学科1名)	高橋	犬伏	藤村	◎長濱	岡松	原田	○主要学科委員は自己点検評価書の作成を行う実施委員を兼ねる。 (年間を通じての計画作成・実施など) ○原則として、年1回(3月頃)報告書を作成する(授業評価、研究授業、研究発表、就職状況、各科スタンダードの達成状況、新入生のイメージ調査の概要、共同研究の概要、社会的活動や業績など)
	学生指導委員会 (各学科1名)	高橋	中川	松本	山城	川村	◎中嶋	○委員長は、学生指導・支援協議会の委員も兼ねる。 ○学生生活に関する各種調査を実施し、学生の生活指導に役立つよう、報告書を作成する。 ○クラス担任及びチューターの学生指導に関する内容をまとめたり、必要に応じて問題提起を行う、など。
	広報担当委員会 (各学科1～2名)	池添	○栗飯原	結城・定國	加治	◎岡松	福本	○委員長・副委員長は広報担当委員会の委員も兼ねる。 ○広報誌(専攻科、大学院含む)の作成を担当する。(入試広報部と連携) ○ホームページ(専攻科、大学院含む)の作成や修正を行い、常に新しい情報を収集して入試広報部に依頼しHPIに掲載する。 ○入試広報部と連携して高校訪問等の広報活動を企画運営する。
	教員養成対策委員会	竹内	◎石堂増田	津守	篠原	山田	青木	○学部長及び学部長をもって構成する。 ○委員長は学部長とする。
	教員養成推進委員会 (各学科1名)	寺奥	松本	三橋	山城	川村	加賀谷	○委員長は必要に応じて学部の教員養成対策委員会に出席できる。 ○委員会は教員養成向上のため、学部の教員養成対策委員会及び全学共通教育センターと連携を取り合っており、必要事項についての円滑な実施を図る。 ○各種の校外実習(教育・保育・臨地実習等)を充実させるため、教育実習の手引き等を参考に、その趣旨の徹底化を促す。 ○必要に応じてアンケート調査等を実施し、実習における事前・事後指導を含む問題点を明確にするとともに、その改善策を提示するなど。
	就職支援委員	中谷	◎犬伏	坂本	長濱	畠	渡邊	○委員長は全学就職支援委員会の学部委員を兼ねる。各学科1名。
	中期目標策定委員会	竹内	◎石堂増田	津守	篠原	山田	青木	○委員長は学部長が務め、委員は学科長が務める。 ○学園本部企画部の指示にしたがい2020年度から策定する。
	進路ウォーク委員	池添	栗飯原	結城・上萩	長濱	岡松	新見	○新入生セミナー運営委員会委員が兼務してよい。
	災害時初期対応者	竹内	栗飯原増田	三橋藤村	篠原	上田岡松畠	土中	選出条件:大学から近距離に住み、災害時に大学へ駆けつけられる。
	保護者会とりまとめ	竹内						○学科長1年任期 R3篠原 R4森岡 R5心理 R6竹内
	履修ガイド (学科長)	R6年度					青木	○学科長1年任期 R3河口 R4篠原 R5建築 R6心理 R7竹内
		R7年度	竹内					
○任期中に欠員が生じた場合、残任期間について補充することを原則とする。								
○各委員会においては、委員長及び副委員長を選出し、職務が円滑に遂行されるようにする。								
○各委員会の委員長は、年間の活動状況(委員会開催の日時、活動の概要、各委員の参加状況等)を別紙の様式にしたがって記載し、毎年学部長および自己点検・自己評価委員会委員長に提出し、「教育・研究年報」に活動状況を報告する(2月中に提出。R3年度は遅滞。)								
○全学的委員の交替については、原則として人間生活学科、食物栄養学科、児童学科、メディアデザイン学科、建築デザイン学科、心理学科の順とする。なお、各委員長は、学部教授会で必要に応じて当該委員会での報告等を行う。								

◎ 委員長 ○ 副委員長

第4節 学部各種委員会活動報告

4-1. 全学教務委員会

全学教務委員会委員長
青木 宏

令和6年度における全学教務委員会の概要は以下のとおりである。

第1回全学教務委員会（令和6年8月6日開催）

1 議事

- (1) ディプロマ・サプリメントの「社会人基礎力」測定結果について
- (2) 自己点検評価に対する学外からの「点検・評価」について
 - ・「三つのポリシー」「内部質保証」「入学者選抜」等の観点から点検・評価を依頼したが、改善を要する事項はなかった。
- (3) 学修成果に関する企業等からの意見聴取について
 - ・成績証明書よりも人間性を重視している企業が多い。
 - ・人材の定着への期待が強い。
- (4) 中途退学者の防止に向けた取組について
 - ・中退者は増加しており、全国平均よりも高い。
 - ・中退の理由は多様であり、学部、学科によって傾向は異なる。
 - ・個別的な働きかけを要するケースも多い。
- (5) 入所前教育の取組状況について
- (6) 学習ポートフォリオの「行動の記録記入」について

第2回全学教務委員会（令和7年3月6日開催）

1 議事

- (1) 三つのポリシーの変更（案）について（総合政策学部）
 - ・原案通り承認された。
- (2) ディプロマ・サプリメントの発行と教員コメントの記入について
 - ・今年度卒業生について未入力な場合は急いで入力すること。
 - ・今年度は卒業生がスマホで結果を閲覧できる。
- (3) 社会人基礎力（ジェネリックスキル）測定について
- (4) 中途退学者の防止に向けた取組について
 - ・中退は減少傾向にあるが、学科ごとにばらつきがある。
- (5) 令和6年度学習ポートフォリオ（行動の記録・平均時間数）について
- (6) ディプロマ・ポリシーの達成に向けた教育活動・学修成果の点検・評価（2024年度IR情報資料）について
- (7) その他

2 報告

- (1) 授業時間（日課）の変更について
- (2) 教育課程の変更について
 - ・短期大学部言語コミュニケーション学科
 - ・薬学研究科薬学専攻博士課程
 - ・理工学部機械創造工学科
 - ・理工学部電子情報工学科
 - ・理工学部ナノ物質工学科
 - ・総合政策学部経営学科

4-2. 教育研究委員会

教育研究委員会委員長

中谷 友机子

I. 委員会の目的

1. 図書（図書館収蔵）購入に関する事務を取り扱う：大学院生・学部生の勉学に資するため図書館の収蔵する図書を各委員から推薦して頂き、委員会がとりまとめて購入申請を行う。
2. 「新任教員の研究紹介」発表会（年1回）を実施する：学部に新たに着任された教員の研究領域、業績、今後の教育・研究の展望を発表して頂く会を実施する。
日時・場所の設定、発表者への依頼、抄録集の作成、当日の運営を行う。

II. 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。図書申請は大学院の図書も含まれるため、大学院担当の教員（各専攻1名）が必ず含まれることとする。
2. 令和6年度委員 釜野桜子（食物栄養学科）、藤村正司（児童学科）、古本奈奈代（メディアデザイン学科）、上田泰史（建築デザイン学科）、中嶋英治（心理学科）、中谷友机子（委員長・人間生活学科）
3. 担当：図書申請（学部：釜野桜子、大学院：藤村正司）
「新任教員の研究紹介」発表会（全員、進行係：中谷友机子）

III. 委員会開催の概要 第1回教育研究委員会

日時：令和6年6月4日(火)15時00分～15時35分

場所：1号館10階 中谷研究室の隣11002教室にて

出席者：釜野（食物栄養学科）、藤村（児童学科）、古本（メディアデザイン学科）、中嶋（心理学科）、上田（建築デザイン学科）、中谷（委員長・人間生活学科 記録）【敬称略】

■議事内容

1. 図書申請について

- (1) 学部及び大学院担当：学部担当／釜野先生、大学院担当／藤村先生
御快諾いただき、人間生活学部の取り纏め御担当いただく。

申請時期：学部教授会6月11日（火）告知

第Ⅰ期 6月12日（水）～7月12日（金）（7月10日（水）〆切とする）

第Ⅱ期 10月17日（水）～10月31（木）（10月29日（火）〆切とする）

第Ⅲ期（予備12月）第Ⅱ期結果で予算達成の為、無とする。

- (2) 予算：学部500万円，大学院70万円（令和5年予算の同額）

2. 新任教員の実績・研究発表会について

- (1) 発表者：8名（内1名は海外出張にて不参加）

食栄2名、心理1名、児童3名、建築デザイン2名（計8名）

- (2) 日時：令和5年度は9月12日（火）に開催しているが、日程は石堂学部長に確認する。

(3)場 所：図書館 AV ホール

(4)実施方法：発表 7 分、質疑応答 3 分

該当新任教員への連絡（委員長が連絡とプロフィール作成依頼）

3. 人間生活学部研究授業開催について

(1)各学科の研究授業選定及び日程決め（前期の場合日程、後期の場合大体時期で可）

(2)各学科委員から各学科の研究授業(担当者 1 名と日程)を委員長に連絡し、委員長が人間生活学部の研究授業計画について香川校事務局へ連絡する。

(3)研究授業内容は、普段の授業の中から選択して公開授業的に行う。

4. APLIN 受講の受講者選定や受講状況フォローについて

APLIN 案件について各学科の受講状況を安藝和加先生より御連絡があり、状況を把握する。結果、8 月 28 日(水)にて全員 APLIN 終了したことの御報告をいただく。

IV. 図書購入申請の概要

主に 6 月と 10 月の II 期で購入申請を行った。人間生活学部全教員からの購入希望図書を集約し、購入申請を行った。

予算執行金額：学部図書 5,000,000 円予算に 4,999,811 円（残高 189 円）、大学院図書 700,000 円予算に、699,967 円（残高 33 円）となった。

V. 活動のまとめ

図書申請と新任教員研究発表会を中心に活動を行った。図書申請については、購入希望冊数は、最終的にほぼ予算通りであった。新任教員の研究紹介については、日程を石堂学部長に御聞きし 9 月 10 日（火）実施した。本年度は対象者 7 名（1 名不参加）であり、9 月 10 日（火）学部教授会終了後より図書館 AV ホールにて実施した。

4-3. 入試委員会

入試委員会委員長

上田 泰史

I 委員会の目的

- ① 学生確保に方策を検討する。
- ② 人間生活学部における入学試験に関する事項について、学科間の意見を調整し、学部教授会にて承認を得る。
- ③ 全学入試制度検討委員会および全学入試委員会と人間生活学部教授会との円滑な情報交換を行う。
- ④ 学務入試グループと連携を図る。

II 入試委員会の活動概要

(1) 構成メンバー（要確認）（敬称略）

委員長：上田（建築デザイン）

委員：寺奥（人間生活）、近藤（食物栄養）、長濱（メディア）、上萩（児童）、土中（心理）、上田（建築デザイン）

全学入試委員会委員：上田（建築デザイン）

共通テスト担当：畠（建築デザイン）

(2) 主な作業

・入試要項の確認

各学科に入試要項の校正は教務課から各学科に依頼

・地方試験場派遣者の検討・決定

地方試験場派遣者の選出を各学科へ依頼、委員長が取りまとめを行い事務局へ報告

・入試問題仕分け作業

・各種入試志願者の情報確認

各種入試志願者の情報確認を各学科に依頼

・各種入試合否判定

各種入試の各学科の合格者受験番号、人数を確認し、委員長が確認し学部長承認

・全学入試委員会への参加

来年度入試改革の検討

・大学入試センター試験（共通テスト）業務

試験監督割り振り、試験会場準備、試験実施および実施後の処理など

・学務入試グループとの連携

総合型選抜入試面談日固定案の検討、共通テスト試験業務：準備、実施他

(3) 活動のまとめ

入試委員長および全学入試委員は、年度内に全学入試委員会に出席に加え、複数回行われる各種入試に対応を行った。人間生活学部は学科数も多く、複数回行われる地方入試へ各学科から派遣人数振り分け作業は複雑で、詳細な振り分け作業マニュアルが必要である。入試業務は多岐にわたったが、入試は作業ミスを起こさないように慎重に業務を行った。今後は、受験者・入学者が減少傾向にある中、各学科が取り組む効果的な対策法について情報共有の機会も必要である。

4-4. 学生指導委員会

学生指導委員会委員長

中嶋 英治

I 委員会の目的

全ての学生が学生生活の充実をはかり、実りある大学生活を送れるようにその方策を検討する。学生生活に関する調査を実施し、学生の生活指導に役立つよう報告書を作成する。

II 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。

2. 令和6年度委員

高橋昌江(人間生活学科)、中川利津代(食物栄養学科)、松本有貴(児童学科)、山城新吾(メディアデザイン学科)、笠井敬正(建築デザイン学科)、○中嶋英治(心理学科)
[○印：委員長] 【敬称略】

III 委員会開催の概要

1. 第1回

(1) 開催日：令和6年6月21日(金)(メール会議のとりまとめ)

(2) 議題：本年度の活動について

(3) 議事概要：本委員会の目的を確認の上、以下の事項について検討した。

本委員会は、メール会議の方式で実施する。前年度に引き続き、人間生活学部に所属する学生を対象にした学生生活に係るアンケートを実施する。新たに加えるべき項目の有無及びアンケートのスケジュール等については、次回以降の委員会において検討する。

2. 第2回

(1) 開催日：令和6年10月15日(火)(メール会議の取りまとめ)

(2) 議題：アンケートの実施スケジュール及びアンケート項目について

(3) 議事概要：例年どおり12月1日(日)から同月23日(月)までの間、全人間生活学部学生を対象にアンケート調査を実施する。アンケートの目的は、今後の授業の充実及び学生生活への支援に資する情報の収集とし、その項目については委員長案のとおりとする。アンケートの実施方法等については、委員の助言を得ながら委員長において検討する。

3. 第3回

(1) 開催日：令和6年11月11日(月)(メール会議の取りまとめ)

(2) 議題：アンケートの実施方法について

(3) 議事概要：人間生活学部教授会においてアンケートの実施を告知し、教員の協力を求める。対象の学生に対し学生ポータルサイトのほか、クラスルーム等で告知を行った上で、グーグル・フォームを活用したアンケートを実施する。回答状況を踏まえ、各委員は所属学科の学生への回答を促す働き掛けを行う。期間内における回

答数が少ない場合、その延長について検討する。アンケート終了後、委員会において結果を検討する。

4. 第4回

- (1) 開催日：令和7年1月24日（金）（メール会議の取りまとめ）
- (2) 議題：アンケート結果の検討、報告及び学生への告知等について
- (3) 議事概要：アンケートについては、期間内に691名（全体の（69パーセント）の学生から回答が得られた。得られた結果について検討し、＜添付資料＞のとおり取りまとめた。本結果については、令和7年2月に開催される人間生活学部教授会においてその概要を報告するほか、当委員会の活動状況とともに当学部「教育・研究年報」に掲載する。また、当学部教授会の了解が得られれば、関係部署にも参考送付する。当学部の学生に対しては、学生ポータルサイトへの掲示により公表する。

IV 総括

本年度は、前年度までのコロナ禍の影響を前提とした調査項目を排し、今後の授業の充実及び学生生活への支援に資する情報の収集を目的としたアンケート調査を実施した。

生活状況については、クラブ等への参加者が減少傾向にあり、アルバイトを理由にあげる者が最も多かったこと、休日はアルバイトをして過ごす者が最も多いことなどから、経済的な問題の把握が重要であることがうかがえる。また、体調不良なしと答える者の比率は半数強にとどまり、7.3パーセントの者は相談相手がいないとしている。心情面へのサポートを必要とする者を把握した上、適切に対応していくことが大切であろう。一方、保健センター相談窓口と合理的配慮に関する取組についての認知度はそれぞれ56パーセントと35.1パーセントであり、こうした支援策を周知することも求められる。図書館の利用について本年度新たに確認したが、ほぼ利用しないと答えた者が39.6パーセントに及んでいる。図書に触れることを促すような働き掛けの必要性がうかがえる。ポータルサイトを月に1,2回以下しか確認しないとした者は約30パーセント、グーグルメールを月に1,2回以下しか確認しない者は約10パーセントであった。入学後早期からこうしたサイト等の確認を習慣付けるような働き掛けが求められよう。

新ポータルサイトに関する質問に対しては、操作性に関する回答が多かったが、教員に対しては掲示の際に宛名等に誤りがないようにしてもらいたいとの要望があったことを付言する。本問も含め記述式の回答についてはその内容を確認し、今後の学生指導及び支援に役立てていただきたい。

本年度のアンケートへのご協力に委員会一同より各学部の先生方、学生の皆様に深く御礼を申し上げます。

<添付資料>

2024年度人間生活学部学生指導委員会アンケート結果

※ 質問番号の下の数値は当該質問についての有効回答数、無回答は集計から除く

Q1 あなたが所属する学科をお選びください。

1. 人間生活学科
2. 食物栄養学科
3. 児童学科
4. メディアデザイン学科
5. 建築デザイン学科
6. 心理学科

各学科の回答学生数と回答率				
学科	学生数	回答者数	回答率(%)	構成割合
1. 人間生活学科	109	62	56.9	9.0
2. 食物栄養学科	182	129	70.9	18.7
3. 児童学科	182	146	80.2	21.1
4. メディアデザイン学科	94	68	72.3	9.8
5. 建築デザイン学科	153	127	83.0	18.4
6. 心理学科	281	159	56.6	23.0
合計	1001	691	69.0	100.0

※ 学生数は2024年12月1日現在

Q2 あなたの性別をお選びください。

1. 女性
2. 男性
3. 答えない

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

Q3 あなたの現在の住まいをお選びください。

1. 実家
2. 下宿（一人暮らし）
3. 学生寮
4. 親戚の家
5. その他
(兄弟で同居、実家以外での家族との同居等)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

Q4 あなたの学年をお選びください。

1. 1年生
2. 2年生
3. 3年生
4. 4年生

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

Q5 クラブやサークルへの所属状況をお選びください。

1. クラブに所属
2. 同好会・サークルに所属
3. 以前は所属していたが、今は所属していない
4. 今まで一度も所属したことがない

2024年度

114 17%
114 17%
107 15%
354 51%

☒ 所属したことのない者の割合は増加傾向にある。

Q6 【Q5で、3.又は4.と答えた方にお尋ねします。】クラブ等に所属していない理由は何ですか。<23年度新規>

433 (記述式) アルバイトを理由挙げた者が112人、帰宅時間が遅れる・時間的余裕がない等の理由を挙げた者が77人、学業を理由に挙げた者が32人、学外における活動を挙げた者が15人であった。クラブ活動の内容等に関しては、興味を惹かれる活動がないとした者が110人、活動への負担・期待外れを理由に挙げた者が34人、入りそびれたとした者が18人であった。(複数の理由を一文で記載した場合はそれらを別々に集計)

☒ アルバイト時間の確保、通学時間とのかねあい、学業やその他の活動との両立の困難等が理由として挙げられる一方で、活動内容の多様性不足のほか、対人関係上の負担についてもその理由とされている。

Q7 【2年生以上の学生で、クラブ・サークル等に所属している方にお尋ねします。】クラブ・サークル等の活動で困っていることは何ですか(複数回答可)。

190 1. 毎年行っていた行事等実施できない 2.6
2. 活動場所を確保できない 5.3
3. 部員同士で連絡や相談ができない 4.2
4. 部員数が大きく減少した 25.3
5. 困っていない 63.2
その他 5.8

2024年度

206 30%
271 40%
201 30%

※複数回答可の場合は回答数全体に占める割合(以下同じ)

☒ クラブ活動等に関する困りごとは減少している。

Q8 あなたは本学において遠隔授業を受けたことがありますか。【3.と回答した方はQ10へ】

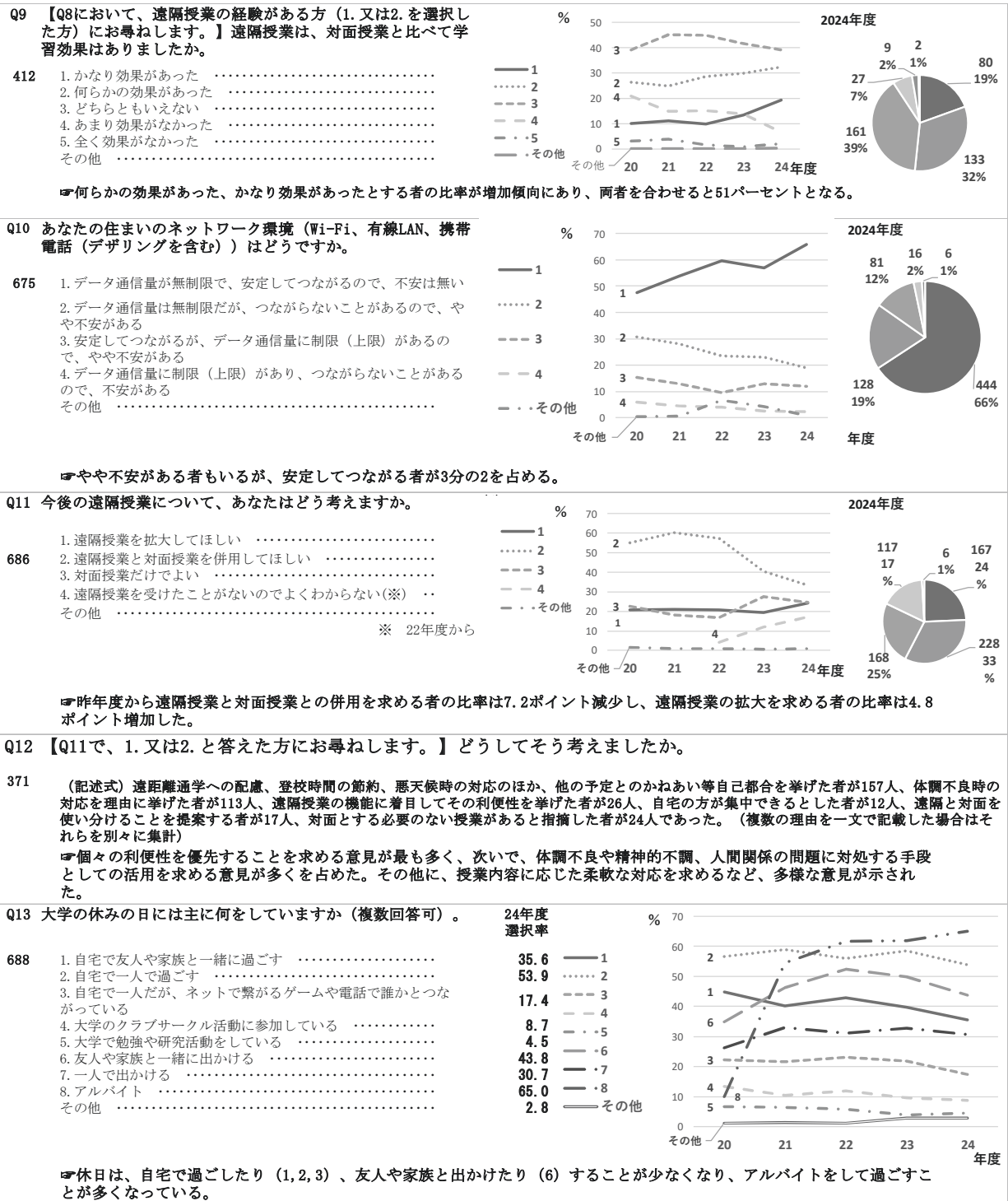
678 1. 本年度ではないが、受けたことがある
2. 本年度受けたことがある
3. 受けたことがない

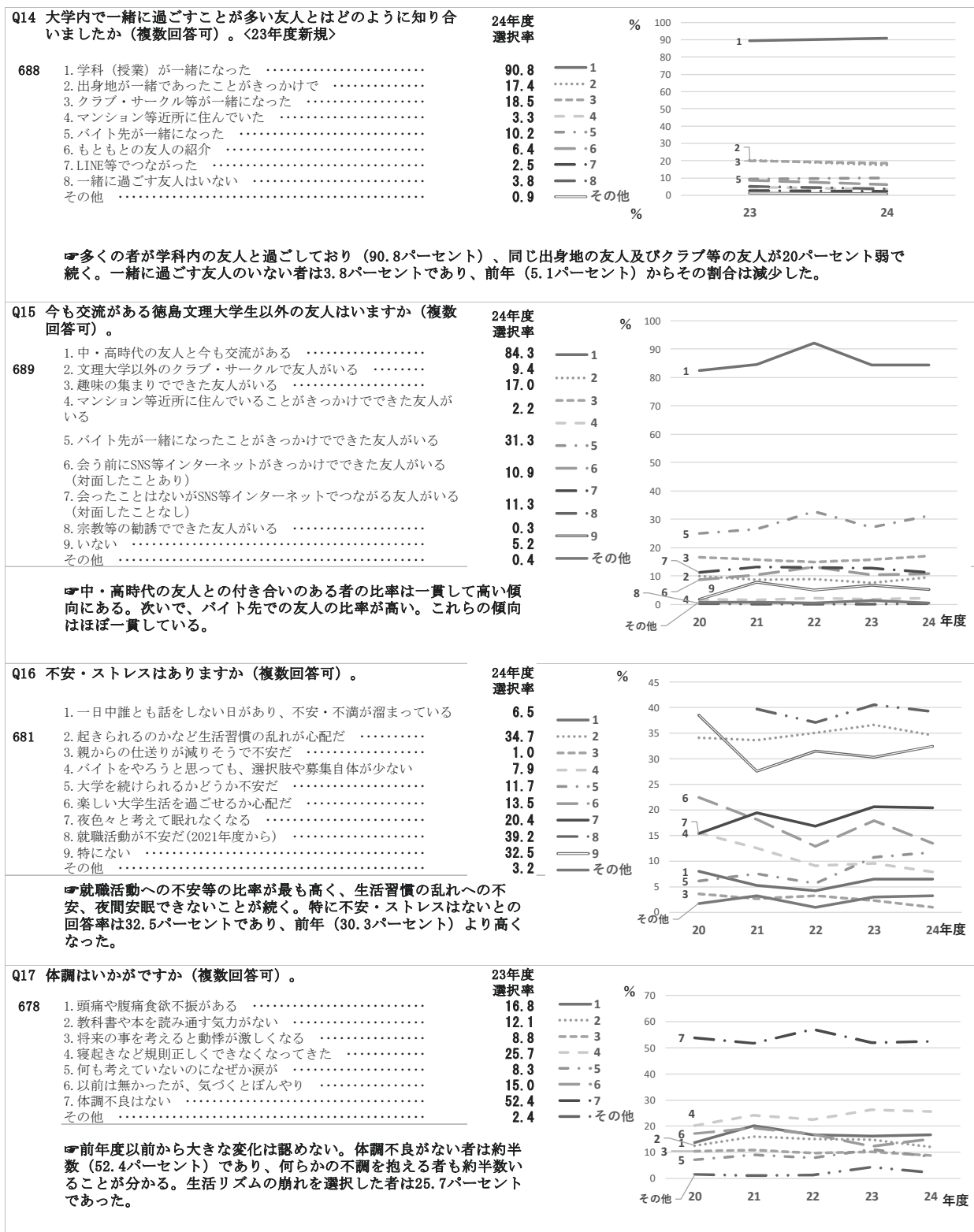
2024年度

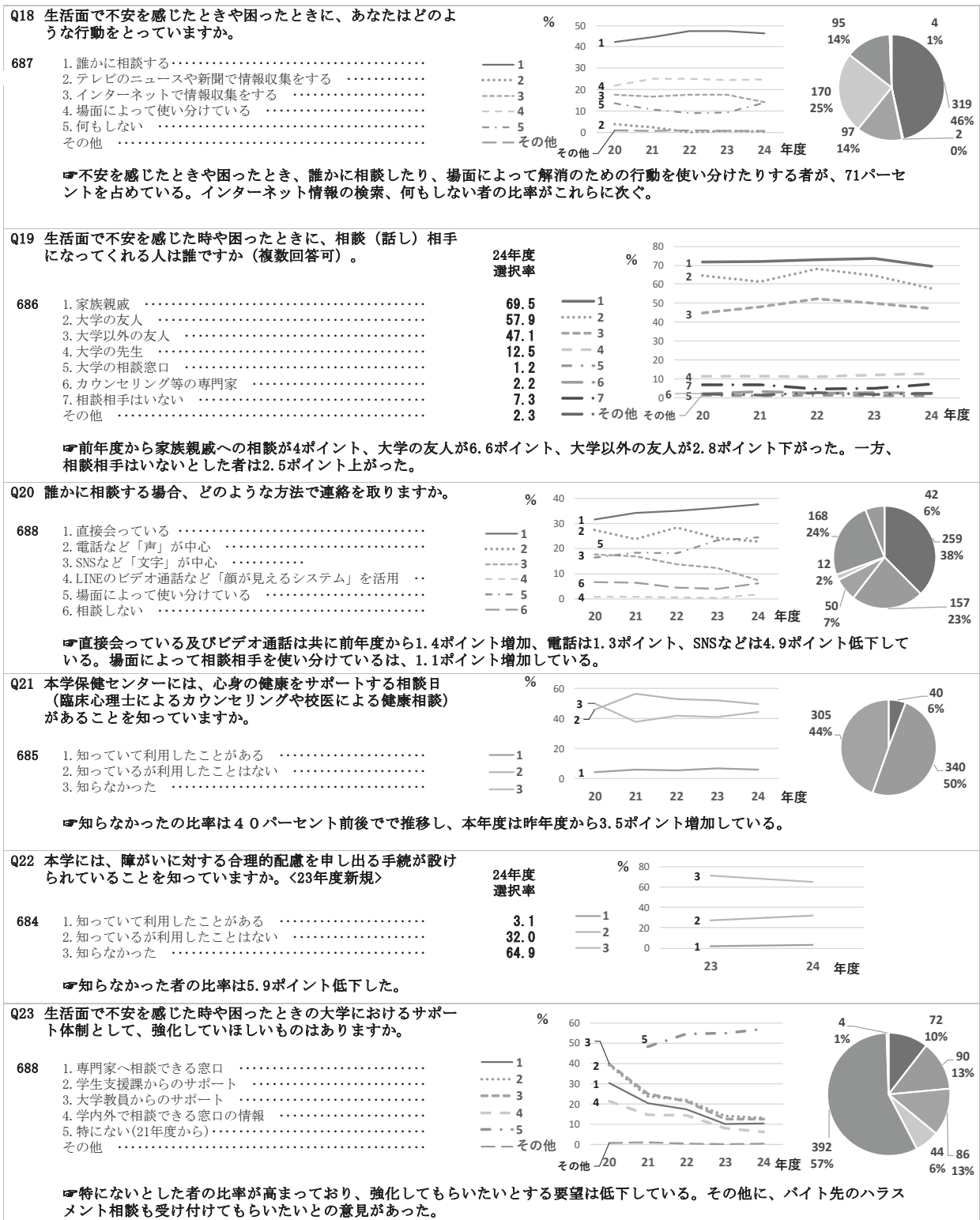
206 30%
271 40%
201 30%

※2022年度からの項目

☒ 前年度から各比率に変化は見られない。







Q24 アンケートの記載又は職員に対する直接の要望を行った場合、大学は対応してくれていると感じていますか。 ＜23年度新規＞	24年度 選択率	%
687 1.よく対応してくれる 2.対応してくれる 3.あまり対応してくれない 4.対応してくれない 5.要望をしたことはない	12.2 29.8 2.9 1.5 53.6	
☑ あまり対応してくれない及び対応してくれないの比率は合わせて4.4パーセントにとどまった。		
Q25 【Q32で3.又は4.と回答された方にお尋ねします。】それはどのような内容の要望でしたか。＜23年度新規＞		
18 (記述式) 既に行った要望への対応の有無を記載する項目である。要望の事実の有無は確認できないが、具体性のある意見を以下に記載しておく。 椅子が硬くて90分座っているのがつらい。／授業アンケートでクラスルームへの資料掲示を求めたが掲示されない。／授業中に書き込む文字が見えなかったり小さかったりするが改善されない。／セクハラ発言をする教員がいる。／車椅子を借りる手続きが煩雑で授業に遅れた際に遅刻扱いとされた。 ☑ 昨年度は3.又は4.と回答した34人のうち26人が回答した。本年度は30人のうち18人が回答した。意味の酌み取れない内容が多く、分かるものだけを列挙した。参考にしつつ職務に当たりたい。		
Q26 附属図書館の利用頻度はどれくらいですか。＜24年度新規＞	24年度 選択率	実数
687 1.ほぼ毎日 2.週に数回程度 3.週に1～2回程度 4.月に数回程度 5.ほぼ利用しない	4.4 7.4 10.8 37.8 39.6	30 51 74 260 272
☑ ほぼ利用しない者が39.6パーセントを占める。月に数回程度が37.8パーセントでそれに続く。週に1～2回程度以上利用する者は22.6パーセントとなっている。		
Q27 どのような方法で附属図書館の蔵書検索を行っていますか (複数回答可)。＜24年度新規＞	24年度 選択率	実数
684 1.当学HPから図書検索のページにアクセスする 2.附属図書館設置のコンピュータで検索する 3.附属図書館の書棚に行って直接探す 4.検索したことはない その他	23.4 30.4 24.1 41.8 0.9	160 208 165 286 6
☑ 検索したことのない者が41.8パーセントを占める。その他の検索手段は25パーセント前後であった。		
Q28 徳島文理大学ポータルサイトの確認頻度はどれくらいですか。＜24年度新規＞	24年度 選択率	実数
687 1.ほぼ毎日 2.週に数回程度 3.週に1～2回程度 4.月に1～2回程度 5.余り確認しない	12.1 33.9 24.0 18.6 11.4	83 233 165 128 78
☑ 月に1～2回程度確認する者及び余り確認しない者が全体の30パーセントを占める。他の者は週に1回以上は確認している。		
Q29 各学生に割り当てられたアドレス宛てグーグルメールの確認頻度はどれくらいですか。＜24年度新規＞	24年度 選択率	実数
687 1.ほぼ毎日 2.週に数回程度 3.週に1～2回程度 4.月に1～2回程度 5.通知がある都度 6.余り確認しない	37.8 24.6 15.1 4.1 11.4 7.0	260 169 104 28 78 48
☑ 月に1～2回程度確認する者及び余り確認しない者が全体の11.1パーセントを占める。他の者は週に1回以上は確認している。		
Q30 本年度から新たな徳島文理大学ポータルサイトの運用が始まりました。以下の視点を踏まえ、具体的な意見を自由に記載してください。①履修登録手続きについて／②告知機能について／③知りたい情報へのアクセス機能について／④その他		
291 (記述式) 【履修登録手続きについて】 ・同学部他学科の授業を受ける場合及び履修科目の単位数が40単位を超えた場合、従前どおり、ポータルサイトにおいてその申請が可能となるように改善してほしい。 ・既に取得している単位はシステム上登録できないようにすることにより、登録事務手続を効率化してほしい。		

- ・履修登録（後期）をしていると毎回ページの先頭に戻る点を改善いただきたい。
 - ・履修登録のための表の体裁が縦長になっており、登録を行う際に見づらいので改善していただきたい。
 - ・本年度の履修登録期間に登録したはずの科目の登録ができていない等のトラブルがあったが、次年度以降は解決していただきたい。
 - ・より適切に科目選択ができるよう、科目名とシラバスとをリンクしてもらいたい。
 - ・履修科目の選択には時間を要するが、全てを終えたとの誤解が生じる「保存」ボタンを活用するのではなく、「一時保存」のボタンを設け、登録の手続きをより円滑に進められるようにしてほしい。
 - ・履修手続きのとき、卒業までに不足している単位数とその科目名又は領域を知ることができるようにしてほしい。
- 【告知機能について】
- ・個人宛てのものや他学部の学生宛ての通知が届くことがあるので、教員等アップロードする側は注意深く告知の対象を確認していただきたい。
 - ・休講及び教室変更のお知らせについては、メールでの通知を行ってほしい。
 - ・成績が公表されたら、通知が来るようにしてほしい。
 - ・メール受信の設定がうまくいかず、告知機能を活用できない。
 - ・メール受信について、受け取りたいもの・受け取りたくないものを自分なりにカスタマイズできる機能があればよい。
 - ・大学全体のお知らせに下位項目（例：ボランティアの募集）を設け、より必要な情報を得ることができるようにしてほしい。
- 【知りたい情報へのアクセス機能について】
- ・シラバスや時間割等授業関係のものはひとつのカテゴリーにまとめて表示してほしい。
 - ・スマホ仕様となり便利になったほか、以前よりも動きが軽快になったことから、より快適に大学の情報にアクセスできるようになった。
- ・教科に関する表示がある場合は、併せて教室を表示してもらいたい。
 - ・出席回数や成績に関する情報へのアクセスが容易であり、便利になった。
 - ・教員検索が難しくなった。改善する場合は、メールアドレスとともに研究室も掲載してもらえればより有効に活用できる。
 - ・年間行事予定表や時間割等より基本的な情報が下位の項目にあり、ワンクリックではアクセスできない。
 - ・ポートフォリオや教職カルテへもスマホで入力できるようになり、とても便利である。
- 【その他】
- ・ポータルサイト全般についてのサイトマップを準備するほか、履修手続きに関するより分かりやすいマニュアルを準備し、告知してもらいたい。
 - ・使用の都度徳島文理大学のサイトに入った上で、パスワードを入れなければならない、アクセスに難がある。アプリ化を考慮してもらいたい。
- ・学校外の活動記録が全て消えるなどサイトに不具合が生じないように注意していただきたい。
 - ・電子、紙を問わず、課題提出の有無をポータルサイト内で確認できるようにしてもらいたい。
 - ・スマホで活用しているときにボタンが小さく、誤タップが多いので、改善してもらいたい。
 - ・教職履修カルテ等のシステムとの連携について、不具合が生じないようにしてほしい。

☑ 具体性のある意見を列挙した。

【まとめ】

- ・クラブ等に所属していない者の比率は高まる傾向にあり、その理由としてアルバイトを挙げる者が最も多かった。休日の過ごし方としてもアルバイトをして過ごす者の比率は増加傾向にある。学生が抱える経済的な問題へのきめ細かな目配りが必要となっている可能性がある。
- ・体調不良なしと答える者の比率は例年同様半数強にとどまる。何らかの心身の不調を訴える者は少なからずいるが、保健センター相談窓口のほか、合理的配慮に関する取組について知らないと答える者の比率は依然として高い。これら窓口について周知しつつ、引き続き個々の学生に対しきめ細かに対応することが求められよう。
- ・図書館の活用状況について確認した。ほぼ利用しない者が40パーセント近くを占めている。ネット検索等により情報を得られることも影響しているが、書籍になじむよう指導することも必要ではなかろうか。
- ・ポータルサイトについては、30パーセント程度の者が余り確認せず、グーグルアカウントへのメールも10パーセント程度は余り確認していない。新入時からこれらの使用方法について指導し、確認する習慣をつけてもらうことが必要であろう。
- ・今回新たなポータルサイトに関するアンケートを記述式で行った。使い方を十分に理解できていない者も多いため、これらの活用方法を周知して、利用を促していくことが必要となろう。一方、これらをより一層活用するためのさまざまな意見が寄せられた。学生がどのような問題意識を持っているのか、教員としてどのようにサポートすべきか、考えるヒントにしたい。

4-5. 広報担当委員会

広報担当委員会委員長
岡松 道雄

1. はじめに

人間生活学部広報担当委員会は、学部6学科で各学科から1,2名の委員により構成され、入試広報部との連携のもと、大学案内やウェブページの更新、各種広報活動を行っている。

令和6年度は下記要領で情報交換及び委員会を1回開催し情報共有を行った。

2. 2024年度 第1回人間生活学部広報担当委員会

日時：令和7年3月12日（水）11時00分～12時00分

場所：1号館10階 大学院講義室（11007）

議題：

1. 広報活動

委員会では、大学案内のデザインリニューアルにおける広報効果や広報活動に関する今後の取り組みについて意見交換した。また、学科独自に実施した広報活動の紹介などを各学科説明頂き、今後の広報活動について話し合った。各学科イベント情報の発信やホームページの記事更新の他、様々な取り組みを行っていることが報告された。その中で、大学案内冊子と大学ホームページの連携、四国や関西地方の他大学との差別化、各学科における特色づくりと高校へのアピールなど、総合的な戦略の必要性和重要性が共有された。

2. その他

昨年度から、ホームページ（大学公式ページ、受験生向けページ）など刷新された。また本年度は大学案内冊子のデザインも一新され、両メディアの連携を強化し、高校生や保護者に情報を発信するため、入試広報部とも連携し、様々な手段を講じて大学の魅力発信を継続する必要があることを確認した。

3. 各学科のホームページ投稿実績、新聞・テレビ・雑誌等各種メディアでの掲載・紹介実績、その他各学科独自広報活動（純粋な学外実習や社会貢献活動とは別）について、以下の通り報告があった。

【人間生活学科】

○ ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数（2024.4～2025.3末時点）

学科の特徴と魅力：学科イベント9，教員採用・就職：3，オープンキャンパス：2，学科紹介：1 計15件

※学科ページの最上部に、学科公式Instagramを表示するようにし、随時更新されるInstagramをホームページでも見られるようにした。

○ 新聞・テレビ・雑誌等各種メディアでの掲載・紹介

- ・授業「被服構成学実習」では、サステナブル社会を目指すために「デコリメイクチャレンジ展」に学生が毎年参加している。2024年度デコリメイクチャレンジ展において「特別賞」「コンテスト入賞」の2点を受賞した。また、同時開催の「2024年 OSAKA 手づくりフェア展」（会場：マイドームおおさか）において、人間生活学科のブース出展をし、学生が作った阿波晩茶や地元企業とコラボ企画した徳島おへぎの紹介や試飲・試食、その他ワークショップなど、学生主体で開催した。このコンテスト受賞やイベント開催の取り組みなど、学科の発信力が高く評価され、織研新聞（令和6年9月18日4面）に掲載された。

○ その他学科独自の広報活動

- ・学科広報誌を作成し、オープンキャンパスやブロック別進学説明会、各種イベントで配布した。
- ・人間生活学科オリジナルTシャツをオープンキャンパス・学外イベント等でスタッフが着用し、オリジナルうちわ及びクリアファイルを配布したりして、ロゴマークを活用した学科イメージを周知している。
- ・ブロック別進学説明会に参加する高校の出身者が本学科に在籍している場合は、学生の現状を知らせるチラシを作成し、出身校の先生に配布した。
- ・Instagramの更新を年間で約60回行い、フォロワー数を約470名へ増やした（昨年比70名増）。また、オープンキャンパス情報の広告を戦略的に行った結果、約5万6千回の閲覧（約3万4千リーチ）があった。
- ・2024年8月、教育実習と関連付けて高知県の高校2校（高知県立高知小津高等学校、高知県立幡多農業高等学校）を訪問し、学生の情報交換及び広報活動を行った。また、香川県の専門学科のある高校2校（香川県立笠田高等学校、香川県立石田高等学校）を訪問し、学科の魅力や特徴を担当者に直接伝えた。
- ・2024年9月6・7日に「OSAKA 手作りフェア展」に参加し、イベントを開催した。イベント内容は①学生が作った阿波晩茶の紹介・試飲、②学生と地元企業とコラボ企画した徳島おへぎの紹介と試食、③学生が指導するワークショップなど、3企画構成とし、学生主体で運営した。徳島の特産品に学生独自の発信力も加わり、学科の広報活動の強化となった。

【食物栄養学科】

○ ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数

（2024年4月～2025年3月時点）

もちっとむぎゅっとの会：11件

「もちっとむぎゅっとの会」の活動：「もち麦」を使用した活動に加え、亜熱帯地域で主に栽培されている植物の「モリンガ」に着目し、モリンガをより多くの人に知ってもらう活動も行っている。もち麦やモリンガのレシピ集の作成を軸として、学園祭、牟岐町産業祭への出店に加え、とくしまエシカルマルシェへの参加や、牟岐町ヘルスメイトさんとの連携イベントの開催など、精力的に活動を行った。

○ その他学科独自の広報活動

- ・ 県内外の進学説明会への参加し、高校の先生方に本学食物栄養学科のPRを行った。
- ・ 板野高校の進路ガイダンスとして模擬授業を行った（担当：釜野桜子先生）
- ・ 健康ランド（山城祭）10月26日、27日：地域住民を対象に、3年生がIn Bodyによる体組成の測定や、SATシステムを利用した食事診断、栄養相談などを行った。
- ・ 全国健康保険協会 徳島支部との共同企画により、「健康レシピ」として2年生の林さくらさんと、中山未紗紀さんが考案した「夏の健康レシピ（7月豚肉と夏野菜のネギ塩炒め）」が徳島支部のホームページに掲載された。

【児童学科】

○ ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数

「公立小学校・幼稚園教諭・保育士採用試験合格者数」速報をその都度更新（1）
学科情報（行事等）（9） ・ 交流活動（3） ・ オープンキャンパス（3）
計 16 件

○ 動画公開での広報活動

学科独自でYouTubeチャンネル「先生になりたい人たちの日常」の構成を変更し、持続可能な形で動画公開を実施。

学生生活，授業，地域参画，研究大会参加等の様子の動画を12本公開。

○ その他，学科独自の広報活動

- ・ 児童学科だよりの作成（隔月1回発行）
- ・ 児童学科の特徴と魅力を伝えるリーフレットを作成（A4版3面カラー両面）
- ・ 児童学科の先輩からのビデオメッセージをオープンキャンパス時に公開。
- ・ 高校教員対象進学説明会 学科紹介プレゼンを学生が製作して実施。
- ・ 児童学科独自に各種グッズを作成し、オープンキャンパス参加回数に応じて高校生に配布。
- ・ 児童学科オリジナルデザインのキーホルダー、クリアフォルダー等を作成しオープンキャンパスや高校訪問等で配布。
- ・ 県内の高等学校への児童学科だよりとリーフレットの配布。
- ・ 県内高等学校，中等教育学校等への訪問
- ・ 駅構内へのリーフレット設置・配布

【メディアデザイン学科】

○ ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数

新入生歓迎会：1 オープンキャンパス：3 地域連携取組：3 集中講義等：3 学内行事：1 その他：1
計 12 件

○ その他学科独自の広報活動

- ・ 学科の特徴と魅力をまとめた A4 チラシを作成し、オープンキャンパスや大学見学、さらに高校訪問で配布する等、広報に活用した。
- ・ 学科公式 Instagram で、令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 14 日までの間、7 件の投稿を行った。
- ・ 令和 6 年 8 月 26 日～29 日 前期集中講義（情報メディア論）でコミュニティ FM ラジオやケーブルテレビ番組の企画・制作について学んだ他、実際にラジオ番組（5 分間）を制作した。
- ・ 令和 6 年 10 月 13 日 「とくしま e スポーツフェスティバル闘電街 6」に出展し、「レゴブロックを使用したロボット制御体験」を実施した。
- ・ 令和 6 年 11 月 5 日 本学と徳島県警察との連携事業である「徳島県警察情報発信ウォッチャー」の委嘱式が行われた。
- ・ 「県警 HP の改善点文理大生が提案へ」の見出しで徳島新聞（令和 6 年 11 月 14 日）に掲載された。
- ・ 令和 6 年 12 月 5 日 徳島県人権啓発動画表彰式で表彰された。メディアデザイン学科 3 年生が専門ゼミナールで作成した動画作品が優秀賞と奨励賞を受賞した。
- ・ メディアデザイン学科で取り組んでいる「情報処理と分析力を兼ね備えたデジタル人材の育成」について、前期授業の専門ゼミナール I でアクティブラーニングを実施した。取組の内容について、オープンキャンパス等で紹介した。

【建築デザイン学科】

○ ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数

学科独自の就活セミナー開催について 2、学内行事の紹介 8、学外行事の紹介 2
オープンキャンパス 4、学外フィールドワーク・地域連携の取組紹介 3、
メディア掲載 2、授業の様子紹介 2、建築学会の活動 1
計 24 件

○ その他学科独自の広報活動

- ・ 2 年生を中心に取組む 3D プリンター活用の活動（日本を代表する世界的建築家、故黒川紀章氏が設計した旧山川少年自然の家（吉野川市、2006 年廃止）の図面をもとに、デジタルデータとして復活させ 3D プリンターで立体模型として再現する取り組み）が 10 月 22 日の徳島新聞に掲載された。
- ・ JAF と鳴門市うずしお観光協会が取り組む「鳴門市観光の魅力発見」（ホームページの刷新やドライブルートの開拓）のワークショップに参加した。本学地域連携センターが仲介役となり、建築学生が目線で鳴門市の観光資源について討議し発表し、その様子がケーブルテレビで紹介された。
- ・ 学生の在学中の国家資格取得支援として、「宅地建物取引士セミナー」に関する取り組みを行っていることを、オープンキャンパス、高校生の訪問等を利用して広報活動を行った。また、オープンキャンパス等の説明会においてもパワーポイント等により具体的な取り組み等についても積極的に広報活動を行った。
- ・ 将来の建築士資格取得にむけての支援として、「夏季 2 級建築士対策セミナー」を実施し

ており、そのことについての具体的な広報活動をオープンキャンパス等を通じて参加者に対して行った。

○ その他

- ・ オープンキャンパスでは、高校生やその保護者からの質問に対して、学生自身が直接回答できる機会を設けた。話しやすさかもあってか和やかな交流となり、有意義な時間を作れた。
- ・ 今後の入学者確保に向けて、学科会議で議論を重ねており、以下の方針を確認した。
 - 1) まず在学生に対して、建築を楽しく感じ、学ぶモチベーションを向上させること。
 - 2) 上記の様子を志願者（高校生）に向けて、様々な方法で発信する。
 - 3) 高校への進学説明時に、出身地域の課題を解決できる人材を育て、地域に返す方針を伝え、地方創生に貢献する教育方針を伝える。

【心理学科】

入学対象となる高校在籍者が減少の一途をたどることから、広報対象の間口を広げ、多様な方々に心理学科を知ってもらい入学してもらうための広報戦略の見直しを図っている。

- (1) オープンキャンパス・見学会・出前授業等においては、高校生やその保護者等に対して、個別のニーズに合わせ時間を掛けて丁寧に広報を行った。
- (2) “心理学は面白い”をキャッチフレーズとし、心理学の面白さや奥深さを可能な限り紹介し、心理学に興味を持ってもらうことに力点を置いた。
- (3) 心理学科紹介フライヤーの一部改正を行った。また、学科教員が徳島新聞で連載した「けい草を知る」シリーズの記事を配布資料として、高校生が抱える悩みや不安にカウンセラーが寄り添っていく姿勢を紹介した。併せて、心理学科が併設する心理相談室の活動内容等を紹介した。
- (4) 公認心理師や臨床心理士、養護教諭1種免許等、入学後の学びから取得できる各種資格を紹介するとともに、実習等においては、実践経験豊富なスタッフが個別にスーパーバイズを行っていくことを説明した。また、大学立地が落ち着いた静かな環境であることや教員が心理カウンセラーを兼ねていることを活かし、担任・チューターによるホローアップ機能には、時間を掛けた丁寧な関わりやカウンセリング的な個別的援助が得られることをアピールした。
- (5) オープンキャンパスの学科内見学ルートの充実化を図った。インスタグラムによる学科紹介ビデオの放映、各種心理検査の体験スペースの拡充、ビデオ視聴を取り入れた授業紹介、心理相談活動の実際体験等、心理学科のことが目で見て手にとって分かるような展示を工夫した。
- (6) 年齢や国籍に関わらない多様な学生の発掘に努めており、特に、社会人を経験してからの学び直しができること、大学院を併設していることを事あるごとに紹介した。結果、3年時編入生には、社会人経験者や中国籍の学生が年々増えつつある。

4-6. 教員養成推進委員会

教員養成推進委員会委員長

三橋 謙一郎

I 委員会の目的

教育実習等に関する資質や指導技術を確かなものするための具体的な方策を検討する。また、教員養成に関する資質や指導技術を確かなものとするための具体的な方策を検討する。

II 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。

2. 令和6年度委員

寺奥 敦子（人間生活学科）、松本 萬寿美（食物栄養学科）、◎三橋 謙一郎（児童学科）、山城 新吾（メディアデザイン学科）、川村 恭平（建築デザイン学科）、加賀谷 扶美世（心理学科）

〔◎印：委員長〕【敬称略】

III. 教員養成推進委員会の開催期日等

○ 本委員会の開催期日

日 時：令和6年5月28日（火）15：00～16：00

場 所：9号館10階（研究室⑥）

出席者：竹内 理恵（代理）、三橋 謙一郎（司会）、川村 恭平、加賀谷 扶美世（記録）

ゲスト：藤岡 秀行（教務課長）、板東 真也（教務課）【敬称略】

○ 本委員会の協議事項

本委員会では、本学の「教務部教務課」「全学共通教育センター」および「教員養成対策委員会」等と連携を取りながら、公立学校採用試験の前倒しをめぐる問題ならびに、教育実習等の訪問のあり方をめぐる問題について、協議を行った。

【議題1】 公立学校採用選考試験の前倒しをめぐる問題

◎ 結論 本大学としては早期化に向けて各学科で対応していく。

- ・文科省は早期化を図っており、来年度は5月11日に実施予定としている。
- ・教育実習の時期については学科に任せるしかないのではないか。各学科で独自の対応策を検討してほしい。
- ・教育実習を採用試験に重なることがないようにする必要がある。
- ・学生が実力をつけて採用試験を受ける、また実習先で実力を発揮できる学生を養成することが大事。
- ・教育実習等見直すにも限界がある。また、教職に関する単位が卒業単位となっているかどうかでも変わってくる。卒業単位に含まれない場合もあり、難しい。3年前期には行かせられない。

- ・児童学科は教職に関する単位が卒業単位となっている。
- ・児童学科では幼稚園と小学校、2つの実習に行っている。保育所は2年の夏休みに実習期間をとっている。
- ・幼稚園は3年の後期から。小学校の免許をとる人は、それプラスの実習となる。
- ・複数の免許を取得しようとしている人が問題となる。
- ・カリキュラムの問題が出てくる。ある程度力をつけてから実習に行くようにしないと、実習校に迷惑をかけることになる。また、これ以上学生が忙しくなるのはどうなのか、すでに学生は忙しい。
- ・児童学科は英語の2種がとれるが、英語検定で落ちるなど、あきらめる学生も増えている。
- ・建築学科は単位が取得できていないと、建築士の試験が受けられなくなる。教職員になろうとして入学する学生は少なく、建築士を目指す学生が多い。学科のあり方も考える必要がある。教育学科なのか、教員養成をするための学科なのか分からなくなっている。学生募集に係ってくる。
- ・生活学科は教員養成が半分ぐらいだが、なかなか受からない。家政学が中心となっており、合格できるように力をつけないと。何をする学科なのかが問われている。
- ・民間では現在、すでに半分が内定をもらっている。残りが昨日、本日試験というところが多かった。
- ・採用試験を6月に実施すると何が変わるのか。民間と重なって受験者が集まらなくなるのか。教育委員会の決定がとても遅い。民間は内定が出た時点で、勤務先、給与等いろいろと決まっている。教員は結局のところ3月まで何も分からない。試験だけ早めたところで、どうなるのか。大学があたふたするだけではないか。
- ・都道府県がバラバラに実施する中で、大学だけ変わるのもどうなのか。採用試験が遅いと民間に流れるのか。
- ・採用試験が遅いから民間に行くという人はほとんどいない。
- ・関連科目の持っていく方も検討する必要がある。教職の関連科目として設定しているが、単位が足りないために受講している場合もあり、迷惑をかけている。関連科目を単位として認めると、教員にはならないが、専門に興味をなくしている人など、それだけとりにいって卒業する人も現れるかもしれない。

【議題2】 教育実習等の訪問のあり方をめぐる問題

- ・電話連絡だけでも報告書を出すことになっているが、それを更に徹底してほしい。
- ・例年9割9分、実施できている。報告書の提出もある。中には、実習校に行ってクオカードを渡してきただけという人も過去にはいたようだが、この3年間はない。
- ・人数が多いと日が重なっていけないこともある。
- ・決まった人ができていない傾向がある。
- ・担任が行く場合、制度等がわかっていないので、なぜ行くのか説明する必要がある。学科が担当することではないという意見が出るかもしれない。どこまで学科であるのか方針を定める必要がある。
- ・実習校で話す内容については、春に実施する説明会でお知らせしている。

- ・研究授業は日程によって参加している。できるだけ調整して行くが、重なることがあった場合には 行けないこともある。
- ・実習先で聞くこととして、迷惑をかけていないか等、状況を確認する。学生とも話をし、研究授業の協議にも参加する。
- ・県外で実習をしている学生の中に、気になる学生がいる場合がある。現在は電話連絡だけをしている。
- ・予算の問題があるが、淡路島のような近いところだと、「見に来てほしかった」という話を頂いたこともあるが、どこまで広げることが難しい。原則、徳島県内は行く。この学生のためには行ったけれど、この学生のところには行かないのかとなった場合、「気になる学生なので」とは言い辛い。
- ・評価について、現場の点数を考慮してこちらで点数を入れているが、県によって異なる。沖縄が緩い。学生が勘違いするのではないかと心配する。
- ・実習先でのトラブルは、ここ数年は特にない。過去には、高校生に電話番号を聞くといったことがあった。また、同じ学園内で、反省会をしようと学生が誘われるといったこともあったようだ。
- ・出身校に実習に行っているので、実習校としても、言いにくいところもあると思われるが、実習に活かせる前に、指導しておく必要がある。

○ まとめ

【議題 1】について：本大学としては、克服しなくてはならない課題もみられるなか、とりあえず、公立学校採用選考試験の早期化に向けて各学科で、対応していくということに落ち着いた。課題としては、1) 公立学校教員採用選考試験が1か月早まった場合、教育実習と日程が重なる危険があること、2) 大学3年生から筆記試験の受験を可能とする（面接は4年生になってから）自治体も増えているため、大学3年生の筆記試験実施日までに、特に「教職科目」の授業を終えておかなくてはならないこと、3) 一般企業志望者と教員志望者の重複が少ないこと、4) 受験生が増えても、辞退者が増える可能性があること、5) 教師の業務量が多く、その処遇改善が遅れていること等の課題の解消に取り組む中で、公立学校採用選考試験の早期化を進めていく必要に迫られている。

【議題 2】について：学生の教育実習等の訪問に際して、挨拶・態度等の指導を徹底すること、教員の実習校訪問時に際しての、挨拶・きまり等の順守の徹底が求められる。特に、教員の実習訪問時の具体的な順守事項としては、次の点が挙げられる。1) 事前の電話・お礼の電話の徹底、2) 訪問時に大学が、学校側と打ち合わせる内容の充実、3) 県外の学校への丁寧な対応、4) 4週間の実習の場合は、2週間経過後に一度を入れて様子伺いをする、5) 各学部・学科がバラバラに訪問するのではなく、まとまって訪問の方がよいのではないか。6) 学校への連絡等については、教科担任等ではなく担任が連絡するケースが多い。しかし学科によっては、教員養成をわかっていない教員が、評価授業に行くということになると先方に失礼になる。この点への配慮も必要となる。7) 高校・家庭科の教諭がいない学校が増え、母校で教育実習を受けることができず、独自に実習先を開拓しなくてはならない。その分、評価授

業へ参加する必要があるなど、指導担当教員の負担は増加している。

本委員会は今後も、上述してきた議題を中心に真摯に取り組み、その解決に向けて次年度も継続して取り組んでいきたいと考えている。

4-7. 就職支援委員会

就職支援委員会委員長
犬伏 知子

1. 開催日時 令和6年7月5日（金）15:00～
2. 会場 徳島キャンパス学園長室
3. 出席者 委員長・田村学長，副委員長・石堂副学長，梶山副学長，薬学・張，総合政策・竹本，音楽・熊谷，保健福祉・舟井，文学部・近藤，理工学部・水野，香川薬学・石田，短大・川道，総務・平賀，教務・三屋田，情報センター，
有井，香川就職支援・横山，徳島就職支援・松山(司会)，事務局・佐尾山・福井，井内，中原，安藝，正村，山中，人間生活・犬伏（敬称略）

学長先生より，出口としての就職は大変重要である。セールスポイントとしてアピールしていく必要があるとお話があった。

当学部・学科での取り組みの現状と課題等について，次のとおり報告した。

就職支援委員会資料（令和6年度 人間生活学部 人間生活学科）

令和5年度人間生活学科就職支援状況

人間生活学科・R5年度卒業生は、就職希望者20名に対して就職した学生は18名となりました。進学した学生（1名）を含みますと19名となり、就職希望者（進学を含む）に対する就職率は95%という結果となっています。この就職率95%は昨年の就職率100%より低い数値と考えますが、20名の内に対して、その他の1名は就活中であり、就職を希望しないその他4名の内3名は、教員採用のために講師登録をし教諭を目指す者であり、また、1名は家事手伝いであり、令和5年度は、教諭就職希望者が12名志願しており、内、内定した学生は9名となっています。今後は卒業した後も教員を目指す卒業生に直接支援や指導の必要性があると考えております。

令和5年度人間生活学科における就職支援の課題、問題点

一般企業や公務員を目指す学生への就職支援の充実、中々企業から内定をもらえない学生の継続的な支援の強化、教諭志望の学生への教員採用試験対策と卒業後も教諭を目指す卒業生の直接支援の強化など、学生一人一人に対応していくことが重要であると考えております。

令和5年度卒業生就職状況（6月28日現在）

	就職・進学希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就職・進学希望者	20	一般企業	6	19
		家庭科教諭（正・臨含む）	4	

		養護教諭（正・臨含む）	5	
		公務員	3	
		進学	1	
		その他（就活中）	1	1
その他	4	その他（家事手伝い・受験者等）	4	4
学生数	24		24	24

令和6年度4年生現在の状況（6月28日段階予定者）

	就職希望者	内容	予定人数	就職決定者数
就職・進学希望者	29	一般企業	11	6
		家庭科教諭（正・臨含む）	7	未定
		養護教諭（正・臨含む）	9	
		公務員	1	
		進学	0	
		その他	1	
その他	0	その他（家事手伝い）	0	0
学生数	29		29	6

就職支援委員会資料（令和6年度 人間生活学部食物栄養学科）			
令和5年度食物栄養学科就職支援状況			
	R5年度卒業生は、就職希望者57名に対して実際に就職した人数は56名となり就職希望者に対する就職率は98.2%という結果であった。		
	食物栄養学科では、就職支援部と連携し学生への就職支援を行っている。就職先は、3月から4月は企業（食品会社）、3月から6月（委託給食）、6月から9月（教員採用試験）、10月以降に病院の募集があり、病院希望の学生の就職が決まるのが遅い。		
	臨地実習も3年生の後期試験終了後から始めているが、期間は4年生の9月中旬までかかる。国家試験が3月初旬にあるため、就職を早めに決めて、国家試験の勉強に集中するように指導しているが、実際は年明けまで就活を行う学生さんもある。求人が卒業生などから教員側に来た場合は教員間や就職支援と共有し、就職が決まっていない学生に声かけを行っている。		
令和5年度食物栄養学科における就職支援の課題、問題点			

	国試対策、臨地実習等と同時進行で就職活動を行うことに、精神的に弱い学生さんにとっては余裕がなくなり、ストレスをかかえてしまう事が課題である。また、管理栄養士資格の必要がない就職先に決まった学生さんのモチベーション維持も課題である。				
令和5年度卒業生就職状況(5月30日現在)					
		就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
	就職希望者	57	公務員	1	56
			病院	19	
			企業	19	
			児童福祉施設	3	
			介護保険施設・社会福祉施設	5	
			学校(栄養教諭・家庭科, 臨時)	5	
			一般事務(銀行等)	4	
	その他 ^a	3	その他 ^b	4	4
	学生数	60		60	60
その他 ^a : 家事(2), 体調不良(1)					
	その他 ^b :	その他 ^{a+} 就職活動中(1)			
令和6年度4年生現在の状況(6月14日段階内定者)					
		就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
	就職希望者	51	学校(栄養教諭・臨時, 学校職員)	0	22
			病院	3	
			企業	14	
			児童福祉施設	1	
			介護保険施設	0	
			一般事務(銀行等)	4	
	その他	1(休学中)	未定	30	30
	学生数	52		52	52

就職支援委員会資料(令和6年度 人間生活学部児童学科)

令和5年度児童学科就職支援状況

- ・児童学科として過去最高の公立保育園・幼稚園及び小学校現役合格者数(延べ32名)を達成することができた。(幼保6名、小26名)
- ・臨時教職員を含め教職に約73%の学生が就いたが、前年に比べると12%少なくなっている。(障害者施設志向も高かった)

令和5年度児童学科における就職支援の課題、問題点

- ・公立幼稚園・保育所・認定こども園の採用人数が年々減少していることや一般企業の内定時期が早まっていることから小学校の採用試験も早くなっており、対策が課題である。入学当初からの計画的かつ個別最適なキャリアデザインが求められると考える。

令和5年度卒業生就職状況(3月31日現在)

	就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就職希望者	71	公立小学校	31	71
		公立幼保	8	
		私立小・幼・保	15	
		公務員	0	
		企業等	17	
その他	3	進学その他	3	
学生数	74		74	71

平成5年度採用試験結果

公立小学校教諭	19名現役合格(31名中)
公立幼稚園・保育士	5名現役合格(8名中)

令和6年度4年生現在の状況(5月1日段階)

	就職希望者	内訳	希望者数内訳
就職希望者	60	公立小学校	24
		公立幼保	8
		私立小・幼・保	16
		公務員	4
		企業等	8
その他	2	進学その他	2
学生数	62名		62名

就職支援委員会資料(令和6年度 人間生活学部メディアデザイン学科)

令和5年度メディアデザイン学科就職支援状況

令和5年度卒業生22名のうち、就職希望者は21名、就職を希望しない者は1名でした。就職希望者21名に対し、実際に就職した人数は19名となり、就職希望者に対する就職率は90.5%という結果でした。

メディアデザイン学科では、各ゼミで指導するとともに、就職支援部にもご支援頂き、内定獲得に向け取り組みました。就職が決まらなかった2名についても積極的に働きかけてきましたが、自分のペースで就職活動したいという者、自分では動いていると言うが実際には動かない者等、それぞれの事情、理由により内定獲得には至りませんでした。

また、就職支援部と連携し、本学でメディアデザイン学科学生を対象とした会社説明会を5回開催しました。5社の採用担当者が来学し、企業説明だけでなく、業界や就活のコツを学生たちが直接得られる機会にしました。企業側と良好な関係を築き、今後の連携につながるステップとなりました。

令和6年度も同様の企業説明会を1回実施し、参加した4年生が内定を受けました。今後も順次開催する予定です。

令和5年度メディアデザイン学科における就職支援の課題、問題点

就職活動に消極的な学生への対策が今後の課題です。就職支援部と連携し、ゼミ指導教員やチューターが面談を行い、これまで以上に積極的に働きかけていく必要があります。

令和5年度卒業生就職状況（4月1日現在）

	就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就職希望者	21	情報通信	11	19
		商社		
		メーカー	2	
		流通	1	
		農業	1	
		その他	4	
その他	1	その他	1	1
学生数	22		20	20

令和5年度4年生現在の状況（6月28日段階内定者）

	就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就職希望者	17	情報通信	3	9
		商社		
		メーカー		
		流通	2	
		農業		
		その他	4	
その他	4	その他	4	4
学生数	21		13	13

就職支援委員会資料（令和6年度 人間生活学部建築デザイン学科）

令和5年度建築デザイン学科就職支援状況

R5年度卒業生は、就職志望者49名に対して実際に就職した人数は47名となり就職希望者に対する就職率95.9%という結果で100%を維持できませんでした。

建築デザイン学科では、学科独自の就職セミナーを、6月から12月まで毎月1回以上（夏・冬休暇を除く）合計10回程度、3年生を対象に開催を予定しております。セミナーに参加していただける企業も、現在40社に出席の返事を頂けており、参加企業は増える予定です。求人する企業から直接話を聞く貴重な機会であり、学生の就職に対する気持ちを高める結果になっていると思います。

R5年度に就職した学生では、今回、就職セミナーで来校していただける企業に15名の学生が就職しており、学科としては成果が上がっていると認識しております。

もちろん、来校しなかった企業についても、学生の就職希望地域や職種に対して直接支援も行っていく予定です。

令和5年度建築デザイン学科における就職支援の課題、問題点

R6年度卒業生の就職を希望する学生は、全員が就職できるように支援する。採用時期が早まっているので、対応が必要と思われる。

令和5年度卒業生就職状況（6月17日現在）

	就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就職希望者	49	ゼネコン・工務店	27	47
		ハウスメーカー	8	
		設計事務所	4	
		メーカー	2	
		官公庁	1	
		その他	5	
その他	3	進学・その他	3	3
学生数	52		50	50

令和6年度4年生現在の状況（6月18日段階内定者）

	就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就職希望者	42	ゼネコン・工務店	12	24
		ハウスメーカー	4	
		設計事務所	3	
		メーカー	1	
		官公庁	0	
		その他	4	
その他	1	進学・その他	1	1

学生数		43		25		25	
就職支援委員会資料（令和6年度 人間生活学部心理学科）							
令和5年度心理学科就職支援状況							
		・授業やクラスルームを通じて、求人情報を提供するとともに、面接や小論文等の就職試験対策を個別に行った。就職支援部の担当をゲストスピーカーに招き、現在の就職をめぐる実情を伝え、焦りや過剰なプレッシャーで動けない学生を減らすよう努めた（3、4年生）。					
令和5年度心理学科における就職支援の課題、問題点							
		・養護教諭や公務員のように採用数が少ない職業に執着し続けるのはリスクが大きいし、その方向にばかり指導するのは無責任である。現実の状況を踏まえて、セカンドベストを選択肢に入れるような指導が望まれる。また、試行錯誤しながら自分に向いた仕事を探すことの価値も強調すべきである。					
令和5年度卒業生就職状況（3月31日現在）							
		就職希望者		内容		確定人数	
						就職決定者数	
		就職希望者		56		56	
				養護教諭			
				公務員		4	
				非常勤教員・公務員		4	
				児童福祉関係施設		11	
				企業等		37	
		進学		8		大学院進学	
		その他		26		その他	
		学生数		90名		90名	
						56名	
（その他には、帰国予定の中国人留学生4名、大学院再受験予定者3名含む）							
令和6度4年生現在の状況（5月1日段階）							
		就職希望者		内容		希望者数内訳	
就職		60		養護教諭		17	
				公務員		12	

希 望 者		企業等	31		
そ の 他	17	大学院進学	15		
		未定	2		
学 生 数	77 名		77 名		

第2章 各学科スタンダード

第1節 人間生活学科

人間生活学科は、人の相互理解のもとに築く心豊かな生活と健やかで快適な生活環境の構築を求めて知識を深めるとともに、環境との共存を図りながら自己に適したライフスタイルを創造する能力と実践力を身につけ、豊かな教養とグローバルな思考力を持つ教員・社会人の育成を教育目標としている。

教育内容は「生活経営学」「食物学」「被服学」「住居学」「コミュニティデザイン」「保育・保健・養護学」の各分野から構成され、それぞれ、総論から各論へ、基礎から専門へと学びを深めていく。授業形態は講義、実験、実習、ゼミナールからなり、アクティブラーニングの手法を取り入れるなど多様な手法で展開されている。

また、カリキュラムは、家政学の学問領域と将来の進路を融合させた教育内容から構成される3つのフィールド（教員養成、ビジネスキャリア、コミュニティデザイン）を設定している。

本学科で取得できる教員免許は、家庭科および保健科の中学校教諭一種免許・高等学校教諭一種免許と養護教諭一種免許である。資格は、フードスペシャリスト、医療秘書、社会福祉主事任用資格、二級建築士（受験資格）、上級情報処理士、福祉住環境コーディネーター、ファッションビジネス能力検定、防災士などがあり多様である。どの免許・資格も現代社会においては非常に重要な役割をはたす資格であり、学生の興味・関心・適性に応じた個別指導を行うことにより、自己の専門性を確立させ、自立した生活者としての幅広い知識と応用可能なスキルを習得させることを目指している。

カリキュラムの改訂を進めたことにより、他学科との連携が強化され、人間生活学科の教育内容はさらに深化したと言える。来る「人生100年時代における生活の質向上」を視座に据え、従来の教育内容に加え「環境」「健康」「福祉」「国際」そして「防災」の領域から生活研究を多面的に追究する学科として歩み続けたい。

- (1) 家庭科及び保健科の中学校一種・高等学校一種、養護教諭一種の教員免許を取得し、社会の変化に柔軟に対応でき、豊かな教養と包容力を持つ教員の養成を目指す。
- (2) 医療秘書、フードスペシャリスト、福祉住環境コーディネーター、ファッションビジネス能力検定などの資格及び他学科の講義を受講・受験することで取得可能となる二級建築士（受験資格）や上級情報処理士などの資格と、得られた知識や技能を活かして、ビジネス社会において主体的に活躍しようとする学生の育成を目指す。
- (3) 地域の課題解決に興味・関心・意欲を持ち、フィールドワーク等を通じて積極的に関わることによって得られた知見を活かして、地域社会へ貢献する気概を持つ学生の育成を目指す。
- (4) 大学院や専攻科への進学を希望する学生には、十分な学術研究能力と教育実践力の育成を行う。

第2節 食物栄養学科

管理栄養士は栄養を通して、「ヒトの健康」を維持管理するプロフェッショナルである。そのために、本学科では栄養や保健・衛生に関する高度な技術をもつとともに、病院、学校、食品会社といったさまざまな職業にあわせた知識を身につけ、食を通じて人々の健康や栄養管理をサポートする人材を養成する。すなわち、管理栄養士として、病者や高齢者はもちろん、健常者に対しても栄養指導や給食管理を行い、そのために、栄養や食品・病気などに関する専門的な知識をもち、個人や集団に対して食の専門家としてサポートできるプロフェッショナルを育成する。また、小・中学校で、児童・生徒のアレルギーや食生活・栄養などについての指導を行い、保護者の方々と連携して食育を推進するプロフェッショナルを育成する。また、中学・高校の家庭科の教員として生徒の指導にあたり、学級担任として学級指導をしていく力を育成する。いずれにおいても、食を通してヒトの健康や栄養管理をサポートする「食と健康」のプロフェッショナルでなければならない。

この目的のため、四年間を通して、栄養学を意識した「人体の構造と機能」や「ヒトの健康と疾患」、つまり解剖生理学、病理学、臨床栄養学を深く学ぶ。これらに加えて、低学年で食品学や食品加工学、食品衛生学、給食管理、調理学について学び、高学年で個人および集団に対する栄養教育・指導を行うために、公衆栄養学や栄養教育論を学ぶ。さらに、HACCP 対応給食実習室での給食経営管理実習により実践力を身につける。学内での実験・実習に加えて、三・四年次には、四週間、総計 180 時間におよぶ病院での臨床栄養学臨地実習、保健所での公衆栄養学臨地実習、給食施設での給食の運営臨地実習・給食経営管理臨地実習により、実際に管理栄養士が活躍する現場を経験し理解を深める。

社会に出て管理栄養士として活躍するためには、厚生労働省が実施する管理栄養士国家試験に合格し、管理栄養士免許を取得しなければならない。そのために、国家試験に合格できる学力をつけることを教育目標とする。国家試験対策として、次の①～③を行う。

- ① 模擬試験の実施とその結果分析、そして事後指導（PDCA サイクルの強化）を行うためにゼミナール形式の少人数指導を行う。
- ② 演習科目により講義内容の理解をさらに深める。
- ③ 自習室を積極的に利用して学生同士で教え合う環境を整備する。

一方、研究職や大学教員を目指す学生の育成にも努め、研究能力涵養のために卒業研究において研究能力の基礎を教育・指導する。さらに大学院人間生活学研究科・博士前期課程・食物学専攻および博士後期課程・人間生活学専攻において、より深い研究能力を修得させる。また、リカレント教育の一環として教員経験者を社会人大学院生として受け入れ、教員専修免許（家庭科・栄養教諭）取得を目指し教育を行う。

第3節 児童学科

今日の教育界においては、「いじめ」「不登校」「体力低下」「児童虐待」「子どもの貧困」等が社会的課題となっている。このような状況の中、児童学科では教育学、心理学、保育学、ICT 活用力等の学びから、多様な教育・保育ニーズに理論的、実践的に対応でき、さらに、豊かな感性、コミュニケーション能力を持つ教員・幼稚園教諭・保育士等の養成を目指している。また、令和6年度からは、全学年希望者を対象に「子どもの学び支援実習」を開設し、Social Emotional Learning (人間力) 育成のための理論と実践の学びを深めている。

(1) 小学校教諭1種免許取得、中学校英語2種免許取得、幼稚園教諭1種免許取得、保育士資格取得

現在の小学校や幼稚園、認定こども園、保育園での多様な課題に柔軟に対応し、専門的知識と子どもの思いを大切にした優しさと豊かな教養を持つ「子どものプロ」としての教員・幼稚園教諭・保育士の育成を目指している。また、こうした免許・資格を生かして、社会の変化に柔軟に対応できる児童福祉施設職員や公務員などの育成も目指している。

(2) 准学校心理士資格、レクリエーション・インストラクター資格、スポーツレクリエーション指導者資格の取得

子どもや保護者の心の理解とサポートのための准学校心理士資格の取得を通して、心の健康や不登校問題等に適切に対応できる力の育成を目指している。また、子どもの健康と楽しい学び、人間関係づくりやコミュニケーション能力育成のためのレクリエーション・インストラクターやスポーツレクリエーション指導者資格の取得により、小学校・幼稚園・保育園のみならず、地域の活動にも貢献できることを目指している。

(3) 教育実習（小学校・中学校・幼稚園）・保育実習・施設実習・介護等体験の実施

多様な実習体験を通して専門的実践力の向上を図るとともに、社会人としての資質・能力を身に付けることを目指している。

(4) 各種ボランティア活動への参加

地域の多様なボランティア活動に参加することにより、地域貢献へのやりがいとコミュニケーション能力、人間関係づくりの力の育成を目指している。

(5) 今日の課題としての情報教育の推進

「教育方法・技術論（情報通信技術の活用を含む）」「情報処理」等の科目を開設するとともに、1人1台のタブレット端末環境を整備し、ICT機器を実践に有効活用できる力を育成している。

第4節 メディアデザイン学科

メディアデザイン学科では、デザイン能力を「問題を解決する能力、新しい価値を創出する能力」と捉え、メディアテクノロジーを活用することで新しいデザインを提案できる人材を育成する。具体的には、現代社会のさまざまな問題解決のための企画・立案・実践を行うことのできる能力を習得することを目的とする。ここで言うメディアテクノロジーとは、映像などのデジタルコンテンツの処理、プログラミング、Web サイト、Web アプリケーションの開発、ネットワークの構築・運営・管理、社会調査データなどの統計分析を指す。

また、当学科では、社会で求められている能力「各個人は、人材市場でどの程度の価値を持ち、通用するのか判断できる」、「人材を求める企業は、人材戦略を明確に立案できるようになる」(IT スキル標準 ITSS)」も視野に入れ、次のような資格に裏付けられた人材養成を行う。

- 1) IT 専門職：「IT スキル標準」は知識だけでなく実務能力の評価指標であるため、当学科では知識を主体とした資格取得を目標とする。上級情報処理士[®]、プレゼンテーション実務士、Web デザイン実務士資格の取得、IT パスポート試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者高度試験、MO S (Microsoft Office Specialist) 試験の合格を目指す。
- 2) 高等学校教諭：平成 15 年度から始まった高等学校「情報」の授業の教育者として、情報社会における IT やセキュリティ、情報倫理、著作権などを学び、人間性豊かなコミュニケーションができる人材を育成する。
- 3) 社会調査士：社会調査士認定協会の認定が始まった初年度（平成 16 年）から、資格を取得できる体制を整えた。調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を学習することにより、基本的な調査方法や分析方法の妥当性、問題点の指摘、提言ができる実力を養う。

カリキュラムは、①情報領域、②コンテンツ領域、③データサイエンス領域、④共通領域の4領域で構成される。

また、講義の中で業界第一線の知識・技術に触れ、外部講師による専門的な経験談を取り入れ、学生のスキル向上を図るとともに、学士力の向上に努める。

第5節 建築デザイン学科

日本の建築における課題は、豪雨、台風、地震や津波などの自然災害が多く、安全で優れた建物をつくる技術の向上がますます求められている。また同時に、エネルギーを浪費せず、環境に負荷をかけず、生活に快適さをもたらす建物の室内環境調整の技術やインテリアデザインも大切であり、合わせて、建物に美しさも期待されることも求められている。さらには、高齢社会をむかえ、誰もがスムーズに使える住宅や公共施設のユニバーサルデザインも要求されている。

従って、建築デザイン学科は建築・インテリアデザインの専門家として、このような多くの課題をかかえる社会に貢献する知識や技術をもった、人間性豊かな人材の育成を、教育のねらいとして位置付けている。

人間生活学部に属するメリットを生かして、人と生活と環境を大切にし、建築の3大要素である「強・用・美」をそなえる、建築・インテリアデザインの実現をめざし、課題を解決できる創造力を持った人材を育成している。

教育は、講義とともに、製図、CAD、模型製作、建築材料実験などの実習・演習を展開し、カリキュラムツリーにしたがって系統的におこなわれている。

建築デザイン学科では、次のようなスタンダード（学習到達水準）を設けて教育にあたっている。

- (1) 専門分野の基本的な知識と考え方を身につける学修環境を目指す。
- (2) 自己の考えを的確に表現し、円滑なコミュニケーションのできる学修環境を目指す。
- (3) 都市や地域の歴史・環境・計画についての基礎知識を持たせる学修環境を目指す。
- (4) 建物の室内環境調整についての基礎理論を習得させる学修環境を目指す。
- (5) 木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造の建物の施工や材料について基礎知識を持たせる学修環境を目指す。
- (6) コンピュータについて、建築系の実務に必要な基礎知識と自由に操作することができる能力を持たせる学修環境を目指す。
- (7) 建築士に必要な実務的知識と設計製図能力を習得させる学修環境を目指す。
- (8) 戸建住宅および小規模建物の基本的な建築計画・設計・施工管理ができる能力を持たせる学修環境を目指す。
- (9) 中学・高校の家庭科教員に必要な住生活に関する知識の基礎的事項を習得させる学修環境を目指す。

第6節 心理学科

心理学は人間の心の機能（知・情・意）とその表れである行動についての学問であり、人間行動のあらゆる領域をその対象としている。基礎的な生理的反応や知覚の領域から、カウンセリングや心理療法といった対人支援の領域、また、生産性の向上や組織運営のあり方といった産業領域での活用、地域社会や環境との関わりまで含めたコミュニティ心理学など、非常に幅広い学問である。

ヒトは社会的動物であり、人との関わりの中で人間として成長し、人が作る社会の中で生きていく。心理学は人としての基礎教養であり、また、それぞれの職能領域で「こころの専門家」としての活躍が期待されている学問でもある。心理学科においては、「心理学概論」「知覚・認知心理学」「学習・言語心理学」「神経・生理心理学」等の基礎的領域から「健康・医療心理学」「産業・組織心理学」「司法・犯罪心理学」「心理学的支援法」等の応用領域へと、幅広い領域の心理学を段階的に学べるようにカリキュラムが編成されている。また、「心理学実験」や「心理検査実習」「心理療法演習」などの体験・参加型授業によって、知識のみでなく、心理学的技能の習得を図っている。

心理学科は、卒業後の就職および進学に関連して資格取得という点から、3つの特徴ある目標指向プロセス（Goal oriented process）をもっている。これはコース編成というよりもキャリア選択に向けての具体的な指針であるので、余裕のある学生は（1）～（3）の複数の目標をもって大学生活を送ることができる。

（1）一般企業、公務員等 （標準心理プロセス）

人間関係が希薄になっている現代社会において、心理学を専門として学んできたこと自体が一般企業や公務員として好印象を持たれることは間違いないが、一般企業の会社員や一般公務員として社会の中で種々の役割を担うにあたって、心理学全般の基礎的知識・能力を認定するものとして、「認定心理士」と「心理学検定」がある。所定の科目を履修することで「認定心理士」の資格取得が可能である。また、在学中に「心理学検定」の受験が推奨されており、検定資格の取得を目指すことができる。

（2）養護教諭一種免許取得 （養護心理プロセス）

養護教諭は児童・生徒の心身の健康を担う教諭であるが、心理学科では特に「こころ」の健康に貢献できる養護教諭の養成を目指している。教育現場では、不登校やいじめなど心の問題を抱えた児童・生徒への支援が保健室の大きな役割になっており、身体的な知識に加え、心理学の専門性が必要とされている。

（3）大学院進学と資格取得 （臨床心理プロセス）

心の専門家に関する国家資格への社会的な要請は強く、公認心理師法が成立した。本学科では、スタッフならびに実習先確保等万全の態勢で養成を始めており、大学院修士修了が国家試験・受験資格の要件なので、学部・大学院が揃っている徳島文理大学は国家資格を目指すには非常に良い環境だと言えよう。今後、医療や種々の心理相談機関において心理専門職として認められるためには、公認心理師あるいは臨床心理士の資格取得が望まし

い。臨床心理士については、指定大学院卒業が受験資格とされており、本学大学院は臨床心理士養成第1種指定校である。

第3章 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果

2024年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果										人間生活学部 人間生活学科	
性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	24
	1	28			1	28	0	0	0	回答数	29
卒業後の進路	就職	進学	未定		あなたの成績について 一番多かったのは		優	良	可	回答率(%)	120.8
	25	0	4				12	16	1		

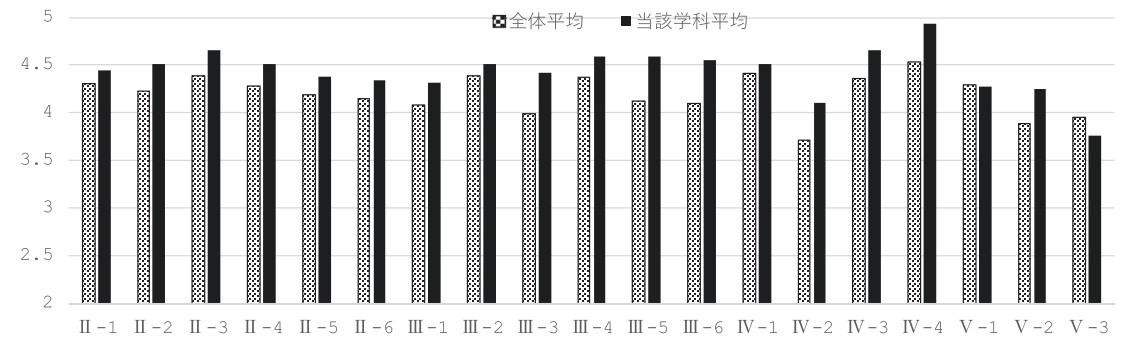
II. 授業・教育課程について（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	16	10	3	0	0	4.45
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	17	10	2	0	0	4.52
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	20	8	1	0	0	4.66
4	教育に対する熱意は感じられましたか	15	14	0	0	0	4.52
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	16	8	5	0	0	4.38
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	15	11	1	2	0	4.34

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	14	11	3	1	0	4.31
2	図書館は利用しやすかったですか	21	4	2	2	0	4.52
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	16	11	0	2	0	4.41
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	18	10	1	0	0	4.59
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	20	6	3	0	0	4.59
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	21	4	3	1	0	4.55

IV. キャンパスライフについてお尋ねします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	16	12	1	0	0	4.52
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	14	7	5	3	0	4.10
3	頼りになる教員に出会えましたか	23	3	2	1	0	4.66
4	よき友と出会えましたか	27	2	0	0	0	4.93

V. 総合評価をお願いします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	14	10	4	1	0	4.28
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	13	12	2	2	0	4.24
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	9	10	7	0	3	3.76

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2024年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果	人間生活学部 食物栄養学科
--------------------------------------	---------------

性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上		対象者数	59
	9	42			0	50	2	0	0		回答数	52
卒業後の進路	就職	進学	未定		あなたの成績について 一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	88.1
	49	0	3					22	20	10		

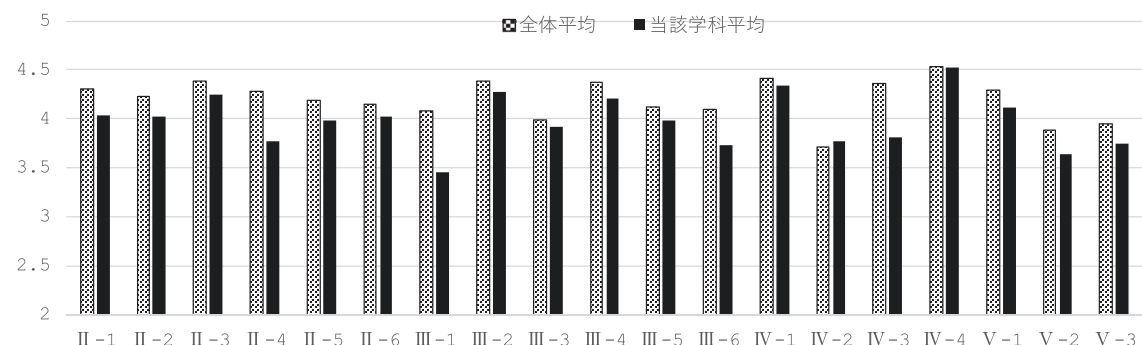
Ⅱ. 授業・教育課程について（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	17	23	10	1	1	4.04
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	15	27	7	2	1	4.02
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	24	19	7	2	0	4.25
4	教育に対する熱意は感じられましたか	11	24	12	4	1	3.77
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	17	22	9	3	1	3.98
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	16	22	13	1	0	4.02

Ⅲ. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	13	17	8	9	5	3.46
2	図書館は利用しやすかったですか	26	16	8	2	0	4.27
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	20	17	9	3	3	3.92
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	22	21	7	2	0	4.21
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	16	25	7	2	2	3.98
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	15	18	12	4	3	3.73

Ⅳ. キャンパスライフについてお尋ねします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	26	19	6	1	0	4.35
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	18	15	12	3	4	3.77
3	頼りになる教員に出会えましたか	20	13	11	5	3	3.81
4	よき友と出会えましたか	34	12	5	1	0	4.52

Ⅴ. 総合評価をお願いします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	20	21	9	1	1	4.12
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	14	16	15	3	4	3.63
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	11	25	10	4	2	3.75

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2024年度 卒業生対象大学生活満足度アンケート集計結果										人間生活学部 児童学科	
性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	74
	15	45			0	60	0	0	0	回答数	60
卒業後の進路	就職	進学	未定		あなたの成績について 一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)
	53	3	4					39	18	3	81.1

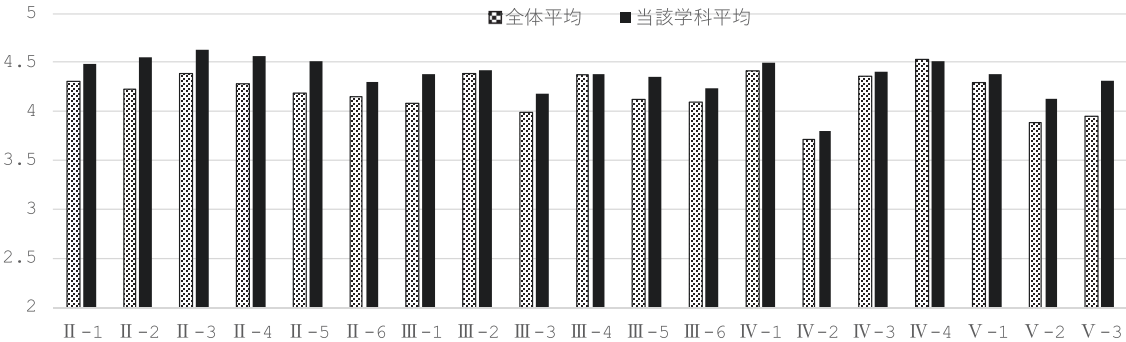
II. 授業・教育課程について（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	38	16	3	3	0	4.48
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	39	16	4	1	0	4.55
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	44	12	2	2	0	4.63
4	教育に対する熱意は感じられましたか	40	15	4	1	0	4.57
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	41	12	5	1	1	4.52
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	33	13	13	1	0	4.30

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	35	14	10	1	0	4.38
2	図書館は利用しやすかったですか	38	14	4	3	1	4.42
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	33	13	9	2	3	4.18
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	34	18	5	3	0	4.38
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	39	10	5	5	1	4.35
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	32	17	6	3	2	4.23

IV. キャンパスライフについてお尋ねします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	41	12	4	2	1	4.50
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	23	16	12	4	5	3.80
3	頼りになる教員に出会えましたか	38	13	5	3	1	4.40
4	よき友と出会えましたか	42	11	5	0	2	4.52

V. 総合評価をお願いします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	35	16	7	1	1	4.38
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	29	15	12	3	1	4.13
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	36	12	8	3	1	4.32

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2024年度 卒業生対象大学生活満足度アンケート集計結果										人間生活学部 メディアデザイン学科	
性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	22
	7	7			1	13	0	0	0	回答数	14
卒業後の進路	就職	進学	未定		あなたの成績について一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)
	10	0	4					9	2	3	63.6

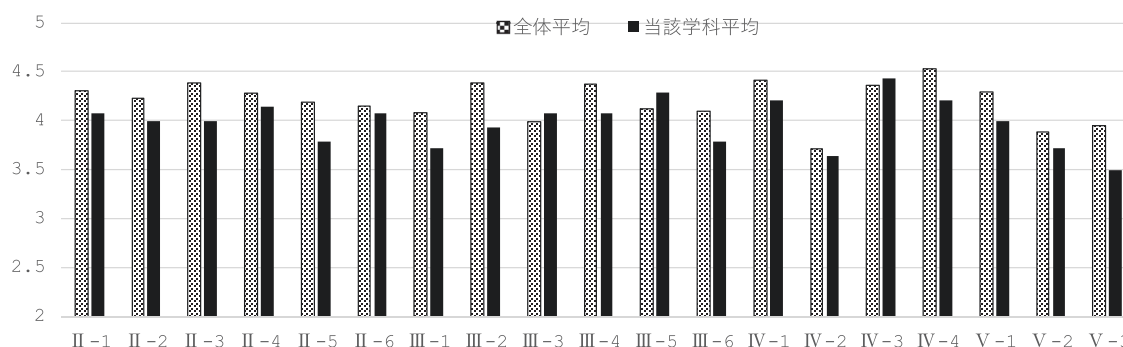
II. 授業・教育課程について（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	4	8	1	1	0	4.07
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	3	8	3	0	0	4.00
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	5	6	2	0	1	4.00
4	教育に対する熱意は感じられましたか	5	6	3	0	0	4.14
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	5	4	3	1	1	3.79
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	4	7	3	0	0	4.07

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	2	7	4	1	0	3.71
2	図書館は利用しやすかったですか	5	5	3	0	1	3.93
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	6	5	1	2	0	4.07
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4	8	1	1	0	4.07
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	7	5	1	1	0	4.29
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	5	4	3	1	1	3.79

IV. キャンパスライフについてお尋ねします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	6	5	3	0	0	4.21
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	2	7	4	0	1	3.64
3	頼りになる教員に出会えましたか	9	2	3	0	0	4.43
4	よき友と出会えましたか	9	3	0	0	2	4.21

V. 総合評価をお願いします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	6	4	3	0	1	4.00
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4	5	3	1	1	3.71
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	1	7	5	0	1	3.50

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2024年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果	人間生活学部 建築デザイン学科
--------------------------------------	-----------------

性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	52
	23	17			0	39	1	0	0		
卒業後	就職	進学	未定		あなたの成績について		優	良	可	回答率(%)	76.9
の進路	37	0	3		一番多かったのは		13	20	7		

II. 授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	21	18	1	0	0	4.50
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	15	23	2	0	0	4.33
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	22	11	6	1	0	4.35
4	教育に対する熱意は感じられましたか	21	14	4	1	0	4.38
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	22	13	5	0	0	4.43
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	23	16	1	0	0	4.55

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	19	13	7	1	0	4.25
2	図書館は利用しやすかったですか	23	11	5	1	0	4.40
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	17	12	6	5	0	4.03
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	24	15	0	1	0	4.55
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	18	16	3	2	1	4.20
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	18	14	6	2	0	4.20

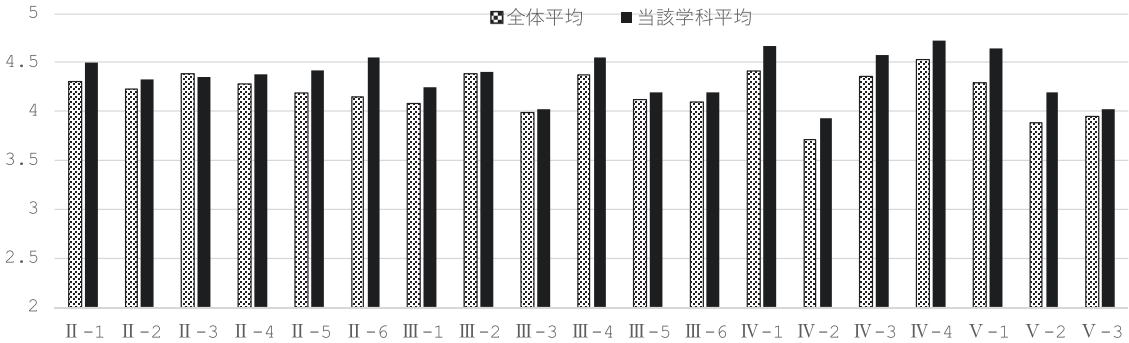
IV. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	28	11	1	0	0	4.68
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	17	9	10	2	2	3.93
3	頼りになる教員に出会えましたか	26	12	1	1	0	4.58
4	よき友と出会えましたか	34	3	1	2	0	4.73

V. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	28	10	2	0	0	4.65
2	総合的にみて、本学での学生生活は良かったですか	20	10	8	2	0	4.20
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	13	16	10	1	0	4.03

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2024年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果

人間生活学部 心理学科

性別	男性	女性	在籍年数		1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	90
	8	44			2	52	0	0	0	回答数	54
卒業後	就職	進学	未定	あなたの成績について 一番多かったのは	優		良	可	回答率(%)	60.0	
の進路	38	6	10		29		19	6			

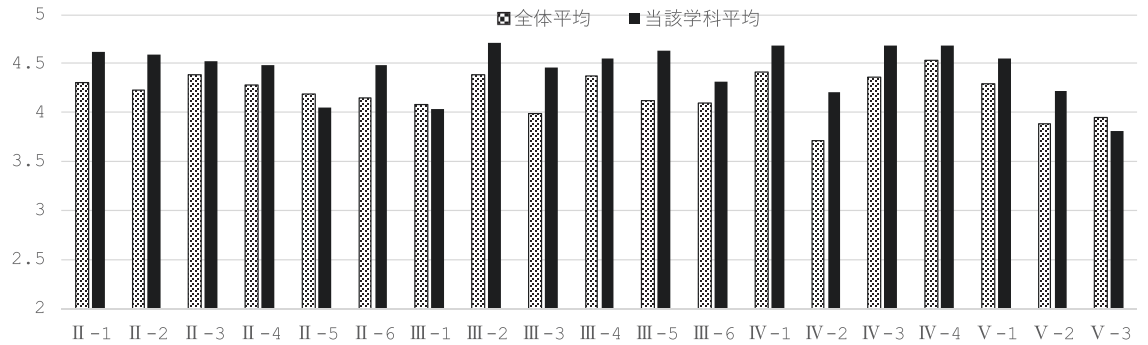
II. 授業・教育課程について（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	36	16	1	1	0	4.61
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	33	20	1	0	0	4.59
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	29	24	1	0	0	4.52
4	教育に対する熱意は感じられましたか	27	26	1	0	0	4.48
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	21	17	14	2	0	4.06
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	31	19	3	1	0	4.48

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	17	26	7	4	0	4.04
2	図書館は利用しやすかったですか	38	16	0	0	0	4.70
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	30	19	5	0	0	4.46
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	33	19	1	1	0	4.56
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	39	13	0	1	1	4.63
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	24	25	4	0	1	4.31

IV. キャンパスライフについてお尋ねします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	38	15	1	0	0	4.69
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	24	20	8	1	1	4.20
3	頼りになる教員に出会えましたか	39	13	2	0	0	4.69
4	よき友と出会えましたか	40	11	3	0	0	4.69

V. 総合評価をお願いします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	33	19	1	1	0	4.56
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	23	22	8	0	1	4.22
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	14	22	14	2	2	3.81

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2024年度 卒業予定者対象大学生生活満足度アンケート集計結果										大学全体		
性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	886	
	268	460			85	587	79	2	1			
卒業後の進路	就職	進学	未定		あなたの成績について一番多かったのは			優	良	可	回答数	754
	268	460	26					332	314	108		
										回答率(%)	85.1	

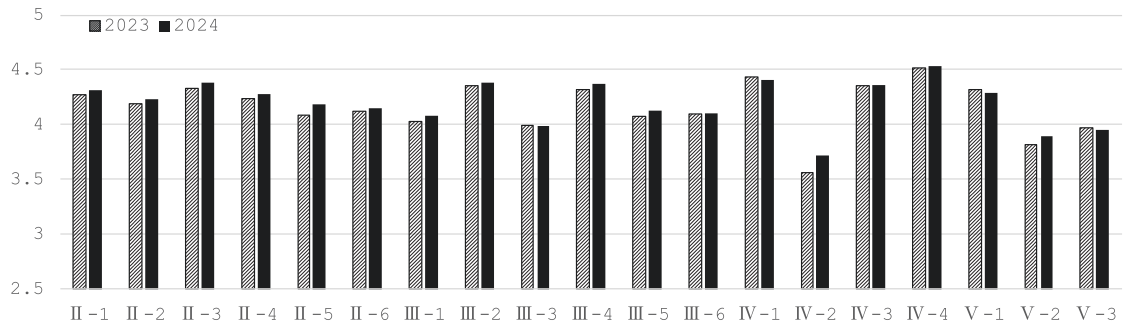
Ⅱ. 授業・教育課程について（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	358	300	73	16	7	4.31
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	314	326	93	15	6	4.23
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	410	256	66	12	10	4.38
4	教育に対する熱意は感じられましたか	358	284	86	18	8	4.28
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	349	252	109	30	14	4.18
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	320	272	123	34	5	4.15

Ⅲ. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	321	251	124	39	19	4.08
2	図書館は利用しやすかったですか	437	206	85	19	7	4.39
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	326	220	112	64	32	3.99
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	398	266	66	21	3	4.37
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	375	218	76	49	36	4.12
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	322	265	112	30	25	4.10

Ⅳ. キャンパスライフについてお尋ねします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	433	230	64	19	8	4.41
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	252	200	192	58	52	3.72
3	頼りになる教員に出会えましたか	445	187	87	20	15	4.36
4	よき友と出会えましたか	530	145	48	16	15	4.54

Ⅴ. 総合評価をお願いします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	388	249	85	14	18	4.29
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	280	228	168	38	40	3.89
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	279	258	149	36	32	3.95

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



第4章 学生による授業評価アンケートの集計結果

授業アンケート集計結果					徳島文理大学		
実施年度	2024年度 後期		対象	人間生活学部 人間生活学科			
対象数	1,129	回答数	845	回答率(%)	74.8	有効回答数	840
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				450	0.54	3.40	
部分的に読んだ(3点)				304	0.36		
ほとんど読まなかった(2点)				62	0.07		
まったく読まなかった(1点)				24	0.03		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				354	0.42	3.32	
どちらかという興味があった(3点)				411	0.49		
どちらかという興味がなかった(2点)				67	0.08		
まったく興味がなかった(1点)				8	0.01		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				555	0.66	3.63	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				263	0.31		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				18	0.02		
わかりにくい内容であった(1点)				4	0.00		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				759	90.36		
自立性				373	44.40		
協同性				318	37.86		
考え抜く力				339	40.36		
交渉力				253	30.12		
発信力				193	22.98		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				674	80.24		
授業の進め方				577	68.69		
教科書・パワーポイントなどの資料				454	54.05		
課題や宿題の内容（量も含む）				337	40.12		
教室の設備				357	42.50		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				418	0.50	3.37	
良(3点)				312	0.37		
可(2点)				110	0.13		
不可(1点)				0	0.00		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				572	0.68	3.66	
どちらかという満足(3点)				255	0.30		
どちらかという不満足(2点)				12	0.01		
不満足(1点)				1	0.00		

授業アンケート集計結果					徳島文理大学		
実施年度	2024年度 後期		対象	人間生活学部 食物栄養学科			
対象数	1,822	回答数	1,441	回答率(%)	79.1	有効回答数	1,433
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				447	0.31	3.00	
部分的に読んだ(3点)				653	0.46		
ほとんど読まなかった(2点)				222	0.15		
まったく読まなかった(1点)				111	0.08		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				369	0.26	3.10	
どちらかという興味があった(3点)				878	0.61		
どちらかという興味がなかった(2点)				151	0.11		
まったく興味がなかった(1点)				35	0.02		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				615	0.43	3.32	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				680	0.47		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				113	0.08		
わかりにくい内容であった(1点)				25	0.02		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				1,257	87.72		
自立性				478	33.36		
協同性				400	27.91		
考え抜く力				448	31.26		
交渉力				266	18.56		
発信力				156	10.89		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				997	69.57		
授業の進め方				810	56.52		
教科書・パワーポイントなどの資料				617	43.06		
課題や宿題の内容（量も含む）				461	32.17		
教室の設備				521	36.36		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				456	0.32	3.11	
良(3点)				687	0.48		
可(2点)				284	0.20		
不可(1点)				6	0.00		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				660	0.46	3.41	
どちらかという満足(3点)				711	0.50		
どちらかという不満足(2点)				56	0.04		
不満足(1点)				6	0.00		

授業アンケート集計結果					徳島文理大学		
実施年度	2024年度 後期		対象	人間生活学部 児童学科			
対象数	1,763	回答数	1,399	回答率(%)	79.4	有効回答数	1,393
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				671	0.48	3.24	
部分的に読んだ(3点)				480	0.34		
ほとんど読まなかった(2点)				152	0.11		
まったく読まなかった(1点)				90	0.06		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				754	0.54	3.44	
どちらかというに興味があった(3点)				530	0.38		
どちらかというに興味がなかった(2点)				83	0.06		
まったく興味がなかった(1点)				26	0.02		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				1,038	0.75	3.71	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				308	0.22		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				43	0.03		
わかりにくい内容であった(1点)				4	0.00		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				1,259	90.38		
自立性				723	51.90		
協同性				700	50.25		
考え抜く力				692	49.68		
交渉力				554	39.77		
発信力				514	36.90		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				1,180	84.71		
授業の進め方				917	65.83		
教科書・パワーポイントなどの資料				749	53.77		
課題や宿題の内容（量も含む）				635	45.59		
教室の設備				670	48.10		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				893	0.64	3.57	
良(3点)				395	0.28		
可(2点)				105	0.08		
不可(1点)				0	0.00		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				1,052	0.76	3.75	
どちらかという満足(3点)				328	0.24		
どちらかという不満足(2点)				12	0.01		
不満足(1点)				1	0.00		

授業アンケート集計結果					徳島文理大学		
実施年度	2024年度 後期		対象	人間生活学部 メディアデザイン学科			
対象数	983	回答数	650	回答率(%)	66.1	有効回答数	631
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				245	0.39	3.30	
部分的に読んだ(3点)				341	0.54		
ほとんど読まなかった(2点)				34	0.05		
まったく読まなかった(1点)				11	0.02		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				176	0.28	3.14	
どちらかという興味があった(3点)				377	0.60		
どちらかという興味がなかった(2点)				69	0.11		
まったく興味がなかった(1点)				9	0.01		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				323	0.51	3.43	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				261	0.41		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				43	0.07		
わかりにくい内容であった(1点)				4	0.01		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				533	84.47		
自立性				299	47.39		
協同性				177	28.05		
考え抜く力				303	48.02		
交渉力				131	20.76		
発信力				124	19.65		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				443	70.21		
授業の進め方				416	65.93		
教科書・パワーポイントなどの資料				282	44.69		
課題や宿題の内容（量も含む）				229	36.29		
教室の設備				195	30.90		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				230	0.36	3.18	
良(3点)				286	0.45		
可(2点)				114	0.18		
不可(1点)				1	0.00		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				316	0.50	3.44	
どちらかという満足(3点)				289	0.46		
どちらかという不満足(2点)				16	0.03		
不満足(1点)				10	0.02		

授業アンケート集計結果					徳島文理大学		
実施年度	2024年度 後期		対象	人間生活学部 建築デザイン学科			
対象数	1,272	回答数	844	回答率(%)	66.4	有効回答数	832
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				414	0.50	3.26	
部分的に読んだ(3点)				270	0.32		
ほとんど読まなかった(2点)				98	0.12		
まったく読まなかった(1点)				50	0.06		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				392	0.47	3.36	
どちらかというに興味があった(3点)				367	0.44		
どちらかというに興味がなかった(2点)				54	0.06		
まったく興味がなかった(1点)				19	0.02		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				529	0.64	3.55	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				249	0.30		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				35	0.04		
わかりにくい内容であった(1点)				19	0.02		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				700	84.13		
自立性				283	34.01		
協同性				153	18.39		
考え抜く力				301	36.18		
交渉力				95	11.42		
発信力				117	14.06		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				592	71.15		
授業の進め方				454	54.57		
教科書・パワーポイントなどの資料				369	44.35		
課題や宿題の内容（量も含む）				288	34.62		
教室の設備				252	30.29		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				383	0.46	3.31	
良(3点)				330	0.40		
可(2点)				117	0.14		
不可(1点)				2	0.00		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				486	0.58	3.52	
どちらかという満足(3点)				302	0.36		
どちらかという不満足(2点)				31	0.04		
不満足(1点)				13	0.02		

授業アンケート集計結果					徳島文理大学		
実施年度	2024年度 後期		対象	人間生活学部 心理学科			
対象数	2,797	回答数	1,613	回答率(%)	57.7	有効回答数	1,601
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				768	0.48	3.34	
部分的に読んだ(3点)				642	0.40		
ほとんど読まなかった(2点)				162	0.10		
まったく読まなかった(1点)				29	0.02		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				675	0.42	3.33	
どちらかという興味があった(3点)				798	0.50		
どちらかという興味がなかった(2点)				108	0.07		
まったく興味がなかった(1点)				20	0.01		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				1,006	0.63	3.57	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				515	0.32		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				67	0.04		
わかりにくい内容であった(1点)				13	0.01		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				1,463	91.38		
自立性				556	34.73		
協同性				457	28.54		
考え抜く力				600	37.48		
交渉力				360	22.49		
発信力				304	18.99		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				1,271	79.39		
授業の進め方				1,048	65.46		
教科書・パワーポイントなどの資料				957	59.78		
課題や宿題の内容（量も含む）				670	41.85		
教室の設備				714	44.60		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				663	0.41	3.24	
良(3点)				662	0.41		
可(2点)				268	0.17		
不可(1点)				8	0.00		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				1,012	0.63	3.61	
どちらかという満足(3点)				549	0.34		
どちらかという不満足(2点)				37	0.02		
不満足(1点)				3	0.00		

授業アンケート集計結果					徳島文理大学		
実施年度	2024年度 後期		対象	大学全体			
対象数	33,452	回答数	22,129	回答率(%)	66.2	有効回答数	21,935
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				8,962	0.41	3.18	
部分的に読んだ(3点)				9,253	0.42		
ほとんど読まなかった(2点)				2,518	0.11		
まったく読まなかった(1点)				1,202	0.05		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				8,520	0.39	3.27	
どちらかという興味があった(3点)				11,126	0.51		
どちらかという興味がなかった(2点)				1,932	0.09		
まったく興味がなかった(1点)				357	0.02		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				12,411	0.57	3.49	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				8,128	0.37		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				1,187	0.05		
わかりにくい内容であった(1点)				209	0.01		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				19,651	89.59		
自立性				8,323	37.94		
協同性				6,335	28.88		
考え抜く力				8,402	38.30		
交渉力				4,250	19.38		
発信力				3,410	15.55		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				16,576	75.57		
授業の進め方				13,374	60.97		
教科書・パワーポイントなどの資料				10,353	47.20		
課題や宿題の内容（量も含む）				7,746	35.31		
教室の設備				7,271	33.15		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				9,411	0.43	3.26	
良(3点)				8,839	0.40		
可(2点)				3,564	0.16		
不可(1点)				121	0.01		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				12,744	0.58	3.54	
どちらかという満足(3点)				8,412	0.38		
どちらかという不満足(2点)				681	0.03		
不満足(1点)				98	0.00		

第5章 研究授業報告

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	人間生活学科
授 業 者	中谷友机子	科 目 名 (シラバス番号)	衣生活論 (13740)
授業協力者	なし	実 施 教 室	9202
実 施 日 時	令和6 年 7 月 16 日 火曜日 3 講時		
対 象 学 生	人間生活学科、 (その他、心理、児童、建築、食物 学科 1～4年生)		受講学生数：44 名
教 授 法	講義（プリントとパワーポイントで講義）		
授業テーマ ユニバーサルデザインと装い			
研究授業内容自己評価			
・本授業は人間生活学科の学生以外に、建築、心理学科、等の学生が履修しているため、ユニバーサルデザインを様々な観点から理解をしてもらおうと、道具やアイデア商品などの例を挙げて説明に努めた。 ・ユニバーサルデザインの定義や日本産業規格（JIS）に基づいた設計内容、ユニバーサルセンターで揚げられた7原則の意義等は教科書のプリントで説明をし、学生に理解させることに努めた。 ・ユニバーサルデザインの装いについては、パターン展開の工夫やゆとり・縫製生産性の重要性、デザインによる工夫など、配慮と安全性について理解させるように目指した。様々な観点からの講義は、学生の理解を高めたと考えるが、今後益々高齢化率が上昇することから、ユニバーサルデザインの開発研究を自ら努め、学生に伝えていきたいと考えている。			
研究授業参観者の意見・感想			
・授業資料のPower Point は専門外であっても理解できわかりやすいものであった。また、学生の緊張が緩んでいるのではと思われるときに、指名して答えさせるなど学生の集中力を取り戻させるようにしておられた。 ・知識を説明される前に、ユニバーサルデザインに関するたくさんの事例を写真で紹介されており、学生の興味関心を高める手法が参考になった。事例を見た後に教科書の内容を説明することで、学生の理解が進みやすいと感じた。 ・先生がこれまでに講師をされた、ユニバーサルデザインの市民講座について紹介された際に、参加者の様子や視覚障がい者の方のエピソード、先生が感じられた感想を説明されていた。大学での学びが実生活でどのように活かせるのか、非常に分かりやすかった。また、先生がこれまで取り組まれてきた実績があるからこそ、説得力のある講義であった。			
授業参観教員数	2名（高橋、池添）		

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	食物栄養学科
授 業 者	小原 由衣	科 目 名 (シラバス番号)	調理学 (13340)
授業協力者	なし	実 施 教 室	9 7 0 4 教室
実 施 日 時	令和6年10月7日 月曜日 1 講時		
対 象 学 生	食物栄養学科3年生		受講学生数： 46 名
教 授 法	講義		
授業テーマ 炭水化物を多く含む食品「いも類」			
研究授業内容自己評価 学生がイメージしやすく国家試験に向けて記憶に残る授業になるように、補足的にスライドを用い、実務の現場での話や学生の身近なものに例えて授業をおこなった（こんにゃくいものグルコマンナン等）。調理学の講義で理論を説明し、調理学実験で知識の定着を図るようにしている。授業の最後に国家試験の過去問を用いた小テストを実施し、解説も学生にランダムに当てながら行うことで講義内容の振り返りと定着を図った。小テストの結果が悪かった問題は、次の授業で補足説明を行ったり、定期テストの問題作成に使用したりしている。授業後の意見交換で、授業で使ったスライドの学生への共有方法について悩んでいたが、クラスルームで共有を図っていきたい。			
研究授業参観者の意見・感想 教科書をベースとし、ポイントをおさえた分かりやすい授業であった。国家試験ではどういう問題が出るかの紹介もしながら、適宜スライドで図や写真を用いられていてイメージが湧きやすい授業であった（悩んでいるとのことだった、スライドを印刷して配布または後日クラスルームにあげるなどご検討されてみてください）。学生は集中して聞いていた。また、「調理学」で学んだことが別の曜日の「調理学実験」で検証できるようにカリキュラムも工夫されているのも良かった。 授業の最後に小テスト（国家試験の改変問題もあり）と解説をされていた。小テストの解答はFormsでも入力してもらうことで、結果の集計と間違いやすい問題のピックアップを効率的にされていたため、ぜひ参考にさせていただきたいと思った。小テストの解説では学生にあてていたが、学生も頑張って答えていて、双方向のやり取りがあつてとても良いと思った。			
授業参観教員数	1 名		

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	児童学科
授 業 者	上萩 琴美	科 目 名 (シラバス番号)	英語 A1 (14602)
授業協力者	なし	実 施 教 室	9701
実 施 日 時	令和 6 年 7 月 3 日 水曜日 2 講時		
対 象 学 生	児童学科 1 年		受講学生数：24 名
教 授 法	「講義」及び「演習」		
授業テーマ Teaching Numbers（小学校外国語活動・外国語科における数字の教え方）			
研究授業内容自己評価 ・使用テキスト「Hello, English -English for Teachers of Children-」（成美堂） ・授業内容 前時の課題確認（"Missing Game"の進め方）→bingo, math <i>karuta</i> 等の活動 ・自己評価 常に学生の理解度を確認しながら授業を進めるよう心掛けているが、得意・不得意の出やすい科目であるため、十分とはいえない。一般科目「英語 A」ではあるが、幼稚園・小学校での英語指導に繋がる教室英語や活動を 1 年次から体験でき、学生が楽しく学べる授業を追究したい。			
研究授業参観者の意見・感想 ・全体に落ち着いた雰囲気です授業が流れており、最後まで受講生が楽しく授業に取り組む姿勢が印象的であり、これまでの実践指導を踏まえた授業であると感じた。 ・英語というツールを用いて数を数えること（四則演算）の新鮮さや間違いやすい箇所について説明があり、ゲーム（マッチングカード）や役割演技（教師役と児童役）、ハンドアウトへの書き込み、そして歌を通じて学習内容を理解させる方法は効果的であった。 ・授業の進め方として、初めに本時のアウトラインを板書して提示し、全員にルールを理解させ、十分に聞く姿勢をとらせた上で、ゲームで授業内容を楽しく学ばせることは有効であった。 ・♪"Seven Steps"を歌いながら消えた数のところで手をたたいたり足で踏んだりする活動は受講生が生き生きと参加していた。 ・隣どうしで読み合わせると、受講生の声が大きくなることは発見であった。 ・宿題が出されており、前回のつながりと授業内容の定着という点で効果的であった。			
授業参観教員数	1 名		

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	児童学科
授 業 者	藤村 正司	科 目 名 (シラバス番号)	教育原理 (14556)
授業協力者	なし	実 施 教 室	9602
実 施 日 時	令和 6 年 7 月 5 日 金曜日 1 講時		
対 象 学 生	児童学科 1 年		受講学生数：24 名
教 授 法	パワーポイントを使った講義		
授業テーマ 第二の教育改革の功罪を考えるー教育課程の変遷と人的資本論の登場ー			
研究授業内容自己評価 ・ 前回の授業内容のポイントを振り返ることで、学生の記憶を呼び戻し、本時の新たな授業内容の理解を深めている。 ・ 本時の授業のアウトラインをあらかじめ学生に提示することで、授業の全体を把握するさせるように努めた。 ・ 第二の教育改革で登場した人的資本論の考え方により大学進学の経済的価値を説明したが、お金の将来価値を現在価値に割り引く収益率によって理解させることを目指した。複利計算は板書で丁寧に説明し、機会費用の概念は身近な事例を通じて理解させるようにした。 ・ 本授業では、戦後第二の教育改革の功罪をエッセンス的に講じたが、分量が多く学生の意見を述べさせる時間が十分にとれなかった点が反省点である。高度経済時代の新聞記事を利用して、学生個人の体験を超えた教育制度や現代の教育問題の淵源を歴史のなかに見出せるように心がけた。			
研究授業参観者の意見・感想 ・ 全体に一年生の授業として専門性が高く、高度な内容も含まれていたが、教育課程の変遷など図表を用いて比較的わかりやすい説明であったと思いました。 ・ 授業のはじめに前回の復習と授業感想に関する学生のコメントに対する授業者のリプライがあったので、学生は理解しやすかったと思います。 ・ 新聞記事を利用し、1960 年代当時の状況を学生に提示したことは説得力があった。学生同士で意見を言わせる時間があればなお良かったと思います。 ・ 収益率を複利計算によって、大学教育の投資価値を示したことは有効であった。 ・ 授業の最後に、授業の感想やコメントを書かせる時間を設けているので授業の振り返りとして効果的です。			
授業参観教員数	1 名		

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	メディアデザイン学科
授 業 者	古本奈奈代	科 目 名 (シラバス番号)	専門ゼミナールⅠ (12820)
授業協力者		実 施 教 室	ゼミ室1
実 施 日 時	令和 6 年 7 月 24 日 水 曜 日 3 講 時		
対 象 学 生	メディアデザイン学科3年		受講学生数：24人
教 授 法	演習		
授業テーマ レゴロボット（マインドストームEV）による学科内ロボット競技会			
研究授業内容自己評価 本学科では、情報処理と分析力を兼ね備えたデジタル人材の育成を目指している。そのためには、プログラミング技術やデータ分析、また企画力などを含め実践的なスキルを修得することが重要である。そこで専門ゼミナールⅠでは、レゴロボット（マインドストームEV3）を利用し、情報処理と分析力のさらなるスキルアップを目指しアクティブラーニングを実施した。その成果として、講義最終日に学科内ロボット競技会を開催した。			
研究授業参観者の意見・感想 ・ロボット競技会は初めての試みであったが、学生が積極的に取り組む姿勢が見られ、「情報処理と分析力のスキルアップ」という学習目標に対して一定の成果を認めることができた。 ・チームプロジェクトであったが、学生同士協力する姿勢が見られた。 ・プログラムの難易度と時間的な制約のバランスを考え、授業計画を修正する必要があるが、来年以降も継続できる取り組みである。			
授業参観教員数	4名（メディアデザイン学科 篠原，山城，加治，長濱）		

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	建築デザイン学科
授 業 者	岡松 道雄	科 目 名 (シラバス番号)	建築計画論 (10153)
授業協力者		実 施 教 室	231108
実 施 日 時	令和 6 年 7 月 9 日 火曜日 1 講時		
対 象 学 生	建築デザイン学科 2 年		受講学生数： 37 名
教 授 法	講義		
授業テーマ 建築計画の技法 3. 空間構成のエレメント——仕切りの技法			
研究授業内容自己評価 教科書に沿って、建築計画における「空間構成」の考え方と、主要構成要素である床・壁・天井および開口部について講義した。特に建築を設計する際に考慮すべき「本質的なものの考え方」について理解を深めるように配慮している。基本用語については、教科書に下線を引かせ、建築士の受験に備えることと、視覚的に理解できるようにパワーポイントで画像情報を示し、教科書の記述を解説している。また本講義は住宅設計演習Ⅱとの関連を強調して講義することで、アクティブラーニングの効果を意図し、学生もその点を実践し積極的に製図課題に取り組んでいる。 一方で画像が多くなりスライド枚数が増え、冗長になりがちな点が課題として残るので、よりコンパクトな表現で、端的に内容を伝えるよう改善する必要がある。			
研究授業参観者の意見・感想 豊富な画像を用いて、見ていて楽しい授業内容になっている。パワポのスライドには、対応する教科書のページも記載されていて、学生が迷わずに授業に参加できる工夫がされていた。説得力のあるしゃべり口で、時にはユーモアも含めて学生を飽きさせない授業技術を感じた（山田） 建築計画の技法の中で大変重要な「空間構成」の概念を、教科書の重要箇所を解説投影されて効果的に授業を行われていた。投影資料は、黒背景で白文字も見やすいものであった。投影資料の配布はあえてされず、学生各人がノートを取る等の学習スタイルに委ねられていた。使用教科書は本授業にとどまらず、将来、建築関係の仕事に携わる際に座右の書として参照して、時間をかけて理解を深めるとのご指導は学生への励ましになる印象を受けた。（上田）			
授業参観教員数	2 名 山田学科長、上田		

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	心理学科
授 業 者	土中 幸宏	科 目 名 (シラバス番号)	人間発達学 (13575)
授業協力者	なし	実 施 教 室	9号館9603
実 施 日 時	令和6年10月29日（火） 3講時		
対 象 学 生	心理学科 4年生	受講学生数： 55名	
教 授 法	対面・オンラインのハイブリッド形式講義		
授業テーマ 思春期の発達			
研究授業内容自己評価 本授業は、人の誕生から死までの全生涯を通じて、人間がどのように生き、老い、死んでいくのか、またどのような要因が発達に影響するのかについて学ぶものであり、今回は「思春期」をテーマに、その時期の発達課題を学び直すとともに、深層心理学的なアプローチにより、「ヒト」の特殊性等についても学ぶこととした。授業では、双方向的な取組の一環として、数回にわたりアンケートを実施し、回答をリアルタイムに表示するなどして、受講者の参加意識を高めるとともに、プレゼン形式も視覚に訴える形のわかりやすいものを心掛けた。			
研究授業参観者の意見・感想 ・Mentimeter（リアルタイムでの集計とフィードバックを可能にするアプリ）を駆使することにより、オンライン参加者も対面参加同様に授業への参加意識が高まるとともに、リアルタイムに結果を表示するため、アクティブラーニングの要素もあったと思った。 ・パワーポイントのスライド作成に工夫が見られ、わかりやすく視聴しやすいものであった。 ・話し方等のテンポ・リズムが学生にとって適度なものであり、ていねいな教え方になっていた。 ・他の発達心理学とは異なる視点で「思春期」にアプローチし、生物学的視点、心理社会的視点から重層的に捉える内容になっており、興味深かった。			
授業参観教員数	7名		

第6章 教員活動状況

第1節 人間生活学科

個人情報

- 1.氏名：竹内 理恵
- 2.職位：准教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域：看護学 学校保健学 養護実践学 健康教育学
- 2.学部授業担当科目
前期：基礎看護学 看護技術（人間生活学科、心理学科） 保健科教育法Ⅰ 事前・事後指導（養護） 専門ゼミナールⅠ 学校ボランティア実践 養護学特講
後期：臨床看護学 基礎看護技術（人間生活学科、心理学科） 臨床看護実習 小児保健 教職実践演習 養護実践演習 専門ゼミナールⅡ 臨床看護実習の事務手続き全般
- 3.直接に研究指導した学部学生：ゼミナールⅡ（2）名
- 4.自己評価

学生が主体的に授業に取り組めるように、グループ活動や個人の発表等に対する自己評価並びに他者評価を実施するとともに、学生が授業中に自己の学びを振り返る機会を作り、全員が発表するようにした。また、予習のチェックや小テスト等を実施し、学生の自主的学習を促した。さらに、学生の学ぶ意欲を育てるために小論文を課題とし、論理的思考力が身に付くようにした。成果としては、学生の予習をする習慣は着実に付き、主体的な学びにつながってきた。しかし、課題とした小論文の完成度には差がみられたので、論文の書き方の指導を強化したいと考えている。

研究領域

- 1.専門研究領域：学校保健学 養護実践学 看護学 健康教育学
- 2.研究課題及び概要
養護教諭には、多様化・複雑化した健康課題を解決する実践的能力が求められる。そこで、養護教諭養成における実践的能力の育成に関する研究と、現場の養護教諭と連携した健康課題を解決するための養護実践活動のあり方の研究を進めていきたい。
- 3.令和6年度分 研究業績一覧
 - ・著書
なし
 - ・学会発表
- 1) 竹内理恵、長濱太造、加賀谷扶美世：学生の認知の変容を可視化する試みー養護教諭の職務や求められる能力に対してー、日本養護教諭教育学会第32回学術集会、茨城キリスト教大学、2024

4. 知的財産権の出願・取得状況

なし

5. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

なし

6. 自己評価

これまで大学の業務が非常に多く、研究に携わる時間は十分ではなかった。さらに、昨年度からは学科長を拝命し、その業務の遂行に時間を取り、研究に取り組むゆとりがなかった。その中でこれまでグループで研究を進めてきた養護教諭の行う教育実践について、研究成果を書籍にまとめるために原稿作成に取り組んだことは成果と言える。

大学内運営

1. 活動報告：教務委員会（学科長）、認証評価委員会、中期目標策定委員会、教員養成対策委員会、1～4年生チューター、全学共通教育センター学習支援アドバイザー、養護教諭免許取得のための臨床看護実習の運営及び事務手続き全般、保健室ボランティアの企画運営、養護教諭採用試験対策指導

学科長として、学科の運営に必要な企画・事務処理など全般を担い、非常に負担は大きいですが、学科の今後に向けて職責を果たしていきたい。

2. 保健室ボランティア活動の企画・運営

平成28年度より保健室ボランティア活動の企画・運営をしている。この3年間では令和4年度54回延べ97人、令和5年度149回延べ277人、令和6年度（前期）114回延べ190人の学生が活動に参加した。コロナ禍以降、各学校からの申込数も増えている。

この体験により、学生は自分の養護教諭像を確かなものにし、今後の養護実習や採用試験に向けて意欲をもって学ぶ原動力となった。

3. 養護教諭採用試験対策指導

教員養成対策講座における指導と個別の対策指導を実施した。また、1～3年生の意識の向上を図るために、4年生から体験を伝える発表会を開催した。今年度は現役合格者は3名であった。各県の採用人数が減少している中、大きな成果と言える。

4. 臨床看護実習の運営及び事務手続き全般

これまで臨床看護実習の事務手続き全般（各病院との事前打ち合せ・依頼状等の作成・発送等）と学生への事前指導を主に一人で行っている。しかし、学科長としての業務及び17科目を担当した上で実施しているため非常に負担である。他の研究領域などの業務に支障が生じている状況であり、担当科目を減らすことや事務補助者を置くなどの改善を希望する。

社会貢献

1. 学会等への貢献

日本養護教諭教育学会会員、日本学校保健学会会員、日本教育保健学会会員、
日本健康相談活動学会会員

2. 地域社会への貢献

1) 出張講義：体験型「心とからだの健康づくりを一緒にかんがえようー早ね・早起き・

朝ごはんを毎日つづけようー」阿波市立柿原小学校 令和6年6月21日（金）
2)出張講義：体験型「心とからだの健康づくりを一緒にかんがえようーストレスへの対処についてー」徳島県立中央高等学校 令和6年10月18日（金）

個人情報

1. 氏名：高橋 昌江
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：衛生・公衆衛生学、栄養学、生物学
2. 学部授業担当科目
 - ・大学院(博士前期課程)
 - 前期：栄養化学特論 I
 - 後期：栄養化学特論 II
 - ・助産学専攻科
 - 前期：母子のための薬理学
 - ・人間生活学部
 - 前期：専門ゼミナール I、応用生物学 A、公衆衛生学、食品衛生学、薬理概論
 - 後期：専門ゼミナール II、衛生学、栄養学、食品学実験、卒業研究
 - ・保健福祉学部
 - 前期：応用生物学 A
 - 後期：生化学
 - ・短期大学部
 - 後期：食品衛生学実験、食品学各論実験
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（ 1 ）名、その他（ 0 ）名
4. 自己評価

文科系の学生に理科系科目を教授しており、その理解度に一抹の不安を覚えているが、できるだけ平易な解説に努めている。

研究領域

1. 専門研究領域：皮膚生化学
2. 研究課題及び概要：表皮形成メカニズムに関する検討
3. 令和 5 年度分 研究業績一覧

【論文】なし
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和 6 年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
6. 自己評価

研究活動と学生指導のバランスをとることが難しいが、学生指導に重点を置くことが重要と考えている。

大学内運営

1. 活動報告

入試問題の作成(生物基礎)および生物基礎責任者、人間生活学科 3 年生担任

社会貢献

1. 学会等への貢献：特になし
2. 地域社会への貢献：特になし

個人情報

1. 氏名：中谷友机子
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：被服造形構成学、被服材料学、ファッションデザイン
ファッションビジネス
2. 学部授業担当科目
前期：ブライダルドレスメイクⅠ（短大2兼任）、専門ゼミナールⅠ（生活3）、衣生活論（生活1、建築2、栄養3、生科1）、被服材料学（生活2、栄養3、建築3）
被服構成学実習（生活2）、卒業研究（生活4）
後期：ファッションビジネス／ファッションビジネス論（生科1、生活1、2）、被服構成学（生活1）、ブライダルドレスメイクⅡ（短大2兼任）、ファッションデザイン（短大1兼任）、専門ゼミナールⅡ（生活3）、卒業研究（生活4）、短期大学部生活科学科生活科学専攻卒業研究ドレス制作指導
3. 直接に研究指導した学部学生：8名（短期大学部生活科学科生活科学専攻、卒業研究ドレス制作のデザイン・パターン作成・縫製指導）
8名（生活4）（卒業論文5名、卒業作品制作3名）
7名専門ゼミナールⅠ・Ⅱ卒業研究（生活3）
4. 自己評価（指導・工夫・反省）

講義授業は、家庭科教諭内容と専門知識内容の教育指導が重要なことから、専門教科書と補足プリントでしっかりと学修指導をした。さらにDVDを活用し視覚からの理解を深める指導をした。

実習授業については、基本の理解、基本からの応用を重要視し、学生が自ら楽しんで実習（考案・制作）できるよう毎回実習改善を図りながら進めた。

① 講義授業

- ・「被服材料学」「衣生活論」では、家庭科教諭内容以上の専門知識の教科書と補足プリントで学修指導をおこなう。また、理解を深めるために「被服材料学」では、繊維材料で制作実験をおこない、「衣生活論」では、プリント以外にパワーポイントやDVD活用で視覚的に理解を深める指導をおこなう。
- ・「ファッションビジネス／ファッションビジネス論」では、ファッションビジネス能力検定2・3級取得対策関連授業として、検定教科書に基づいて教授した。また、専門DVDやファッション企業の経験からまとめたプリントも含みながら学修指導をする。さらに、問題集や解答を入れながら検定取得対策に活かした。2024年度検定試験の結果は、受験者7名の内、合格者は5名となった。71.4%の合格率となった。

② 実習授業

- ・「被服構成学実習」「被服構成学」では、ミシンや縫製などの知識がまだ学生は浅い。前に進めない学生と進める学生との差が大きく、その為、学生の様子をしっかりと見極めて進行した。今後も指導の向上に努めていく。
- ・「ブライダルドレスメイクⅠ・Ⅱ」では、短期大学部生活科学科生活科学専攻卒業研

究ドレス制作のデザイン・パターン作成・縫製指導をおこなった。立体裁断からのパターン作成は、技術が高度な為、学生には難度であったが、見事に制作し完成した。2024年度学生8名は、やる気のある学生が多く、完成度の高い卒業研究制作になったと考える。

- ・「被服構成学」学外授業では、京都西陣織会館に見学して日本の衣について学修を深める。
- ・「特別講義」開催では、㈱トヨシマビジネスシステム 原健太郎氏を招聘して、繊維業界のIT技術について学修を深める。

研究領域

1. 専門研究領域

- ① 「ファッション業界の流通・社会・流行・世代「需要と供給の関係」」についての研究
- ② 徳島阿波藍染研究
- ③ ウールニードルフェルトアート研究

2. 研究課題及び概要（上記①②③の概要）

- ① 「ファッション業界の流通・社会・流行・世代「需要と供給の関係」」中谷著作物についての改訂版を著作する準備（資料集め）段階である。
- ② 一般社団法人藍産業振興協会の染師7名の技法・技術の研究をおこなう。第2回目は11月9日に「本藍染矢野工場」の染師 藍染の匠 矢野藍秀氏に訪問させて頂き、技法・技術、現在の状況について調査と分析をおこなった。矢野藍秀氏の作品や業績は素晴らしく、2025年にかけて研究に取り組む予定である。
- ③ 尾州産地のウール研究と活性化の為に、ウールニードルフェルトワークショップを開催（12月14日）。産地ウール研究を含め活性化に取り組む。

自己評価

研究課題及び概要①③については、これまでの研究を継続している。②の徳島阿波藍染研究については、徳島ならではの貴重で歴史的価値のある「阿波藍」について研究を進めている。

大学内運営

1. 教育研究委員委員長、FD委員会、人間生活学科2年生担任

社会貢献

1. 日本繊維消費科学会委員
2. (1)金城学院大学非常勤講師 授業：「ファッションビジネスの世界」
(2)デコリメイクチャレンジ展の学生制作指導、2024年度学生2グループが賞を受賞する。「特別賞」と「コンテスト入賞」である。（2024年9月18日織研新聞掲載）
(3)手づくりフェア展「徳島文理大学 人間生活学科」ブース展を開催
企画テーマ『人と自然が織り成す阿波から伝統文化の風をプロデュース』
(4)セミナー開催『“自分を磨く” ファッションコーディネートセミナー』（主催）

日時：2024年10月12日(土)13時～14時30分、会場：あわぎんBASE
(5)ワークショップ開催「羊毛フェルトでクリスマス飾りをつくろう」(共催)
日時：2024年12月14日(土) ①10時～11時30分 ②13時～14時30分
会場：あわぎんBASE

個人情報

- 1.氏名：寺奥 敦子
- 2.職位：准教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域：家庭科教育、食物学、教育実践
- 2.学部授業担当科目
前期：家庭科教育法Ⅰ・Ⅱ、調理学、食品学、調理学演習、食品加工貯蔵学実習、専門ゼミナールⅠ、卒業研究
後期：家庭科教育法Ⅲ・Ⅳ、事前・事後指導、調理学実習、専門ゼミナールⅡ、卒業研究
- 3.直接に研究指導した学部学生：卒業論文（5）名
- 4.自己評価
①学生主体の授業展開に心がけ、思考力・判断力・表現力等の育成に努めた。「家庭科教育法」では、学外で本灰汁発酵建ての藍染めを体験的に学ぶ機会を設けたり、神山まると高等専門学校との交流を通したりして実践的指導力の育成に努めた。
②全国消費生活相談員協会から澤村美賀氏を招聘し消費者教育の充実を図った。また、日本フードスペシャリスト協会から齋藤明氏を招聘し植物油に関する理解を深めた。
③日本家政学会家族関係学部会誌への論文執筆を通して、これまでの教育実践を振り返り、学校教育と地域共生についてまとめることができた。
④「専門ゼミナールⅡ」では6名の学生を担当した。個々の生徒が課題意識を持って主体的かつ積極的に研究に取り組み、卒業研究に向かう素地を育むことができた。
⑤「調理学実習」では遊山箱ランチの計画と実施を通して、主体的・協働的な学びを行った。また、学生の提出物は毎回フィードバックし、双方向的な授業を心がけた。
⑥「卒業研究」では、手指の巧緻性を高める布絵本の制作、高等学校家庭科技術検定におけるじんべいの効果的な指導方法、水を飲めない子ども実態と背景、児童虐待など多岐にわたる内容を学生の興味・関心に応じて指導することができた。
⑦大阪市で開催された OSAKA 手づくりフェアや山城祭において、井関製菓とのコラボでおへぎの試食体験を行い、地元企業との連携と伝統的餅菓子の魅力発信に努めた。

研究領域

- 1.専門研究領域：家庭科教育 教育実践 食物学
 - 2.研究テーマ：新学習指導要領を踏まえた中・高の実践的な家庭科教育の在り方
- 令和6年度分 研究業績一覧

1.論文

寺奥敦子, 高校生と地域共生ーミニカフェ活動15年の実績ー, 日本家政学会家族関係学部会誌, 43巻, pp29-36, 2024年12月.

2.学会発表

なし

3.知的財産権の出願・取得状況

なし

4.令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

なし

5.自己評価

家庭科教育において育成を目指す資質・能力を育むための指導の在り方、指導と評価の一体化、小中高の系統性を踏まえた実践的な指導方法について研究した。生涯を見通す時間軸の視点と家族や地域の人々とのつながり、SDG sをはじめ持続可能な社会の構築などの空間軸の視点を踏まえた指導を重視した。また、金融経済教育、消費者教育、伝統文化の継承など幅広い内容に対して課題意識を持ち、自分事として考え行動することの大切さを身につけた家庭科教員養成に取り組むことができた。

大学内運営

1.活動報告

人間生活学科4年生担任、1～4年生チューター、入学試験委員会委員、退学者防止対策検討委員会委員、教員養成推進委員会委員、全学共通教育センター学習支援アドバイザー、高校巡回広報担当、フードスペシャリスト資格取得指導担当

①家庭科教員を目指す学生の受験を支援し、5名が1次試験に合格した。最終的には高知県と徳島県の高校教諭に2名が現役合格し、3年連続で公立学校の家庭科教員を輩出できた。

②フードスペシャリスト資格取得者は1名、今年は受験者が1名と少なかった。

11月から週2回、計12回の対策講座を時間外で実施し指導の充実を図った。

③4年生担任として30名全員が充実した最終学年となるよう支援した。養護教諭3名、家庭科教諭2名の現役合格、ほぼ全員が希望の進路目標を達成できた。

④学科独自の「家庭科教員採用試験体験報告会」や「就職試験・教員養成対策講座」を実施し、学生の目的意識の醸成とキャリア形成に努めた。

⑤「生活文化論」で華道の特別講師を務めた。

社会貢献

1.学会等への貢献

日本家政学会、日本家政学会中国・四国支部機関幹事、日本家庭科教育学会

2.地域社会への貢献

① 全国高等学校家庭科教育振興会顧問

② 令和6年度全国高等学校家庭科技術検定専門委員会指導助言

令和6年5月28日(火)・29日(水) 東京都

③ 徳島県中学校技術・家庭科研究会家庭分野アドバイザー

④ 第62回中国・四国地区中学校技術・家庭科研究大会徳島大会指導助言

令和6年11月28日(木)・11月29日(金) 徳島市

⑤ (一財)徳島アグリクリエイティブ育英会奨学生選考委員

⑥ (公財)日本いけばな芸術協会特別会員、徳島県華道連盟役員

⑦ 第7回国際公募 東京アート工芸2024 入選

個人情報

- 1.氏名：池添 純子
- 2.職位：准教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域：住居学、地域居住学
- 2.授業担当科目

前期：生活と環境、コミュニティ・デザインⅠ、住居意匠学、生活空間論、生活科学論、
総合科目 B（学生災害ボランティア入門）、専門ゼミナールⅠ、卒業研究
後期：住生活論（製図を含む）、生活文化論、コミュニティ・デザインⅡ、福祉住生活
論、家族関係学、専門ゼミナールⅡ、卒業研究

- 3.直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（4）名、専門ゼミⅡ（7）名
- 4.自己評価

各授業では、個々に調べたことをプレゼンテーションにまとめ発表する機会、自分の考えを自分の言葉でレポートにまとめる機会、学外フィールドワークや他の人と意見交換を行うワークショップなど体験する機会を設け、学生の主体的な学びを促した。

コミュニティデザイン系科目の学びを結び付けるツールとして上勝阿波晩茶づくりを始めて3年目となるが、今年度は晩茶づくりの参加者が最も多く（24名）、地域文化の継承や地域課題を学ぶツールの柱として定着してきた。また、コミュニティデザイン系科目の総仕上げとなる「コミュニティ・デザインⅡ」の授業アンケート（令和5年度）では、授業で得られたものとして選択された項目が、「自立性(77.8%)・協同性(83.3%)・考え抜く力(61.1%)・交渉力(66.7%)・発信力(61.1%)」となっており、全体選択率よりもかなり高い数値であった。本学科のディプロマポリシーに掲げる「地域の課題に関心を持ち、その解決に向けて情報発信力や他者と協働する力を働かせ、地域社会の発展に貢献しようとすることができる」関心・意欲・態度が、授業を通して育成されていることが推察された。

研究領域

- 1.専門研究領域：地域計画 農村計画
- 2.研究テーマ：・誰もが最期まで住み続けることができる地域環境の整備
・事前復興まちづくりにおける環境移行

3.令和6年度分 研究業績一覧

〈1〉著書

なし

〈2〉学会発表

北山めぐみ・池添純子 他6名：学生キャリア形成を目的とした合宿型ワークショップの試み 2024—四国支部男女共同参画推進委員会の活動一、第25回日本建築学会四国支部研究発表会、徳島大学、2025.3

4.知的財産権の出願・取得状況

なし

5.令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- ①科学研究費補助金：基盤研究(A) 課題番号：24H00341 「気候変動による居住地喪失に伴う移転・非移転とその持続的生活の計画論」研究分担者（代表：森傑，北海道大学）
- ②令和6年度 徳島県 大学・地域連携課題解決フィールドワーク推進事業 「農山村の暮らし体験と地域文化の魅力発信ー上勝町におけるローカル SDGs の実践ー」代表者

6.自己評価

今年度は、卒業研究やゼミ生とともに、徳島県美波町木岐集落、上勝町をフィールドに持続可能なまちづくりに関する調査を実施したが、これまでに取得しているデータを論文としてまとめることはできなかった。集落移転の研究については、次年度の海外調査に向けて下準備を進めたが、十分な研究時間は確保できていない。

大学内運営

活動報告

1年クラス担任、インターンシップ推進委員会、広報担当委員会、新入生セミナー運営委員会、遍路ウォーク委員、1～4年生チューター、二級建築士受験資格関連事務担当、学科 Instagram 担当・オープンキャンパス担当・学科チラシ発行等広報担当

社会貢献

1.学会等への貢献

- ① 日本都市計画学会 学術委員（査読取りまとめ8本）
- ② 日本建築学会四国支部 男女共同参画推進委員
- ③ 日本建築学会四国支部徳島支所 幹事

2.地域社会への貢献

- ① 海外大学等とのオンライン交流事業（消費者庁及び徳島県消費者政策課主催）
- ② 国有財産四国地方審議会委員
- ③ 環境省四国環境パートナーシップオフィス運営委員会委員
- ④ 関西広域連合協議会委員
- ⑤ 徳島県屋外広告物審議会委員
- ⑥ 徳島県地方港湾審議会委員
- ⑦ 徳島県都市計画審議会委員
- ⑧ 徳島県入札監視委員会委員
- ⑨ 徳島県自転車活用検討委員会委員
- ⑩ 阿南市総合計画審議会委員
- ⑪ 徳島市景観審議会委員
- ⑫ 徳島市立地適正化計画策定検討会委員
- ⑬ 徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員
- ⑭ 特定非営利活動法人環境首都とくしま創造センター法人理事
- ⑮ 生活支援団体「美波の SORA」 顧問 等

第2節 食物栄養学科

個人情報

1. 氏名：石堂 一巳
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：生化学・医学
2. 学部授業担当科目
前期：健康管理概論・生化学Ⅱ・生化学実験・公衆栄養学演習
後期：生化学Ⅰ・臨床栄養学Ⅰ・病理学・食品衛生学演習
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（0）名、その他大学院学生（6）名
4. 自己評価：すべての学年の授業を担当している。また大学院生の教育も行っている。学部長として学部全体の様々な調整事項に対応している。同時に、食物栄養学科在籍者の保護者様との対応にはできるだけ同席して、学生に不利益がないようにしている。

研究領域

1. 専門研究領域：生化学
2. 研究課題及び概要
 - ①「QPRtase は、活性型カスパーゼ3 結合分子として細胞の運命を決定する。」

QPRtase は NAD 新規合成の律速酵素である。本研究において、細胞死実行因子である活性型カスパーゼ3 と結合して、カスパーゼ3 活性を制御していることを明らかにしている。少量のカスパーゼ3 は細胞周期が G2 期初期に活性化して、核膜裏打ちタンパク質を分解する。その一方、カスパーゼ3 が多量に活性化した場合には、アポトーシスが誘導される。この活性型カスパーゼ3 の量的・時間的・空間的制御に QPRT タンパク質が関与している。QPRT と結合した活性型カスパーゼ3 はカスパーゼ7 によって分解される。現在、細胞内でカスパーゼ3 とカスパーゼ7 の活性化を区別できる FRET ベクターの開発を行っている。
 - ②「カルシウム・ビタミンD およびビタミンB サプリメントによる骨強度指標の変化」

若年女性を対象としてカルシウム・ビタミンD サプリメントにビタミンB 群サプリメントを追加することにより音響的骨強度指標 (OSI)、広範囲超音波減衰係数 (BUA)、超音波伝達速度 (SOS) の変動を測定した。その結果、SOS の変化がまず起こり、それに続いて BUA が変化することが明らかになった。OSI は別の指標を含む二次パラメーターであるため、SOS や BUA の変化とは必ずしも一致しない。詳細に変化を検討したところ、SOS は骨サイクルに一致して変動しているのに対して BUA は季節の変動と一致して変動していることを明らかにした。現在、サプリメントを摂取しない被験者を対象として、BUA, SOS, OSI を測定している。
 - ③老化細胞が分泌する細胞死誘導因子の同定とその細胞死誘導機構の解明
3. 令和6 年度分 研究業績一覧
【論文】なし

4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和6年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
ビタミンB委員会奨学金：30,000円
6. 自己評価
副学長・学部長として、大学の運営および学部の運営に専念している。学部長就任1年目であるため、入試やOCなどすべての大学行事に参加し、全体像を見渡すことに専念した。そのため、研究テーマについて進展を見ることはなかった。

大学内運営

1. 活動報告
 - ・副学長
 - ・人間生活学部長
 - ・人間生活学研究科長
 - ・人間生活学専攻(博士後期課程)主任
 - ・自己点検自己評価委員会委員長
 - ・徳島文理大学研究倫理審査委員会委員長
 - ・徳島文理大学全学研究委員会委員長
 - ・人間生活学部組換え実験委員会委員長
 - ・人間生活学部実験動物委員会委員長

社会貢献

1. 学会等への貢献
 - ・日本病態プロテオーム学会監事
 - ・日本生化学会評議員
 - ・ビタミンB研究委員会委員
 - ・日本分子生物学会会員
 - ・日本人類遺伝学会会員
 - ・日本ビタミン学会会員
 - ・ASBMB (American Society of Biochemistry and Molecular Biology) 会員
2. 地域社会への貢献
 - ・徳島県食の安心安全審議会委員
 - ・コンソーシアムとくしま理事
 - ・徳島地域活性化雇用促進プロジェクト委員
 - ・四国地区教員養成委員会委員
 - ・食育推進全国大会徳島県実行委員会委員

個人情報

1. 氏名：増田 泰伸
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：解剖生理学
2. 学部授業担当科目
前期：運動生理学、応用栄養学Ⅱ、食品加工学、食品機能学、食品加工学演習、総合演習Ⅰ、解剖生理学（短期大学部食物専攻）
後期：微生物学、応用栄養学Ⅰ、食品加工学特論、基礎栄養学実習（2クラス）、給食経営管理演習、総合演習Ⅰ、総合演習Ⅱ、卒業研究
大学院 前期：食品生化学特論Ⅰ、後期：食品生化学特論Ⅱ
3. 直接に研究指導した学部学生： 卒論ゼミ生 4名
4. 自己評価

今年5科目以上もの新たな科目を受け持つなどして、1年生から4年生まですべての学年の授業を担当した。

授業の内容やまとめ、確認テストを Google Classroom にて公開することにより、学生の復習を促した。確認テストは管理栄養士国家試験のパターンの問題を取り入れ、早期から順応できるようにし、あわせて、学生の理解度を高めるべく問題解説をした。

基礎栄養学実習の科目は、体得し総合的に学んでもらうため、基礎栄養学の授業の補足なども含めて実施し、総合的に理解度を高める工夫をした。

また、学科長として、保護者様が大学にお越しくださったときには同席するなどして、学生と保護者様に対応した。

研究領域

1. 専門研究領域：神経薬理学、食生活学
2. 研究課題及び概要
①コリン、ビタミンが脳機能におよぼす影響に関する研究
今後の研究を進めるべく、東京農工大学大学院、広島大学大学院、食品企業の研究者と研究内容のやり取りをした。
②カロテノイドの吸収におよぼす鶏卵成分の影響に関する研究
3. 令和5年度分 研究業績一覧
 1. 論文：
なし
 2. 学会発表：
なし
 3. 知的財産権の出願・取得状況：
なし
 4. 令和5年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

なし

5. 自己評価：

本年度は、教育と学科運営に専念する形となった。今後は、教育・研究を整備していきたい。

大学内運営

1. 活動報告

- ①健康科学研究所所長
- ②食物栄養学科長
- ③徳島文理大学全学研究委員会委員
- ④3年生の担任
- ⑤1年生から4年生21名のチューター担当
- ⑥オープンキャンパス
- ⑦保護者会で保護者との面談
- ⑧総合型選抜入試面接、推薦入試面接
- ⑨高校来校時の学科説明
(池田高校、室戸高校、ヒューマンキャンパス高知学習センター)

社会貢献

1. 学会等への貢献

- ①日本栄養・食糧学会 参与
日本栄養・食糧学会大会参加(令和6年5月25日～26日)
- ②日本機能性食品医用学会 評議員
- ③日本アレルギー学会 会員
- ④日本臨床栄養学会 会員
- ⑤徳島大学医学部非常勤講師

2. 地域社会への貢献

- ①第20回食育推進全国大会第1回徳島県実行委員会に出席
(石堂一巳副学長の代理出席)
- ②牟岐町におけるもち麦やモリंगाを使つての地域おこし事業への協力

個人情報

1. 氏名： 犬伏 知子
2. 職位： 教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：食品衛生学
2. 学部授業担当科目
前期：食品衛生学、公衆栄養学演習、公衆栄養学実習(2 クラス)
後期：食品衛生学特論、食品衛生学演習、食品衛生学実習(2 クラス)
3. 直接に研究指導した学部学生等： 卒論ゼミ生（1 年から 4 年） 22 名
4. 自己評価：

前期の公衆栄養学演習と後期の食品衛生学演習は国家試験科目であり、問題数もかなりあるので、集中してわかりやすく印象に残るように教育する必要がある。

そこで過去の模擬試験内容や、国試の過去問を中心にプリントにして事前に配布し、予習させると同時に、当日は追加問題を解いてもらった後、その日の内容の確認試験も行った。公衆栄養学実習では、国試に繋がる内容を増やし復習も取り入れた。前期、後期の食品衛生学、食品衛生学特論の授業では、単元ごとに小テストを行い、大切な内容はパワーポイントで示しながら、授業を進めた。その内容は、クラスルームにも添付し、復習を促した。第 38 回国試の結果、公衆栄養学は正解率 66.9%であり昨年より上がり、食品衛生学は、食品学分野(3 名の教員が担当)で正解率は 6 割を切っており昨年と同様であった。問題の難易度にもよるが、もう少し 2 年生から集中して記憶に残る授業を心がける必要がある。

研究領域、栄養

1. 足指筋力と身体組成、栄養素摂取量および食品群別摂取量の関連
2. 乳製品乳酸菌飲料摂取が睡眠の質および体格指標に及ぼす影響に関する検討

令和 5.6 年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書

犬伏知子, 小河ゆか, 橋田誠一: 女子大生の足指筋力(利き足)に及ぼす栄養・身体活動指導の影響, Japanese Journal of Health, Fitness and Nutrition, 27・28(1), 1-9 (2023)

2. 学会発表 なし

3. 知的財産権の出願・取得状況 なし

4. 令和 6 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況: なし

自己評価:

「乳製品乳酸菌飲料摂取が睡眠の質や体格指標に及ぼす影響についての検討」の卒業論文を、学会誌に投稿し、現在査読を行ってもらっている途中である。

今までに学生さんと一緒に行った卒論を論文に残すことは、既に卒業していても、別冊を送って見てもらうことにより、自信をもって今後に役立ててもらえると考えられる。

大学内運営

1 活動報告

- ① アカサス会の副会長を担当（学園創立 130 周年記念 ホームカミングの計画会議担当）
- ② 自己点検・自己評価委員会委員
- ③ 就職支援委員(学部代表)
- ④ 入試問題作成委員（化学基礎）の主任担当
- ⑤ 臨地・校外実習の実習先開拓および実習計画担当
- ⑥ 臨地・校外実習打合せ会の学内協議担当
- ⑦ 臨地・校外実習打合せ会で計画説明担当
- ⑧ 4 年生の担任
- ⑨ 1 年から 4 年生 22 名のチューター担当
- ⑩ 名西高校 1 年生ガイダンスに出席し学科の紹介をした。
- ⑪ 沖縄医療系オープンキャンパスに出席し学科紹介を行った。
- ⑫ 学内オープンキャンパス模擬授業担当

社会貢献

1 学会等への貢献

日本栄養改善学会会員
日本栄養・食糧学会会員
日本ビタミン学会会員
日本家政学会会員
日本健康体力栄養学会会員
日本食生活学会会員

2 地域社会への貢献

徳島県危機管理部消費者くらし安全局安全衛生課の講師指導のもと、食物栄養学科 2 年生を食品表示ウォッチャーとして、市場の食品表示のチェックを行ってもらった。

個人情報

1. 氏名：中川 利津代
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：栄養教育論、給食運営学
2. 学部授業担当科目
前期：食物栄養学科 3 年：栄養教育論Ⅱ、栄養教育論実習Ⅰ（2 クラス）、
食物栄養学科 4 年：給食運営臨地実習代替演習
後期：食物栄養学科 2 年：栄養教育論Ⅰ、
食物栄養学科 3 年：栄養教育論Ⅲ、栄養教育論実習Ⅱ（2 クラス）、
食物栄養学科 4 年：栄養教育論演習（吉村英悟先生と合同開講）
通年：ゼミ
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（6）名、大学院生：修士（0）名
4. 自己評価
 - ・1 年生から 4 年生まで チューターとして学生 20 名をやる気アップと目標設定、タイムマネジメントを指導。
 - ・ゼミ生には、セルフコーチングができるように指導し、国家試験合格に向けサポートした。また、ゼミ室で勉強しやすいように環境を整えた。
 - ・第 38 回管理栄養士国家試験において社会と健康の分野の正答率がアップした。
 - ・栄養教育論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの授業の資料を 1 から作成した。
 - ・栄養教育論実習では、コーチングスキルを学びクライアントと信頼関係を築く方法を教えた。学生の個別及び集団での栄養教育力が向上した。
 - ・臨地実習の学生指導、巡視、給食運営臨地実習代替演習の評価等
 - ・学生が考えた牟岐町産もち麦とモリंगाを使用したヘルシーメニューの販売
学生は売れる商品づくり（マーケティング）や食品表示法、施策について学んだ。
活動を通じて、学生は学校で経験できない体験をした。地域貢献にやりがいを見出した。コミュニケーション能力等がアップしキャリアアップにつながった。

研究領域：

研究テーマ：地域貢献を主体とした研究

1. 牟岐町産もち麦やモリंगाを使つての地域おこし事業をサポート
2. 地域貢献事業を通じて得られる学生への教育効果

令和 6 年度分 研究業績一覧

1. 論文
2. 学会発表
 - 日本栄養学教育学会 演題：産官学連携及び地域貢献が人生 100 年時代の社会人基礎力の育成・キャリア教育に及ぼす影響
 - 四国公衆衛生学会 演題：医療機関の管理栄養士が糖尿病患者への栄養指導力を持つ職場環境に関する研究
3. 知的財産権の出願・取得状況 1) なし

4. 令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
 - 1) 補助金の名称：令和6年度県南地域づくりキャンパス事業
 - 2) 委託元「四国の右下」若者創生協議会（事務局徳島県南部地域創生防災部＜美波＞ 地域振興担当）

自己評価：

1. 産官学連携及び地域貢献が人生100年時代の社会人基礎力が向上しキャリア教育に効果があった。
2. 新聞社、テレビ局、FM局等マスコミから取材があり、産官学連携による地域貢献活動を広報することができた。
3. 徳島文理大学の名前を回数多く広報した。

大学内運営

- ・ 徳島文理大学における地域貢献事業として位置づけ
- ・ 牟岐町産もち麦を使つての地域おこし事業を徳島文理大学のホームページに掲載
- ・ オープンキャンパスで模擬授業
- ・ 城南高等学校学部・学科入試説明会講師
- ・ 牟岐町産もち麦を使つての地域おこし事業に興味を持ち、入学する学生が増えた。
- ・ 推薦入試面接、AO入試面接、I期A試験官等担当
- ・ 学生指導委員会の委員担当、・ハラスメント防止委員会相談員

社会貢献

- ・ 牟岐の農家・JAかいふ女性部・牟岐町・徳島県南部県民局と連携してもち麦とモリンガパウダー、モリンガ茶、ジュレ、ゆず茶、牟岐茶の販路拡大
- ・ 「万博1年前県庁マルシェ」（4/12 徳島県庁）（徳島県主催）
- ・ 「もち麦&モリンガ試食会&交流会」（8/2 牟岐町海の総合文化センター、モリンガ畑等）
- ・ 「とくしまエシカルマルシェ」（8/4 ゆめタウン徳島）（徳島県主催）
- ・ 「牟岐町ヘルスメイトさんとの連携イベント」（9/12 牟岐町海の総合文化センター）
- ・ 山城祭でもち麦とモリンガを使ったメニューの紹介及び販売（10/27 徳島文理大学）
- ・ 「第6回牟岐町にぎわい産業祭」（11/17 牟岐町立体育館）（牟岐町観光協会主催）
- ・ 「もちっとむぎゅっとカフェ」（12/21 モラスコむぎ）（徳島文理大学・牟岐町主催）
- ・ 「牟岐町で活動する大学、学生・若者団体による活動事例発表会」2/15（牟岐町主催）
- ・ 徳島県民の健康指標や栄養状態と牟岐町産もち麦やモリンガの特徴を啓発・周知
- ・ 徳島県シルバー大学校大学院からの依頼：徳島県立防災センターにおいて「いつ起こるかわからない南海地震に備えて食糧備蓄を考える」と題し講演
- ・ 吉野川市食生活改善推進協議会からの依頼：吉野川市役所で「人生100年時代フレイル予防で第2の人生ワクワクイキイキにしましょう！」と題し講演。令和6年12月から令和7年1月に中央テレビとケーブルネットおえで講演内容が放映された。
- ・ 徳島大学医学部医科栄養学科 非常勤講師
- ・ 日本公衆衛生学会会員、日本栄養改善学会会員
- ・ 日本栄養学教育学会会員、日本運動体力栄養学会会員

個人情報

1. 氏名： 近藤 茂忠
2. 職位： 教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：解剖生理学、基礎栄養学、臨床栄養学
2. 学部授業担当科目
前期：解剖生理学Ⅰ・基礎栄養学・臨床栄養学Ⅱ・免疫学・調理学演習
後期：解剖生理学Ⅱ・解剖生理学・臨床栄養学演習・解剖生理学実験
3. 直接に研究指導した学部学生： 卒論ゼミ生 7名
4. 自己評価：

全ての授業および実習において、解説を重視した学生が「分かりやすい教育」ではなく、学生が自ら「考えやすい教育」を行った。自分のアタマで考えることの充実感を経験させ、知識を「覚える」から「考えて分かる・解かる」レベルへ、丁寧に指導した。

考えやすくするために、「図で考える」を重視した授業を展開した。「図で考える」ために、本質的な良いイメージ図を組み合わせで作製したプリントを学生に提供し、まずは自分のアタマで、どのような重要情報があるのか、これらの情報がどのように繋がっているのか、を考えさせた。その後、全体を俯瞰して理解できるように丁寧に解説し、教授した。その結果、学生の知識修得は、単なる個別知識の記憶（暗記）ではなく、線でつながった深い理解となった。さらに、良いイメージ図の素材だけを提供し、学生自身が理解し考えた「A3プリント」を作製させた。このプリントを作製する過程で、1つ1つの図表の内容を各自が自分のペースで理解することへ繋がった。模範的なプリントを作製した学生には、授業の中でプレゼンテーションさせた。その結果、学生相互の知的刺激が増し、各学生の理解が飛躍的に伸びた。

全ての授業および実習において、教科書の文字情報のみではなく、出来る限り「図」で理解できるように、パワーポイントを用いた印象的なスライドを用いて授業を行った。さらに、「図スライド」だけでは理解しにくい複雑な内容については、図書館所蔵の各種DVDをフル活用し、情報の繋がりがより理解しやすいように動画で視聴させた。また、動画を見せるだけでは途中から内容についていけない学生もいるため、要所要所で動画を止めて、丁寧な解説を行った。

解剖生理学については、授業だけではなく、実習の時間も十分にあったことから、授業で修得した知識が定着しているか、使える知識になっているかに重点を置いて、グループ学習、グループディスカッション、プレゼンテーションを重視した。その結果、難解な解剖生理学についての理解が飛躍的に高まった。

全ての授業において、国家試験への意識づけを目的として、修得した学習範囲の国家試験過去問題に挑戦させた。その後、国家試験問題の出題特徴や考え方・解き方を教授した。その結果、国家試験レベルの問題を解くために必要な知識およびその繋がりを理解できるようになった。

研究領域

1. 専門研究領域： 臨床分子栄養学、食品機能学、腫瘍生物学

2. 研究課題及び概要：「食品機能成分による大腸発がんの革新的予防法の開発」

大腸がんを根絶できない本質的な原因は、治療開始時点で既にかん細胞が多種多様な遺伝子異常を蓄積しているため、十分な治療効果が得られないことである。したがって、「大腸がんの根絶」を実現するための“真の標的”は遺伝子異常が少ない極最初期の微小前がん病変（悪性ポリープの“タネ”）である。この“タネ”を大量発生させる原因遺伝子が「変異型 KRas」である。精密遺伝子検査研究の結果、「変異型 KRas」を持った“タネ”が健常者の正常大腸上皮で既に5～20万個存在することが解っている。よって「大腸がんの根絶」を実現するためには変異型 KRas 阻害化合物が必要である。この化合物として最適なのは、医師の処方箋が必要な薬剤ではなく、生涯を通して安全・安心に摂取し続けられる食品由来の天然化合物である。

本年度は、緑茶に含まれる主要フラボノイド類を検討し、茶カテキン類の EGCG が変異型 KRas (G12D 変異) に結合しこれらの発がん活性を阻害できることを明らかにした。今後は、大腸がんのタネを発生させる主要な6種類の変異型 KRas (G12A/C/D/V, G13D, Q61H 変異) に直接結合し、その発がん活性 (RAF 蛋白質との結合) を阻害できる全ての緑茶フラボノイドを同定していく。

3. 令和5年度分 研究業績一覧

【論文】Epigallocatechin gallate overcomes the acquired resistance to molecular-targeting drug foretinib in human colorectal cancer cells. *J. Med. Invest.* (in press).

4. 知的財産権の出願・取得状況：なし

5. 令和5年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

科研費（挑戦的研究・萌芽）および上原記念生命科学財団・研究助成金 申請中
キャノン財団・研究助成プログラムおよび藤記念科学財団・研究助成金 不採択

6. 自己評価

今後も積極的に競争的外部資金の獲得に努める。また、共同研究者との研究をさらに推進し、成果発表（英語原著論文と学会発表）を増やしていく予定である。

7. 大学内運営

（委員）入試委員（人間生活学部）、入試問題作成委員

（クラス担任）食物栄養学科2年生担任, 1～4年学生のチューター（21名）

（その他）入試面接、共通テスト監督、オープンキャンパス模擬授業

社会貢献

1. 学会等への貢献

日本栄養・食糧学会参与・日本癌学会会員・日本分子生物学会会員

2. 地域社会への貢献

四国がんプロフェッショナル講座・徳島大学臨床栄養学オープンカレッジ2024において、「がん予防のための食品研究の最前線」というタイトルで講演を行った。

3. その他

令和6年度全国栄養士養成施設協会会長顕彰受賞

個人情報

1. 氏名： 釜野 桜子
2. 職位： 准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 公衆衛生学・公衆栄養学
2. 学部授業担当科目
前期：公衆衛生学Ⅰ、公衆栄養学Ⅰ、公衆衛生学実習、公衆栄養学臨地実習代替演習
後期：公衆衛生学Ⅱ、公衆栄養学Ⅱ、公衆衛生学演習、総合演習Ⅰ（副担当）
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論ゼミ生 6名
4. 自己評価
初年度のため、授業・実習作りに注力した。講義では、パワーポイントによる講義とし、教科書の図表も示しながら教科書に沿った内容を心がけた。パワーポイント資料はGoogle クラスルームでも共有した。実習はパソコンを用いた統計の実習のため、クラスルームで手順を示したパワーポイント資料を共有しながら、教員の手元操作も見えるようにし、学生の進捗にあわせた実習を心がけた。演習では管理栄養士国家試験の過去問や類似問題を解いてもらい、対応する单元について対策テキストの解説をした。総合演習Ⅰでは、臨地・校外実習の説明や指導を行った。

研究領域

1. 専門研究領域： 栄養疫学
2. 研究課題及び概要
1) 生活習慣病予防に関する大規模疫学研究
生活習慣や体質と生活習慣病のなりやすさを研究する大規模疫学研究（J-MICC Study）の研究分担者であり、主に栄養疫学研究を行っている。
3. 令和6年度分 研究業績一覧
1) 原著論文
1) Watanabe T, Nguyen TV, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Ishizu M, Unohara T, et al. The Significance of Comprehensive Metabolic Phenotypes in Cancer Risk: A Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. Cancer Res Commun. 2024;4(11):2986-2997.
2) Kasahara C, Tamura T, Wakai K, Tamada Y, ... Arisawa K, Katsuura-Kamano S, et al. Association between consumption of small fish and all-cause mortality among Japanese: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. Public Health Nutr. 2024 ;27(1):e135.
3) Hishida A, Nakatochi M, Sutoh Y, Nakano S, Momozawa Y, ... Katsuura-Kamano S, et al. GWAS Meta-analysis of Kidney Function Traits in Japanese Populations. J Epidemiol. 2024; 34(11):526-534.

4) Tsukamoto M, Hishida A, Tamura T, Nagayoshi M, …Katsuura-Kamano S, Arisawa K, et al.

GWAS of Folate Metabolism With Gene-environment Interaction Analysis Revealed the Possible Role of Lifestyles in the Control of Blood Folate Metabolites in Japanese: The J-MICC Study. J Epidemiol. 2024 ;34(5):228-237.

2) 学会発表

1. 上村浩一、釜野桜子、石津将、渡邊毅、日本人女性における出産回数や月経状況と動脈ステイフネスとの関連：J-MICC Study 徳島地区調査、第 83 回日本公衆衛生学会総会（札幌）

2. 上村浩一、釜野桜子、石津将、渡邊毅、日本人女性における生殖関連要因と動脈ステイフネスとの関連：J-MICC Study 徳島地区調査、第 39 回日本女性医学学会学術集会（栃木）

3. 須磨紫乃、釜野桜子、片岡宏介、渡邊毅、石津将、大豆食品摂取量が全死因死亡・死因別死亡に与える影響：J-MICC Study、第 35 回日本疫学会学術総会（高知）

4. 上村浩一、釜野桜子、石津将、渡邊毅、月経状況や生殖歴と慢性炎症、インスリン抵抗性や血中アディポネクチン値との関連、第 35 回日本疫学会学術総会（高知）

4. 知的財産権の出願・取得予定：なし

5. 令和 6 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

閉経年齢の規定要因の解明および閉経年齢を考慮した疾患別リスク評価モデルの構築、基盤研究 C、分担

6. 自己評価

本年度はこれまでに行ってきた疫学研究を共同研究として進めた。共同研究者の研究内容の指導や論文執筆指導を主として行った。今後は執筆中の筆頭での論文作成や学会発表を進めていきたい。

大学内運営

食物栄養学科 3 年生担任、各学年チューター、入試業務、オープンキャンパス模擬授業担当を務めた。

社会貢献

1. 学会等への貢献

日本疫学会代議員、日本公衆衛生学会会員、日本栄養改善学会会員、日本衛生学会会員

2. 地域社会への貢献

1) 徳島県医療審議会委員

2) 徳島県地域医療総合対策協議会委員

3) 徳島県立保健製薬環境センター試験研究評価委員

個人情報

1. 氏名： 栗飯原 乙起（旧姓：中橋）
2. 職位： 講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 臨床栄養学

2. 学部授業担当科目

前期：分子栄養学、臨床栄養活動論、
臨床栄養学臨地実習代替演習、臨床栄養学実習Ⅰ

後期：応用栄養学Ⅲ、応用栄養学実習、臨床栄養学演習、臨床栄養管理論

通年：文理学、卒業研究

大学院 前期：分子栄養学特論Ⅰ
後期：分子栄養学特論Ⅱ

3. 直接に研究指導した学部学生等：(0名)

去年度、本研究室で博士前期課程修了し、実験助手として本学に勤めている中西敦士先生に引き続き論文作成指導を行い、共著として「ラット精巣におけるビタミンD代謝関連遺伝子発現解析」というタイトルで徳島文理大学研究紀要（査読有）に投稿し、受領された。

4. 自己評価

講義においては国家試験を意識し、頻出の内容に関しては特に重点的に説明した。本学科では、3年生でオープンキャンパスや大学祭において、高校生や地域住民の方々に対して体組成測定や食事診断、栄養相談を行っている。それに備えて、2年生後期の応用栄養学実習では学生自身で体重・体組成の管理、食事内容の栄養価計算ができることを達成目標とした。3年生前期の臨床栄養学実習Ⅰにおいては栄養ケアプロセスにおけるSOAP報告書の作成、各種交換表を用いた献立作成ができることを達成目標とした。各講義・実習において、ほぼすべての学生が達成目標に到達したと評価している。

研究領域

1. 専門研究領域： 栄養学 リン・カルシウム・ビタミンD代謝

2. 研究課題及び概要

【研究課題】 遺伝子発現解析を通じたビタミンD代謝の理解

【概要】

これまでに当研究室では、ビタミンD不活化酵素であるCYP24A1に着目し、ラット

Cyp24a1 遺伝子の各種スプライシングバリエント体の mRNA 発現解析法、および全長 *Cyp24a1* タンパク質発現解析法を確立することができた。また、肝臓でビタミン D の 25 位を水酸化する酵素として知られている CYP2R1 に着目し、その発現解析を行った。その結果、ラット腎臓において、*Cyp2r1* mRNA が肝臓と同程度に発現していること、ラット精巣において *Cyp2r1* タンパク質が肝臓および腎臓よりも高く発現していることなどを見出した。

3. 令和 6 年度分 研究業績一覧

【論文】

1) 「ビタミン D の代謝調節と体内時計の関与について」:

山本 浩範, 石黒 真理子, 福田 詩織, 中橋 乙起, 田中 更沙, 増田 真志,
武田 英二, 竹谷 豊 (四国医学雑誌)

2) 「ラット精巣におけるビタミン D 代謝関連遺伝子発現解析」:

中西敦志, 栗飯原乙起 (徳島文理大学紀要)

4. 知的財産権の出願・取得状況: なし

5. 令和 6 年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況: なし

6. 自己評価

今後も卒論生、大学院生と研究をすすめ、研究成果を学会で発表し、論文の作成をしていく。

大学内運営

入試問題作成 (生物基礎)、1 年生担任、1~4 年生チューター
人間生活学部広報担当委員、新入生セミナー担当
進学説明会 (愛媛、香川東讃、海部ブロック) 参加

社会貢献

1. 学会等への貢献

日本栄養改善学会 会員
日本ビタミン学会 会員
日本分子生物学会 会員
日本栄養学教育学会 会員

2. 地域社会への貢献

- ~令和 6 年 6 月 徳島県栄養士会 研究教育協議会 理事 組織・広報部
- 全国健康保険協会 徳島支部との共同企画、「徳島文理大学・短期大学部考案!! 健康レシピ」監修。

個人情報

1. 氏名： 森川 咲子
2. 職位： 講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 臨床栄養学
2. 学部授業担当科目
後期： 臨床栄養学実習Ⅱ(松村晃子先生と共同開講)、栄養学(保健福祉学部理学療法学科2年対象)
3. 直接に研究指導した学部学生等： なし

4. 自己評価

育児休業を経て11月から復職したが、学科の先生方にお力添えいただいたおかげで、円滑に復帰することができた。復職後は臨床栄養学実習Ⅱを担当し、少人数による症例検討や、糖尿病や腎臓病の食品交換表を活用した献立作成実習を実施した。前期から継続して取り組まれてきた内容でもあり、大半の学生が傷病者を対象とした献立を適切に立案できるようになったと感じている。これにより、後期終了後から始まる臨地・校外実習に向けた事前準備が一定程度整ったと考えている。

また、保健福祉学部理学療法学科2年生を対象とした栄養学の授業では、講義形式に加え、ディスカッションや小テストを取り入れることで、学生が自ら考え、意見を発表する機会を増やすよう工夫した。授業準備では、学生の興味を引きやすいリハビリテーション栄養に関する事例や最新の研究データを教材に盛り込み、実践的で分かりやすい内容を目指した。その結果、学生からは「理解しやすい」「実践的な知識が身についた」との声を得られ、一定の成果を感じている。一方で、授業設計や進行において、特に学生間の理解度に差がある場合の対応が課題となった。

研究領域

1. 専門研究領域： 栄養学 健康科学 栄養疫学 臨床疫学

2. 研究課題及び概要

【研究課題1】 小児生活習慣病の早期発見・早期予防に関する臨床疫学的研究

【概要】

本研究は、小児期の生活習慣病を早期に発見し予防することを目的とし、食事、運動、睡眠などの生活習慣が思春期の生活習慣病リスクに与える影響を明らかにすることを目指す。既存の疫学データの解析と新たな調査を通じ、栄養、身体活動、睡眠などの要因が肥満や血圧、血中脂質、血糖値等の生活習慣病指標に及ぼす影響を検討する。

【研究課題2】2型糖尿病患者の生活習慣療法に関する臨床疫学的研究

【概要】

本研究は、2型糖尿病患者における生活習慣療法（食事、運動、睡眠）と心理的要因が、血糖コントロールや合併症に与える影響を臨床的に解析する。患者の生活習慣と心理的要因（性格特性、うつ傾向など）が糖尿病進行に及ぼす影響を評価し、個別化された治療アプローチの有効性を検討する。

令和6年度分 研究業績一覧

1.学会発表

- 1) 塩崎悠香, 藤原和哉, 武田安永, 池田和泉, 森川咲子, 山田貴穂, 小川洋平, 曾根博仁.
本邦の小・中学生における睡眠習慣が肥満に及ぼす影響. 第97回日本内分泌学会学術総会(横浜市)
- 2) 池田和泉, 藤原和哉, 武田安永, 塩崎悠香, 森川咲子, 小川洋平, 石黒創, 山田貴穂, 曾根博仁. 中学2年時と20歳時との肥満を中心とした代謝指標の個別推移. 第97回日本内分泌学会学術総会(横浜市)

2. 令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の交付状況：

生活習慣病治療をめざすビッグデータ/AI活用包括セルフケアシステム開発と効果検証、基盤研究B、採択、分担
日本人糖尿病患者における環境因子と遺伝因子を考慮した食事療法のエビデンス構築、基盤研究C、採択、分担

3. 自己評価

本年度は、新しい研究テーマとして「乳児期の栄養状態と思春期の健康状態との関連」を設定し、その基盤となるプレ解析や文献検索を進めた。プレ解析では、既存データを用いて乳児期の栄養指標が思春期の健康状態に与える影響を検討し、仮説の妥当性を確認した。また、関連分野の最新文献を収集・整理することで、国内外における同様の研究動向を把握し、研究の意義や位置づけを明確にした。これらの活動を通じて、研究計画の具体化が進み、次のステップに向けた基盤を整えつつある。一方で、データのさらなる精査や、より詳細な解析手法の検討が今後の課題であると感じている。次年度は、これらの課題を解決しながら、具体的な成果を得るための解析と学会発表の準備を積極的に進めていきたい。

社会貢献

1. 学会等への貢献：日本臨床栄養学会評議員

その他、日本臨床運動療法学会、日本疫学会、日本病態栄養学会、日本栄養食糧学会、日本栄養改善学会に所属

2. 地域社会への貢献

栗飯原先生と共同で、城北高校の総合的な学習（探究）の時間のアドバイザーを務めた。

個人情報

1. 氏名：吉村英悟
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：食品学
2. 学部授業担当科目

前期：食品加工学演習、食品学、食品学実験、文理学

後期：食品加工学実習、食品学実験Ⅱ、食品学特論

3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（2）名、大学院生：修士（0）名

4. 自己評価：前年度問題点のあった個所を改善し授業内容を少し変更したり、できるだけモデルコアカリキュラムにそって授業を行うようにした。またできるだけ教科書等で記載が少ない食品の写真等をスライドに映し出しわかりやすく行った。普段の食生活につながるように食品の知識を深められるように授業を進めた。授業における学生の理解度の確認は小テストやレポートなどの課題で行ったが、不十分であったと感じた。次年度にはもう少し資料作りや学生の理解度の確認など授業運営の改善をしていきたいと考えている。

また座学や実験はなるべく管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラムや管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）に準じるように工夫はしたつもりであるが、もう少し改善が必要と感じた。特に実験は、日本標準食品成分表につながるような実験内容とリンクするように改善をしていきたい。

研究領域：食品学

研究テーマ

たまねぎ・ごぼう等に含まれるイヌリンおよびイヌリン分解物の分析による検討

令和5年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書

論文なし

著書 共著 食品学実験書 第5版 栄養成分表示とデータ処理がわかる
医歯薬出版 2025年3月

2. 学会発表

なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

なし

自己評価： 本学に入ってから初年度でであると言いつけないが、今後学会発表や論文作成等できるように研究を進めていきたい。

運営：

食物栄養学科4年生担任、各学年チューター、オープンキャンパス模擬授業、保護者面談、総合選抜入試面接等、公募制推薦入試面接等、新入生セミナー、

社会貢献：

徳島県の連携事業

- 食品加工関連講座の開催に係る支援
- 「六次産業化研究施設」の活用

徳島県栄養士会

生涯教育推進チーム 副主任

個人情報

1. 氏名：松本 萬寿美
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：給食経営管理、栄養教諭
2. 学部授業担当科目
前期：給食経営管理実習（3年2クラス）、給食経営管理Ⅱ（3年2クラス）
事前・事後指導（栄養教諭）（3年、短期大学部食物専攻2年）
給食経営管理臨地実習代替演習（4年）
後期：教職実践演習（栄養教諭）（4年、短期大学部食物専攻2年）
給食経営管理Ⅰ（2年） 給食経営管理演習（4年）
栄養教育実習（3年、短期大学部食物専攻2年）
3. 直接に研究指導した学部学生等
栄養教諭セミナー（4年1名）、卒論生（4名）
4. 自己評価：
 - ・HACCP対応の大量調理施設として、14号館の調理施設を使用し『給食経営管理実習』の100食に近い提供実習を毎年行っている。施設設備の衛生的及び安全的な維持管理において、不備な点が見受けられるようになったため、短期大学部生活科学科食物専攻の先生や助手と協議を重ね、できる範囲での大掃除を実施した。また、機器の専門家に確認を取りながら日々のメンテナンス計画を作成させ、講義責任者が代わっても継続的な維持管理のための衛生的・安全的なマニュアルとした。
 - ・「給食経営管理」は国家試験科目であり、4年生後期において今まで習った内容を整理し、教科書確認ポイントとして学生に配り、折に触れ説明した。また、新ガイドラインとして英語用語問題の導入や計算問題を多く取り入れた演習を実施し、正答率を上げる手立てとした。

研究領域

1. 専門研究領域： 栄養教諭
2. 研究課題及び概要：将来を担う子どもたちの食育を推進する栄養教諭の育成
3. 令和6年度分 研究業績一覧：【論文】なし
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし

5. 令和6年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし

6. 自己評価：

- ・徳島市教育委員会に推薦し、卒業生ひとりを臨時栄養職員として採用させることができた。
- ・徳島市内の臨時教員をし始めた学生について、仕事をしながら文理大学での家庭科教員資格取得のための方策について、話を進めることができた。
- ・卒業生で、臨時栄養職員として勤務し、折に触れ仕事の悩みや相談に乗っていたが、今年正規の栄養教諭として採用されることとなり、喜びを分かち合った。

大学内運営

1. 活動報告

- ①（委員） 人間生活学部教員養成推進委員会委員
徳島キャンパス教員養成対策委員会委員
全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- ②（クラス担任）食物栄養学科4年生担任（52名）
学生のチューター担当（4年4名）
- ③（その他） バレーボールサークル顧問

社会貢献

1. 学会等への貢献

なし

2. 地域社会への貢献

- ① 徳島県市町村教育委員会派遣講師
新任栄養教諭の指導員として、美波町教育委員会に派遣され、日和佐中学校及び美波町学校給食センター栄養教諭の指導にあたった。
- ② 鳴門市里浦小学校での講演
徳島県教育委員会体育健康安全課の依頼により、『元気なあわっ子！応援事業での講演及び質疑応答』として、保護者及び4年生から6年生の児童を対象に野菜のパワーについて、食育講演を実施した。

個人情報

1. 氏名：小原 由衣
2. 職位：助教

教育領域

1. 教育の担当専門領域：調理学
2. 学部授業担当科目
前期：調理学実習Ⅰ、食生活論、調理学演習
後期：調理学、調理学実習Ⅱ、調理学実験
通年：文理学
3. 直接に研究指導した学部学生： 卒論ゼミ生 12名
4. 自己評価
 - ・ 調理学実習では、管理栄養士国家試験に出題される内容を、前後期繰り返し実習内で説明しながら実践することで、印象に残っている様子がレポートや実習中の発言から伺えた。また、昨年度の学生の様子から今年度はレポートの内容・指導資料を見直して大幅に変更したため、学生の作業効率が上がり、後期の実習では時間的に余裕をもって実習をおこなうことができた。
 - ・ 講義に関しては、学生がイメージしやすく国家試験に向けて記憶に残る授業になるように、補足的にスライドを用い、実務の現場での話や学生の身近なものに例えて授業をおこなった。調理学の講義で理論を説明し、調理学実験で知識の定着を図るようにしている。調理学の授業の最後に国家試験の過去問を用いた小テストを実施し、解説も学生にランダムに当てながら行うことで講義内容の振り返りと定着を図った。小テストの結果が悪かった問題は、次の授業で補足説明を行ったり、定期テストの問題作成に使用したりしている。

研究領域

1. 研究課題及び概要
ヒスチジン摂取量とアレルギー症状の有症率との相関関係を評価することで、食事からのヒスチジン摂取量が、生体内でのヒスタミン生成量に影響を与え、アレルギー症状軽減に影響する可能性について検討する研究を行っている。
2. 令和6年度分 研究業績一覧
【論文】なし
3. 知的財産権の出願・取得状況
なし
4. 令和6年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

なし

5. 自己評価

栗飯原先生が担当されている応用栄養学実習内で実施する食事調査のデータとアレルギー症状の有無を確認する質問紙のデータをとることができた。研究結果をまとめ論文化し、次年度発表したい。

大学内運営

1. 活動報告

(担 任) 1年生担任、1～4年生チューター

(その他) 入試面接、I期B試験監督、オープンキャンパス模擬授業、公募制推薦入試合格者のための学科紹介・施設見学担当、大学見学模擬授業(室戸高校・池田高校)

社会貢献

1. 学会等への貢献

日本栄養改善学会会員、日本調理科学会会員

2. 地域社会への貢献

なし

第3節 児童学科

個人情報

1. 氏名：三橋 謙一郎
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育方法、生徒指導、特別活動、保育方法
2. 学部授業担当科目
前期：初等教育方法論、生徒指導（進路指導）を含む、保育援助論、保育方法演習①
後期：教育方法論、教職概論、保育・教職実践演習（幼・小）保育方法演習②専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（3）名、その他（7）名
4. 自己評価
 - * 授業では具体的な実践例を取り上げながら、理論的な内容をわかりやすく説明するように心がけた。
 - * 授業での私語対策として、学生の反応に応じて説明の仕方を変える等の工夫に努めた。
 - * 教職科目の授業に関しては、教員採用試験との関連を考慮し、教材の精選に工夫を凝らした。

研究領域

1. 専門研究領域：教育学、教育方法学、幼児教育方法学、臨床教育学
2. 研究課題及び概要
 - ・教育的タクトのあり方に関する実証的研究：理論に支えられた教育的タクトのあり方を、現場の授業実践の参観＝分析に基づき、具体的・実践的に追求していく。
3. 令和6年度分 研究業績一覧
 - 【著書】日本教育方法学会編『教育方法学辞典』学文社，2024年10月，共
 - 【論文】『学びに向かう力』を育むことと授業づくり』『徳島文理大学研究紀要』109号，2025年3月，個【研究報告・査読あり】
- 4 知的財産権の出願・取得状況：無し
- 5 令和5年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：無し
6. 自己評価
 - ・広島県内、高知県内、徳島県内の現場の授業実践を中心に、授業の分析＝検討を行い、上述の検討課題を達成するために、研究成果を発刊することで一定の成果が得られたように思う。

大学内運営

1. 活動報告

- ① 人間生活学専攻科長
- ② 大学院人間生活学研究科児童学専攻主任
- ③ 全学教職課程委員会委員長
- ④ 全学教員養成対策委員会委員
- ⑤ 人間生活学部教員養成推進委員会委員長
- ⑥ 児童学科4年クラス担任
- ⑦ 児童学科Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ年チューター〔4年3名の卒業研究指導を含む〕(18名)
- ⑧ 大学院人間生活学研究科児童学専攻チューター〔博士前期期課程2年2名の修士論文指導を含む〕(2名)

社会貢献

1. 学会等への貢献

- ① 日本教育方法学会常任理事・研究奨励賞審査委員会委員長
- ② 日本特別活動学会理事・実践支援研究委員会委員
- ③ 現代学習集団授業研究会副会長
- ④ 中国四国私立大学教職課程研究連絡協議会代表委員
- ⑤ 中国四国保育士養成協議会幹事

2. 地域社会への貢献

- ① とくしま教員育成協議会委員
- ② 県・大学等連携による教職員研修講座講師

個人情報

1. 氏名： 津守 美鈴
2. 職位： 教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：国語科、国語科教育法
2. 学部授業担当科目
前期：国語科教育法Ⅰ、文学・文学A・日本語概説、児童文学、保育内容（言葉）A
後期：国語（書写を含む）、保育・教職実践演習、専門ゼミナール、保育内容（言葉）B
卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生： 専門ゼミナール（5名）、卒業論文（4名）
4. 自己評価

小学校教員を志望している学生対象の授業で、学科に配置されたタブレットを有効活用しようとしたが、準備に時間がかかるため他の教具等を用いてしまうことが多かった。また、幼保教員を志望している学生対象の授業では、保育現場が手描きなどのアナログで進められているため、自身はICT機器を使って授業するものの、学生に使わせることはなかった。幼保の現場でも事務処理等にはPCを使っていることから、授業の中で学生にも使わせる機会を作りたい。学修者参加型授業づくりをめざすと、どうしても教材研究や授業準備等に時間と労力が必要となる。

全学の教員採用試験の講座については、「論作文の講座」を担当し、前期は4年生6名が、後期は2・3年生16名が受講しており、小論文の添削に追われた感がある。また、ゼミ生はもちろんこと、小学校教員や保育士志望者、他学科の教員志望者等に対し、できる限りの時間を使って面接練習や論文指導、模擬授業練習をするなどの支援をした。また、学科独自の「対策講座」にも、通年（夏休み期間中を含む）に参加し、おかげで、多くの合格者を出すことにつながったと考える。

卒業論文指導については、以前は3年生からテーマの確定と章立てをさせたり、卒業研究に関してしっかりとイメージや意欲を持たせたりするために、4年生が3年生を対象として卒論中間及び最終発表会を実施してきたが、新型コロナが蔓延していた期間には状況を踏まえて実施を見送ってきた。本企画は意義があると考えられるため再開実施したいのだが、学生・教員共に行事等がふえ、実施困難になっている。

研究領域

1. 専門研究領域：教育方法、国語科教育
2. 研究課題及び概要

「主体的で対話的な深い学修のできる大学授業の可能性Ⅲ」

本学のいくつかの授業において、グループワークをできる限り導入し、協働・参加型の学修形態を試行してみるなど、実践的に可能性をさぐってきている。また、一人一台のタブレット等を用いてのグループワークを実施や、その効果の実践的な検証も行えるように試みようとした。本年度は、グループワークについては、学生の授業アンケート結果を見ても一定の成果があったかと思われるが、授業へのタブレ

ット活用については残念ながらなかなかうまくいかず、成果は得られなかった。また、生の授業や現役幼保・小学校教員を招聘しての授業を積極的に実施し、将来の就く教職のイメージをもたせて授業への主体的参加を促進した。今後は、「深い学び」につながる「対話（話す・聞く）」において、「能動的に聴く」ことの研究のために、全国的な理論・実践研究会に参加させていただき、一層知見を深めていきたい。

3. 令和6年度分 研究業績一覧
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
6. 自己評価

例年のことではあるが、教育領域の自己評価にも記述したとおり、どうしても正課の授業や正課外の講座等、また、担任・チューター生への学生指導に費やす時間と労力が非常に大きいため、じっくりと研究に取り組むことが非常に困難な状況があると感じる。特に本年度は、日々の膨大な学科長業務や学科独自の課題の解決に時間と労力を費やした感がある。

大学内運営

1. 活動報告
 - ① 1年チューター3名、2年チューター5名、
3年チューター5名、4年チューター7名
 - ② 児童学科長
 - ③ 入試作問委員
 - ④ 全学教員養成対策委員会委員

社会貢献

1. 学会等への貢献
 - 国語教育実践理論研究会（K Z R）会員
2. 地域社会への貢献
 - ① 徳島県子どもの読書活動推進協議会委員長
 - ② 徳島県令和6年度教科用図書選定審議会副委員長
 - ③ 令和6年度用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画・標語コンクール審査員
 - ④ 美馬市男女共同参画基本計画策定委員長
 - ⑤ 令和7年度四国国語教育研究大会・徳島県中学校国語教育研究大会指導助言者
 - ⑥ 国立大学法人徳島大学総合科学部非常勤講師

個人情報

- 1.氏名：松本 有貴
- 2.職位：教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域：教育心理学、児童心理学、社会性と情動の学習(SEL)
- 2.学部授業担当科目
前期：教育心理学、保育の心理学Ⅰ、心理学A、児童実践教育学演習Ⅱ、卒業研究
後期：児童心理学、子ども家庭支援の心理学、保育の心理学Ⅱ、専門ゼミナール、教育心理学、卒業研究
- 3.直接に指導した学生
学部学生：1年生39名、2年生95名、3年生42名、4年生10名、ゼミナール4年生5名、ゼミナール3年生5名
大学院学生：修士2名
- 4.自己評価
一斉講義とともにグループ討論・課題やロールプレイを用いた演習を行い、学生の主体的学修を促進した。ゲスト講師として小学校教諭を招待し学生の実践への意欲を高めた。先行研究や動画を取り入れた授業、論作文やパワーポイントを使った発表の取り組みを行った。評価は多視点による基準を設置して行った。

研究領域

- 1.専門研究領域：ユニバーサル予防教育、ウェルビーイング教育、社会性と情動の学習(SEL)、子どもの認知行動療法、神経生理心理学
- 2.研究課題及び概要
 - ① 認知行動療法（CBT）に基づく学校予防教育の効果比較研究
 - ② マインドフルネス子育て支援による保護者のメンタルヘルスの向上の研究
 - ③ ウェルビーイング教育の研究
 - ④ 子どものウェルビーイングにつながる SNS 使用の研究
 - ⑤ 子どもの SEL 介入が保護者と教員に及ぼす影響
- 3.令和6年度分 研究業績一覧
論文・著書
 - ① Takizawa, Y., Matsumoto, Y. & Ishimoto, Y. (2024). Effectiveness of universal Social-Emotional Learning programs for Japanese higher education students: A meta-analytic review. Health Open Research, 6 5-5.
 - ② Matsumoto, Y., Takizawa, Y., & Ishimoto, Y. (2024). Preliminary Trial of a Well-being Diary with Japanese Primary School Students. "Social and Emotional Learning, Research, Practice and Policy, 4 100066.
 - ③ Hosokawa, R., Matsumoto, Y., Nishida, C., Funato, K., & Mitani, A. (2024). Enhancing social-emotional skills in early childhood: Intervention study on the effectiveness of social and emotional learning. BMC Psychology, 12-761.

④松本有貴編著 ありがとうの力 新評論

⑤ちばエコチル調査つうしん 2024 年 9 月号 2025 年 3 月号 キット先生の豊かな心をはぐくむ子育て 千葉大学予防センター

学会・研究会

①Child Well-being, Socio-emotional Competency, and Digital Media: Exploring the Relationship. Matsumoto & Ishimoto.International Conference of Psychology 2024 July 25

②ソーシャル・エモーショナル・ラーニング - SEL の今とこれから -

宮崎, 松本, 岡本, 眞栄城, 鈴木, 山田, 秋田 日本教育心理学会第 66 回総会 2024 年 9 月 14 日

4.知的財産権の出願・取得状況

特になし

5 令和 6 年度分 科学研究費補助金・各種助成金

科研基盤 (C) 20K03406 (R2・3・4・5) 研究代表者 松本有貴

科研基盤 (C) 21K03104 (R3・4・5・6) 研究代表者 南谷則子

科研基盤 (B) 21H03263 (R3・4・5・6) 研究代表者 細川陸也

科研基盤 (B) 22H00993 (R4・5・6・7) 研究代表者 渡辺弥生

科研基盤 (C) 23K02950 (R5・6・7) 研究代表者 松本有貴

6.自己評価

科研基盤 (C) 20K03406 及び (C) 23K02950 の研究代表者として計画した課題に取り組んだ。また、科研基盤 (C)、基盤 (B) 2 研究の研究に研究代表者と連携して計画課題を進めた。書籍や学会発表により研究成果を社会に広報した。早稲田大学、総合研究機構社会的養育研究所の活動に参加した。修士課程学生の研究論文の指導ができた。

大学内運営

- ① 人間生活学部学生指導・支援委員会
- ② 全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- ③ 徳島文理小学校スクールアドバイザー
- ④ 児童学科：2 年生担任、チューター (19 名)、学生指導・支援担当

社会貢献

1 学会への貢献

- ① 日本 SEL 学会副会長
- ② 日本教育心理学会ハラスメント防止委員会面接委員

2 地域社会への貢献

- ①早稲田大学社会的養護研究所養育者支援連絡協議会メンバー
- ②こども家庭庁「子ども・若者支援地域協議会及び子ども・若者総合相談センター 整備機能向上事業」アドバイザー
- ③一般社団法人日本レジリエンス教育研修センター理事

個人情報

1. 氏名：藤村 正司
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育社会学、教育学、社会統計学
2. 学部授業担当科目
前期：教育原理（2 コマ）、教育法規
後期：教育社会学、教育相談、教育原理、保育・教職実践演習、専門ゼミナール
大学院担当科目
前期：人間形成学特論Ⅰ
後期：人間形成学特論Ⅱ、児童教育学特論Ⅱ
3. 直接に研究指導した学部学生：専門ゼミナール（4）名
4. 自己評価
 - 1) 学部の授業では、毎回、最初に前回の授業内容の復習を行い、最後に授業の概要を指定の用紙に記述させて学習内容の定着を図った。また、授業資料は毎回クラスルームにアップし、紙媒体でも配布した。昨年の授業では PPF の説明で一方通行になりがちであったので、本年度はグループ学習や新たに新聞記事を読ませるなど工夫した。保育・教職実践演習では KJ 法を導入してアイデアを整理させた。
 - 2) 教職科目の授業に関しては、教育制度の社会的背景や実践面での応用と教員採用試験に対応した教材の精選に工夫し、時事問題対策として新聞記事を読ませた。

研究領域

1. 専門研究領域：教育社会学、高等教育論、社会統計学
2. 研究課題及び概要
 - ・ 科研費基盤(C)の採択課題「国立大学法人化の検証」（代表）は、1990 年代以降の欧米の高等教育改革が依拠した NPM に基づく国立大学法人化の検証を行うものである。資源配分の効率化や法人化第 3 期以後に導入された「成果連動型評価」が学内資源配分や教員の研究生産性にどのような影響をもたらしているのか否かを検証する。
 - ・ 科研費分担では、ポスト重点化以後の我が国の大学院教育の現状と課題、とくに大学院生の経済状況から潜在クラス分析で経済支援の類型化を行った。
3. 令和 6 年度分 研究業績一覧
【論文】
 - 1) 「なぜ大学院博士後期課程に進学しなのか？—ポスト大学院重点化政策の検証」『徳島文理大学紀要』第 108 号、令和 6 年 9 月、19-32 頁。
 - 2) 「財務諸表のパネルデータから国立大学法人の経営行動を検証する—個体内変化の階層線型モデル—」『大学経営政策研究』第 15 号、令和 7 年 3 月、161-176 頁。（査読有り）

4. 学会発表：なし
5. 知的財産権の出願・取得状況：なし
6. 令和 6 年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
 - 1) 科学研究費補助金基盤 (C) 23K02212 代表
 - 2) 科学研究費補助金挑戦的研究 (萌芽) 23K17611 分担 (代表：両角亜希子)

7. 自己評価

2 年目を迎えた科学研究費基盤 (C)「国立大学法人化の検証」では、国立 86 大学法人「財務諸表」のパネルデータを用いて法人化 20 年の財務構造の軌跡を階層線型モデルで推計し、『大学経営政策研究』に投稿した。11 月に、国立大学教授 4,500 人を対象に資源配分（時間と研究費）と論文生産性にかかわるアンケート調査を実施し、現在回収中である。

科研分担 (萌芽的研究)「社会変革型」科学技術イノベーション政策時代の大学院教育」では、大学院生・教員調査研究分担者として国立大学教員と大学院生に対する Web アンケート調査の策定にかかわった。1 月に実施し、現在回収中である。予備調査として 2011 年に実施した「大学教員と院生調査」の再分析を行い、教員と院生の学びの構造を相対化し、「博士離れ」現象を食い止めるため院生に対する経済支援の類型化をおこなった。

大学内運営

1. 活動報告

- 1) 教育研究委員会委員
- 2) 自己点検・自己評価委員会委員
- 3) 児童学科 2 年 (48 名) クラス担任
- 4) 児童学科 1・2・3・4 年チューター (14 名)

社会貢献

1. 学会等への貢献

- 1) 日本教育社会学会会員 学会賞選考委員
- 2) 日本教育学会会員
- 3) 日本高等教育学会会員
- 4) 数理社会学会会員
- 5) 筑波大学 教学マネジメント室高等教育研究部門学外編集委員

2. 地域社会への貢献

特になし

個人情報

- 1.氏名：岡山 千賀子
- 2.職位：教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域：児童学・子育て支援・レクリエーション
- 2.学部授業担当科目
前期：児童学原論、レクリエーション活動援助法Ⅰ、レクリエーション論、家庭科教育法Ⅰ、レクリエーション概論、レクリエーション実技①、レクリエーション実技②、子どもの学び支援実習、総合科目A（ボランティア）、文理学
後期：家庭、子育て支援、レクリエーション活動援助法Ⅱ、レクリエーション実技・レクリエーション概論、社会教育実習、専門ゼミナール、文理学、子どもの学び支援実習、スポーツ・レクリエーション特講（集中）、卒業研究
- 3.直接に研究指導した学部学生： その他（1）名
- 4.自己評価
 - *学生指導：1年生学年主任として教育に尽力した。
 - *就職対策：4年生5名に就職指導を行った。
 - *採用試験対策：過去の試験問題や実技について適宜授業内で紹介し、教科では、実際の試験問題に取り組む時間を設定した。保育・教育対策講座（3・4年生対象）を担当した。
 - *授業実践：実践力を身に付けるために、積極的にボランティア活動を推進した。事例解釈や実技を授業に取り入れたり、保育現場への見学・実践等を取り入れたりした。総合科目A（ボランティア）では、68名の学生に指導した。
 - *最新の情報と資料を準備し、適宜ビデオやメディアを取り入れた。
 - *アクティブ・ラーニング：自著した「講義ノート」を活用し、その中で古文や新聞記事などを取り入れ、学生に自ら取り組み、考える力を付けるよう努力した。
 - *レクリエーション公認資格課程認定校講座担当として、資格取得申請に関する指導をした。「スポーツ・レクリエーション指導者」資格課程の指導を行った。（令和6年度は、23名の学生が受講した。）

研究領域

- 1.専門研究領域：社会科学分野・児童学・家族領域
- 2.研究課題及び概要；
「子育て支援員の保育者効力感に関する研究」継続。子育て支援員の保育者効力感を上げるための課題に取り組む。
レクリエーション・インストラクター資格・スポーツ・レクリエーション指導者資格者に必要な技術と知識に関する研究。
- 3.令和6年度分 研究業績一覧
- 4.自己評価（成果、反省）
日本レクリエーション協会理事。日本レクリエーション協会からの依頼で講習会

および全国公認資格認定委員の活動に取り組んだ。

5.学位：博士（学術）甲 11 号

大学内運営

1.活動報告

- ①県内外高校への出張講義・遠隔授業
- ②保護者会担当・ボランティア推進係（学科内）
- ③児童学科 1 年生学年主任・担任 23 名、児童学科 1 年チューター 2 名・
2 年チューター 7 名・3 年チューター 5 名・4 年チューター 5 名
- ④学内ボランティア担当

社会貢献

1.学会等への貢献:

- ①日本レクリエーション協会理事 ・同協会公認指導者資格課程認定校連絡協議会 全国幹事長・同協会全国公認資格認定委員
- ②徳島県レクリエーション協会会長、(レクリエーション・コーディネーター)
- ③日本消費者教育学会会員
- ④日本家政学会会員

2.地域社会への貢献：

- ①徳島県教育委員会生涯学習政策課、「学校を核とした地域の教育力強化推進委員会」、委員長
- ②徳島県教育委員会生涯学習政策課、「放課後児童健全育成委員会」、委員長
- ③徳島県県民環境部「徳島県放課後子ども総合プラン推進委員会」委員長
- ④徳島県県民環境部人権教育啓発推進委員
- ⑤徳島県県民環境部「子どもの事故防止委員会」委員
- ⑥徳島県スポーツコミッション推進委員
- ⑦徳島県スポーツ王国とくしま推進会議委員
- ⑧徳島県あいらんど推進協議会理事
- ⑨徳島県スポーツ協会理事
- ⑩徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議委員
- ⑪小松島市みなとまちづくり計画検討会議委員
- ⑫徳島市身体障害者連合会理事
- ⑬徳島市パラスポーツ講習会コーディネーター
- ⑭徳島県あすたむらんど徳島外部有識者委員会委員
- ⑮NPO 法人徳島県レクリエーション協会、公認指導者(徳島県シバール大学院講座講師)
- ⑯徳島県立総合大学校まなびーあ登録講師
- ⑰徳島県保健福祉部長寿こども政策局、「子育て応援の匠」
- ⑱徳島県ウオータリー実行委員会委員
- ⑲社会福祉法人 ハート福祉会評議員
- ⑳社会福祉法人 悠林舎 福祉サービス評価機関評価委員

②①徳島市障害者相談員

②②レクリエーション・コーディネーターネットワーク全国理事

＊ その他、県内外・市町村における子育て支援、放課後児童健全育成指導等に関する講演会活動など

個人情報

- 1 氏名：土岡 大介
- 2 職位：准教授

教育領域

- 1 教育の担当専門領域：健康・スポーツ，スポーツ科学，運動方法，幼・児童体育
- 2 学部授業担当科目
前期：体育②（児童 3AB）健康スポーツ A（心理 1B，食物栄養 1B，メディア 1，児童 1，理学療法 1B），児童保健学特論Ⅱ
後期：健康スポーツ B（看護 1B，総合政策 1A，総合政策 1B，口腔保健 1，人間福祉 1，保育 1），児童保健学演習
- 3 直接に研究指導した学部学生
- 4 自己評価
専門体育で扱う実技は，各運動領域（器械運動，マット・跳び箱・鉄棒，陸上運動，ボール運動，水泳，身体表現等）によって求められる運動能力が異なる．学生の基礎体力・運動能力の現状を踏まえ，開講期間だけでなく，4年間を通じて継続的に取り組む必要性について今後も強調し，施設の利用方法，運動時間の確保等，具体的な実施方法，環境を整えたいと考える．また，幼児体育に関わる体育備品・用具も更に充実させ，発育発達段階に応じた基礎運動・あそびの指導方法を具体的に紹介していきたいと考える．

研究領域

- 1 専門研究領域
健康・スポーツ科学，運動方法学（バレーボール），指導者養成
- 2 研究課題及び概要：
 - ・幼児を対象とした体力・運動能力の向上に関する研究（継続）
 - ・バレーボール競技力向上・公的資格を持つ指導者育成に関する研究（継続）
 - ・バレーボール競技人口の拡大・普及発展に関する研究（継続）
- 3 令和6年度分 研究業績一覧
 - ・土岡大介「バレーボールの基本フォーメーション」，令和6年度（公財）日本スポーツ協会公認スポーツ指導員資格取得講習会（バレーボール専門科目）講師，2024年9月21日，徳島県B&G海洋センター
 - ・「第27回全国ヤングクラブバレーボール優勝大会パンフレット」，製作編集責任者，日本バレーボール協会，同指導普及委員会，フルカラー全64ページ，2024.9
 - ・公益財団法人日本バレーボール協会公認講師認定講習会講師，13名の認定審査，2024年12月21日，AP品川会議室
- 4 知的財産権の出願・取得状況
- 5 自己評価
今年も継続してスポーツ庁，JOC，JSP0 正加盟の中央競技団体である公益財団法人日本バレーボール協会の指導普及委員会副主事として，13名の公認講師を認定し，他の中央競技団体や各都道府県バレーボール協会とも連携しつつ，公的指導者資格を持つ指導者の育成に努めている．スポーツを取り巻く環境も少しずつ従来の活動に戻り，全国のスポーツ活動や大会，研修・講習会を含め，新たな実施・開催様式を模索しながら効率的な開催に向けての努力が続いている．現在も全国規模でのスポーツ分野に関連した講演・講習会など，引き続き開催しており，対面・集合研修の方式で実施することができた．遠隔配信形

式による講習会などを企画・運営する体制も改善され、公的なスポーツ指導者資格を認定することができた。今後も JSP0 日本スポーツ協会とも連携し、その質的保証についての議論を継続していく。また、他の中央競技団体とも連携を深めながら、遠隔・対面の両輪での講習会内容の充実を図っていきたい。また、今後も継続して専門的な知識・指導方法を身につけた指導者の育成を進めると共に、指導者を育成・指導する資格である「公認講師」資格取得者の増員を進めていきたいと考える。

大学内運営

1 活動報告

- ・スポーツ推薦入試，高校訪問・学生募集・入試面接担当
- ・教員採用試験対策講座担当(体育実技)
- ・全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- ・防火・防災管理委員会委員 7 号館責任者，6 号館 AED 管理責任者
- ・附属幼稚園特設保育体育あそび教室講師（平成 15 年より毎年約 35 回実施）
- ・男女バレーボール部部長，女子バレーボール部監督，週 5～6 日指導
- ・女子バレーボール部の公式戦（県，四国，中国四国，西日本）遠征合宿引率
- ・バレーボール強化練習会・合宿の受入，スポーツ OC の実施
- ・6 号館体育館の使用管理責任者業務，火元責任者
- ・8 号館トレーニングセンターでのトレーニング指導，トレーニングマシン管理
- ・体育科カリキュラム作成に関わる業務・用品申請管理
- ・学内体育設備管理 等

社会活動

1 地域社会への貢献

- ・徳島県国際スポーツ局スポーツ振興課 競技力向上プロジェクト推進委員
- ・徳島県あわスポーツ医科学強化プロジェクト推進委員
- ・公益財団法人 日本バレーボール協会 国内事業本部指導普及委員会副主事
- ・公益財団法人 日本バレーボール協会 公認講師認定審査員
- ・JSP0 日本スポーツ協会 公認コーチ実技認定審査員（バレーボール専門科目）
- ・JSP0 日本スポーツ協会 公認コーチ 1.2 理論筆記試験作成（バレーボール専門科目）
- ・日本ヤングクラブバレーボール連盟理事，事務局
- ・第 26 回全国ヤングバレーボールクラブ優勝大会副委員長 運営開催統括参加者 2,223 名
- ・全日本大学バレーボール連盟女子強化委員
- ・西日本大学バレーボール学連女子選抜対抗戦，四国選抜女子チームコーチ
- ・四国大学バレーボール連盟副会長
- ・四国地区大学体育連盟理事
- ・四国大学総合体育大会実施委員会委員
- ・徳島県バレーボール協会参与，一貫指導体制推進委員
- ・徳島県大学バレーボール連盟会長
- ・国立大学法人 徳島大学 教養教育院（非常勤）

個人情報

1. 氏名：結城 栄子
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：美術科，図画工作科
2. 学部授業担当科目
前期：図画工作①，図画工作科教育法，保育内容（表現），事前事後指導（小学校教育実習），美術 A
後期：図画工作②，造形表現，専門ゼミナール，卒業研究，事前事後指導（小学校教育実習）美術 A
3. 直接に研究指導した学部学生：12名（卒業研究・制作，専門ゼミナール等）
4. 自己評価

学生自らが造形的な見方・考え方として感性や創造力を働かせ、造形的な視点で対象や事物をとらえ、自分なりのイメージをもちながら、意味や価値をつくりだすことができるように授業改善と実践に取り組んだ。適宜、紙媒体ワークシートやクラスルームへ課題提出を行わせ、感想等の振り返りにコメントをして返却することで定着状況の把握や意欲を継続させることに努めた。

- ①授業は「基礎理論」「演習」「実技」の構成で実践した。学習指導要領や幼稚園要領等
に示される目標や内容を学生に説明し、演習や実技による体験を通して具現化の方法
を体得させるように努めた。鑑賞と表現の関連的指導を意識的に実践するとともに、
表現方法も絵画に偏ることなく幅広い分野に挑戦させた。今年度任された教育実習の
事前事後指導は、学校現場での勤務経験を生かせる機会と捉え、学生の不安が軽減さ
れ実習先で認められてスムーズに実習参加できるよう分かりやすい授業に努めた。
- ②ICT 機器の活用により講義・演習をより効果的に伝える工夫をした。動画編集スキル
を磨き、外部に授業の様子を伝える動画制作を行い公開したことは、学生の学修意欲
を向上させた。前年度の授業アンケートでは、資料配布のポイントが他項目より低か
ったので、今年度は説明に用いた資料は全て印刷して配布した。昨年度の授業構成を
精選し、進め方もより主体的でアクティブな学習を行うことができるよう改善したこ
とにより、学生の集中力や満足度の向上が実感できた。
- ③教員採用試験・就職対策について情報収集に努め、個々の学生の願いが叶えられるよ
うに面接練習等を年間を通じて個別に行った。不登校等の課題があった学生も全て希
望の就職先に内定することができた。取得単位の確認ミスがあったことは反省点であ
る。手動確認では人的ミスが起りやすいので、より確実性のある方法を模索してい
きたい。
- ④学科行事等が前年度から改善された。「子どもの学び支援」授業を核に学生が能動的・
組織的に表現したり外部に発信したりして活躍できる場が創出された。造形表現の担
当として、積極的にかかわったことにより、学生の成長を直接感じることができたの
は喜びであった。担当課と連携して合理的配慮の必要な学生の対応に当たっているが、
関わり方に苦慮している。

研究領域

1. 専門研究領域：美術教育
2. 研究課題及び概要：
 - ①表現と鑑賞を相互に関連させ一体的な授業展開
 - ②美術の働きや美術文化についての実感的な理解
 - ③造形活動を通して生活や社会と豊かに関わる態度の育成
3. 令和6年度分 研究業績一覧
徳島県美術家協会洋画部門棋院作品展，グループ展（第52回む・アート展）出品
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和6年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
6. 自己評価
過去の実践を踏まえて，教員養成の視点から年間指導計画・内容の充実と精選を図った。次年度は，本年度の実践を検証し，より有効な美術教育を模索・研究していきたい。

大学内運営

1. 活動報告（委員会，担任等）
 - ・人間生活学部児童学科学生支援関係，新入生セミナー等
 - ・広報委員会 YouTube，高校生の夢応援プロジェクト，学科だより・リーフレット製作
 - ・全学共通教育センター講座，児童学科対策講座
 - ・児童学科3年生担任49名，チューター19名（1年生2名，2年生5名，3年生5名，4年生7名）

社会貢献

1. 学会等への貢献
なし
2. 地域社会への貢献
 - ①徳島県教育委員会学校訪問指導員として指導助言
 - ②美馬市中学校人権に関する児童生徒のポスター作品審査
 - ③地域連携出張講義（阿波市小学校教育研究会図工部会夏季研修）

個人情報

1. 氏名： 疋田 弘子
2. 職位： 准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：声楽, ピアノ, 音楽科教育, 音楽理論
2. 学部授業担当科目
 - ・前期：幼児と表現, 声楽①, 音楽A, 音楽②
 - ・後期：音楽科教育法Ⅰ, 声楽②, 音楽①, 専門ゼミナール, 卒業研究, 児童音楽演習①
3. 直接に研究指導した学部学生：12名(卒業論文1名, 卒業研究6名, 専門ゼミナール生5名)
4. 自己評価(工夫、反省)
 - (1) 工夫
 - ・授業を行うための環境整備を行った。5号館8階(5804教室)にパワーポイント, YouTubeなどを使用できるように電子黒板設置要請し, 設置していただいた。楽器購入要請。多種の楽器を揃え, 学生が実際に楽器を手に取り演奏できる環境を整えた。
 - ・ピアノ初心者用の楽譜を楽譜作成ソフトで作成し, レッスンで使用した。
 - ・第65回中・四国保育学生研究大会(2024年12月1日 広島女学院大学)において音楽劇「スイミー～海の底の世界～」の学生の研究発表指導。音楽劇の構成, 演出, 歌唱・器楽指導を行った。審査員から好評をいただいた。学生に表現する喜び, 仲間とコミュニケーションを取りながら一つの物を作り上げる達成感を味わってもらえたと思う。
 - ・ニューイヤーコンサート～児童学科学生による～(2025年1月10日 徳島文理大学アカンサスホール)を企画, 制作, 指導した。
 - (2) 反省

昨年4月に短期大学部保育科から児童学科に異動したため, 児童学科の先生方, 学生さんとの人間関係の構築, 児童学科での授業の進め方, 行事の関わり等に慣れるのに精いっぱいであった。担任の仕事に関しても, もう1名の先輩教員に頼ることが多かった。2年目からはもう少し精神的余裕をもって, いろんなことに取り組みたいと考えている。

研究領域

1. 専門研究領域 声楽指導, ピアノ指導, 教材研究
2. 研究課題及び概要

保育士, 教諭になるために必要な音楽の基礎知識・技能を, いかに身に付けてもらうか, その指導法と教材についての研究。
3. 令和6年度分 研究業績一覧

(演奏活動)

 - ・短期大学部保育科ペンギンクラブ絵本コンサートで歌唱。(2024年8月19日 徳島文理大学25号館リズム室)
 - ・ガラコンサート2024(四国二期会徳島支部主催)出演。(2024年8月31日 徳島市シビックセンター)

- ・徳島のわらべうた, 遊び歌, 子守唄等 8 曲録音。(2024 年 9 月 23 日 四国大学)
- ・クリスマスコンサート (2024 年 12 月 25 日 徳島市ぽかぽか保育園)

4. 知的財産権の出願・取得状況：なし

5. 令和 6 年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし

6. 自己評価

令和 6 年度は中・四国保育学生研究大会, ニューイヤー・コンサートの指導が主となり, 自分自身の研究が進まなかった。演奏活動のみとなった。

令和 7 年度は, 日本音楽教育実践学会 (2025 年 8 月 23 日 (土) 大阪教育大学天王寺キャンパス) で「教科内容における技能的側面の位置づけ」においてパネリストをする予定。自身の研究に積極的に取り組みたいと考えている。

大学内運営

1. 活動報告 (委員会、担任等)

- ・ハラスメント防止委員会副委員長
- ・児童学科オープンキャンパス担当
- ・児童学科 1 年担任
- ・児童学科チューター 15 名 (1 年 3 名, 3 年 5 名, 4 年 7 名)
- ・全学共通教育センター講座, 児童学科対策講座の音楽指導担当。

社会貢献

1. 学会への貢献

- ・日本保育学会正会員。
- ・四国二期会の理事として, オペラやコンサート企画, 開催。オーディション審査員。

2. 地域社会への貢献

- ・「童謡を歌う会」主催。
- ・保育園等でコンサート開催。
- ・日本クラシック音楽コンクール (声楽部門) 審査員。
- ・令和 6 年度保育士試験実技試験採点委員

個人情報

1. 氏名：上萩 琴美
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：小学校外国語活動・外国語科、中学校外国語科、教科教育法
2. 学部授業担当科目
前期：英語A①（児童・建築デザイン・薬学）、外国語科教育法、児童英語活動指導法
後期：英語A②（児童・建築デザイン・薬学）、小学校英語、英語科教育法、専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（ 2 ）名、その他（ 9 ）名
4. 自己評価（工夫、反省）
 - * 一般英語の授業では、苦手意識をもつ学生も参加しやすい雰囲気、学生の気付きを大切に、内容を分かりやすく説明するように心がけた。また、前期の授業アンケートの結果（学生からの要望）を反映し、後期の授業には授業始めの帯活動として Small Talk を位置付け、毎週、あるテーマについてペア・グループで1～2分間ずつ英語で話したり質問したりする時間を確保し、少しでもネイティブ・ライクな授業に近づくよう工夫した。
 - * 授業での私語等を防ぐため、講義のみに偏らないよう、ペア・グループ活動等授業形態を工夫し、協同的な学びの充実に努めた。また、机間指導を適宜行い、学生の理解度をチェックするとともに、常に授業に専念する雰囲気づくりに努めた。
 - * 毎時間ワークシートを作成・配布し、学生の理解促進に努めた。
 - * 専門の授業においては、特に小学校教員採用試験の模擬授業に対応できる授業技術の育成を意識し、3年生までに身に付けるべき知識・技能をバックワード・デザインで計画し、1年生時から教育実習や教員採用試験（模擬授業）に役立つ教材の精選に努め、スモール・ステップで習得できるよう工夫した。また、中学校英語教員二種免許取得を希望する学生の指導には、小・中連携に重点を置いた教科指導を徹底した。
 - * 教材研究にかかる時間を増やし、視覚的資料（スライドなど）をさらに充実させた。

研究領域

1. 専門研究領域：小学校外国語教育、中学校外国語教育、小・中連携
2. 研究課題及び概要
「中学校外国語（英語）学習入門期へのスムーズな接続を見越した小学校外国語科授業のあり方」
 - ・令和3年度全国学力・学習状況調査によると、小学校4年間の外国語教育（3・4年生「外国語活動」2年間及び5・6年生「外国語科」2年間）において、中学校入学前に英語嫌いになる児童の割合が以前より増加している。音声中心の小学校外国語教育において、いかに児童に中学校以降の外国語学習のレディネスを身に付けさせるか、

英語嫌いにせずには中学校へ送るかという視点で、よりよい小学校外国語教育のあり方を探る。

3. 令和6年度分 研究業績一覧

【発表】

- ・「徳島県小学校教育研究会外国語研究大会に関する一考察 一会場校校長としての取組例」 第34回 四国英語教育学会 愛媛研究大会 令和6年6月22日（愛媛大学）
- ・「小学校外国語教育に係る人材育成 ー徳島県小学校教育研究大会会場校の取組例ー」 第49回 全国英語教育学会 福岡研究大会 令和6年8月24日（福岡工業大学）

4. 知的財産権の出願・取得状況：なし

5. 令和6年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし

6. 自己評価

- ＊ 初年度ということで、スケジュールをこなすことで精一杯であったが、FD研修会の研修を始め、徳島大学にて行われた「2024年度授業設計ワークショップ」に参加するなど、大学での業務に馴染む努力をした。
- ＊ 全学・学科ともに教員採用試験対策講座の運営に協力し、特に今年度から教科が変更となった徳島県教員採用試験二次審査の模擬授業（外国語）の指導には時間・手間をかけた。
- ＊ 授業準備等に追われ、研究ができなかった。次年度は、落ち着いて自身の研究を進めたい。

大学内運営

1. 活動報告（委員会、担任等）

- ① 児童学科入試委員
- ② 入試点検委員（英語）
- ③ 児童学科3年クラス担任
- ④ 児童学科1・2・3・4年チューター〔4年2名の卒業研究指導を含む〕（前期：20名、後期：19名）
- ⑤ 大学入学共通テスト試験監督

社会貢献

1. 学会への貢献

- ① 小学校英語教育学会（JES）会員
- ② 全国英語教育学会（JASELE）会員
- ③ 四国英語教育学会会員
- ④ 日本児童英語教育学会（JASTEC）会員、中・四ブロック運営委員
- ⑤ 全国小学校英語教育実践研究会会員

2. 地域社会への貢献

なし

個人情報

1. 氏名：定國 雅洋
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：情報教育，社会，社会科教育法，生活，生活科教育法，道德教育
2. 学部授業担当科目

前期： 社会（児童 3 年），生活科教育法（児童 2 年）

教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）（人間生活・音楽・総合政策 他）

教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）（児童 2 年）

後期： 社会科教育法（児童 3 年），生活（児童 1 年），道德教育（児童 3 年）

教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）（保育 2 年）

専門ゼミナール（児童 3 年），卒業研究（児童 4 年）

3. 直接研究指導した学部学生：5 名（専門ゼミナール） 8 名（卒業研究/チューター指導）

4. 自己評価

- すべての授業において情報通信技術を用い，教員と学生，学生同士の双方向型の授業を指向した。教科教育法を中心に，タブレット端末を学びのプラットフォームと位置付け，活用した。学生自身が GIGA スクール時代の学校教育によりよく対応できる力を培えるよう，複数の授業支援システム「Metamoji classroom」「ロイロノートスクール」や，汎用デザインツール等を用いるなどした。
- 学生の表現力向上のため，プレゼンテーションソフトウェアを併用した短時間のスピーチ活動等を授業に取り入れた。
- 専門ゼミナールでは，教育 DX を見据え，教育の情報化，IoT デバイスの活用を中心とした小学校プログラミング教育，デジタルシティズンシップ教育，一人一台端末環境における情報活用能力の育成等に関する知識および諸技能の向上を図った。
- 教員養成課程で求められている「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」について，小・中・高等学校における情報活用能力育成の現状・進捗等を考慮に入れながら取り組んできた。次年度は，新課程の学生が入学するため，指導内容を改善する等，より一層学生に寄り添った指導を心がけていきたい。
- 現在，学校現場では学習 e ポータルや，文部科学省 CBT システム等の利用が進められつつあり，それらについての知見を得るためにも，導入及び活用等の必要性を感じている。
- 希望する学生に対して，基礎的なコンピュータ・サイエンスや，現場での具体的な ICT 機器トラブル対処の在り方等，必要な事項について適宜指導してきた。
- ここ数年，小学校教員採用審査の審査時期・方法等が大きく変化してきていることをふまえ，可能な限り広範かつ適切に情報収集・整理を行い，適宜発信・共有してきた。学生指導にあたっては，電子申請の具体的な指導をはじめ，筆答，面接対策および，模擬授業等に関する指導に取り組んだ。

研究領域

1. 専門研究領域：情報教育，教育 DX

2. 研究課題及び概要

「教育 DX を見据えた情報活用能力の育成」

中教審答申「令和の日本型学校教育」，「第 4 期教育振興基本計画」等の主旨を踏まえつつ，小学生の情報活用能力の育成について，研究をすすめてきた。今年度は，教育 DX のあり方や具体的手法等に関する知見を蓄えることができた。

3. 令和 6 年度分 研究業績一覧：なし

4. 知的財産権の出願・取得状況：なし

5. 令和 6 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし

6. 自己評価

小学校段階で求められる情報活用能力の育成について，学校現場と連携しながら，よりよい実践につながる研究を心がけている。そのために，現場で必要とされている ICT 環境整備や教員研修等についても，実情を踏まえながら引き続き研究を深めていきたい。

今後，研究課題についての取組を論文にまとめることができるよう努めたい。

大学内運営

1. 活動報告（委員会委員，担任等）

① 広報委員会委員

② 児童学科 4 年担任（62 名）

③ チューター（17 名）1 年（2）名，2 年（2）名，3 年（5）名，4 年（8）名

④ 小学校教員採用審査対策支援

⑤ 全学共通教育センター学習支援アドバイザー

社会貢献

1. 学会への貢献

コンピュータ利用教育学会（CIEC）会員

2. 地域への貢献

・徳島新聞社「小学生プログラミングコンテスト（全国大会予選）」審査委員

・徳島新聞社「小学生のためのプログラミング教室」講師

・丹原高等学校出張講義「地域連携型出張講義プログラム」

・阿南市羽ノ浦小学校校内研修講師

個人情報

1. 氏名： 坂本 由希
2. 職位： 講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：幼児教育
2. 学部授業担当科目

前期：保育内容（人間関係）A、幼児と人間関係、児童文化、保育実習指導Ⅱ

事前・事後指導（幼のみ）①

後期：保育原理、保育内容（環境）B、保育内容（人間関係）B、幼児と環境

幼児理解、保育・教職実践演習、事前・事後指導（幼のみ）②、専門ゼミナール

ル

3. 直接に研究指導した学部学生： 専門ゼミナール（5名）
4. 自己評価

今年度から本学に着任し、保育士資格、幼稚園教諭免許を取得する学生の授業を担当している。授業目標は「学生にわかる授業を行う」ことである。これまで保育現場で培ってきた実践と授業で学ぶ理論を結びつけ、学生が理解できる授業を目指したい。具体的には次のような工夫を行った。

- ・保育現場での経験を生かし、実際の幼児の姿や保育者の援助方法などをスライド等交えながら話をし、理論と関連付け、リアルに感じられるようにした。

- ・特に実習後は、学生が経験したことを事例として取り上げ、グループでディスカッションし、意見を出し合うことで、多様な保育観に触れられるようにした。また、具体的なアドバイスも適宜行った。

- ・学生が取り組みやすい内容のレジュメを準備し、授業後の学びや感想の提出物には、可能な限りコメントをつけて返すようにした。

- ・保育に関するニュースだけでなく、広い視野をもつことを願い、政治、世界情勢、スポーツ、エンターテインメント等、気になったニュース等を投げかけた。

- ・特に、4年生の授業では、実践的な内容を中心とし、保育現場で応用できるよう配慮するとともに、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等の記載内容がしっかりと理解できるような授業を心がけた。

反省としては、授業以外の業務が想像以上に多く、授業準備の時間を十分確保できなかったことである。優先順位をつけ、効率よく業務をこなす力をつけていく必要があると痛感している。

研究領域

1. 専門研究領域：保育内容
2. 研究課題及び概要

教育領域の自己評価で記述したように、保育者を志す学生にわかる授業、心を動かす授業を行うことが目標である。学生に授業を行ったり、直接話をしたりすることで、学

生が保育のどこに難しさや不安を感じているかを知ることができた。それは、保育現場で教育実習生を受け入れてきた時の感覚と異なることが興味深く、これからの保育現場に求められる課題が見えてくる気がしている。

3. 令和6年度分 研究業績一覧：なし
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和6年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
6. 自己評価

2. の研究課題で記述したように、授業やゼミ等を通して学生と関わり、生の声をたくさん聞くことができた。これからの保育を担っていく学生の声を聞くこと、同時に保育現場の先生方の声も聞きながら、これからの保育現場に何が求められるかを考えていきたい。まだまだ研究というレベルには達していないが、何かの方法でまとめていくことができればと考えている。

大学内運営

1. 活動報告

- ① 児童学科4年担任（62名）
- ② 1年チューター2名, 2年チューター8名, 3年チューター5名, 4年チューター6名
- ② 教職課程委員会委員
- ③ 就職支援委員会委員
- ④ 全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- ⑤ 幼・保採用試験対策へのサポート

社会貢献

1. 学会への貢献

なし

2. 地域社会への貢献

徳島県幼稚園等新規採用教諭研修運営協議会委員

第4節 メディアデザイン学科

個人情報

1. 氏名：篠原 靖典
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 総合領域 情報学 知能情報処理
2. 学部授業担当科目
前期
メディアデザイン通論、専門ゼミナールⅠ、Web プログラミング入門
情報システム演習Ⅰ、プログラミング入門、卒業研究
後期
情報セキュリティ論、専門ゼミナールⅡ、Web プログラミング応用
情報システム演習Ⅱ、プログラミング応用、応用データベース、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生： 卒業論文 (3) 名
4. 自己評価：
 - ・Web 教材やパワーポイント等の資料や教材を用意し、内容の理解度を伸ばすように工夫した点が評価される。
 - ・学外の企業や徳島県内の行政機関行政などと連携し、地域貢献事業に積極的に参加し課題発見型授業を実践することができた。さらに、その実績は高く評価された。
 - ・遠隔講義において教育の質を担保し、一定の成果を得ることが出来た。

研究領域

1. 専門研究領域：
総合領域 情報学 知能情報処理
2. 研究課題及び概要
「ニューラルネットワークを用いた画像の領域分割に関する研究」
「電子書籍開発」 「インターネットを利用したインタラクティブ学習」
3. 令和5年度分 研究業績一覧
論文・学会発表
4. 令和5年度分
科学研究費補助金
各種助成金等の申請
交付状況
5. 自己評価
 - ・行政との連携による地域再生・活性化事業において、役割を果たすことができた。

大学内運営

1. 活動報告：

- ・メディアデザイン学科長
- ・大学院生活環境情報学専攻 専攻主任
- ・自己点検・評価委員会（認証評価委員会）
- ・教務委員会委員
- ・教員養成対策委員会委員
- ・情報センター副所長
- ・防火・防災管理委員
- ・中期目標策定委員
- ・災害時初期対応者
- ・履修ガイド編集委員
- ・1年生～4年生チューター
- ・本学入試監督・面接

社会貢献

1. 地域社会への貢献

- ・e-とくしま推進財団 評議員
- ・徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会 副部会長
- ・徳島県立工業技術センター試験研究評価委員会委員
- ・とくしまOSS普及協議会 幹事
- ・徳島県警察との連携事業「ネットウォッチャー」事業実施
- ・徳島県警察との連携事業「情報発信ウォッチャー」事業実施
- ・徳島県個人情報保護審査会委員
- ・人権啓発映像コンテンツ審査委員

個人情報

1. 氏名：古本 奈奈代
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：社会調査・統計解析 プレゼンテーション論
2. 学部授業担当科目：
前期：メディアデザイン通論，プレゼンテーション技法，社会調査論，社会調査研究Ⅰ，専門ゼミナールⅠ，卒業研究
後期：生活と情報B，社会調査研究Ⅱ，プレゼンテーション演習，プレゼンテーション論，専門ゼミナールⅡ，卒業研究，看護研究Ⅱ（看護学研究科）
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（1）名
4. 自己評価：
 - ① 講義全般においてスライド教材作成、補助教材プリントの作成により学生の理解を助けるように努め、授業評価アンケートにおいて成果が確認された。
 - ② 社会調査士資格認定校として社会調査関係の認定科目を指導し、特に「社会調査研究Ⅱ」においては少人数グループによるフィールドワークを実施し、報告書をまとめることにより資格取得希望者全員が資格を取得することができた。
 - ③ 学外の企業や徳島県内の行政機関行政などと連携し、地域貢献事業に積極的に参加した。課題発見型授業を実践することができたと同時に、その実績は高い評価を得た。
 - ④ 数理・データサイエンス・AI リテラシーレベル教育（文理学）において、データサイエンス領域の講義を実施し、一定の成果を得た。

研究領域

1. 専門研究領域：数学 数学一般（確率論・統計数学）
2. 研究課題及び概要：
 - ① ランダムデータの統計的処理とその応用に関する研究
 - ② 教育従事者における自己評価とその再教育に関する研究
3. 令和6年度分 研究業績一覧：
論文
 - ① 保育学生の「保育における不適切なかかわり」に関する意識について：徳島文理大学紀要 第108号 p41-p50
4. 令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
5. 自己評価：
 - ① 調査分析の専門家を認定する社会調査士資格取得者を輩出することができた。
 - ② 調査分析に関する専門的知識を用いて他学部他学科の研究をサポートした。
 - ③ 徳島県が推進する地域再生事業に対する大学の役割を遂行することができた。

大学内運営

1. 活動報告:

- ① 人間生活学部教育研究委員会
- ② 研究紀要編集委員会
- ③ 本学入学試験
- ④ オープンキャンパス
- ⑤ 担任・チューター

社会貢献

1. 地域社会への貢献:

- ① 徳島県環境審議会委員
- ② とくしま障がい者雇用促進県民会議委員
- ③ e-とくしま推進財団事業運営委員会
- ④ 「いつでもどこでも AI ガイド」委託事業者選定会議

個人情報

1. 氏名：加治 芳雄
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：情報学基礎、ソフトウェア、情報ネットワーク、データベース、知能情報学
2. 学部授業担当科目
前期：情報通信ネットワーク論、情報データベース、情報処理Ⅰ、メディアデザイン通論、情報システム論A、オペレーションズリサーチ、プログラミング論B、専門ゼミナールⅠ
後期：プログラミング論A、情報数学、コンピュータネットワーク論、コンピュータネットワーク演習、情報システム論B、専門ゼミナールⅡ
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文 4名
4. 自己評価：

これまでの反省を活かして授業改善等に取り組んだ。昨年度同様、授業で説明した内容等の振り返りができるよう、講義時の説明をGoogle Classroomのストリームに記載するとともに、講義資料としてパワーポイントによる資料を作成した。また、プログラミング系の演習科目等は自宅でも演習できるよう開発環境について工夫した。さらに、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の講義内容について改善を行った。人間生活学部では、応用基礎レベルを実施しており、主にAI関係の分野について、「情報数学」、「情報システム論A・B」で授業を実施した。やや難しい内容もあることから、できるだけ理解してもらえよう努力した。

研究領域

1. 専門研究領域：生体医工学、生体情報工学、認知科学、知能情報学
2. 研究課題及び概要
 - 1) 脳波を利用した脳機能解析
 - 2) 医用福祉分野への応用に関する研究

令和6年度分 研究業績一覧

1. 学術論文

- 1) S.Fujisawa, S.Jyutori, K.Ishimoto, Y.Wang, K.Arashi, J.Kawata, J.Morimoto, Y.Kaji, M.Higuchi, T.Yamamoto, and M.Booka : About Ride Comfort Due to Differences in Running Speed of Manual Attendant-Controlled Wheelchair, 15th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics(AHFE 2024) and the Affiliated Conferences, Vol. 121, pp.1-9, 2024

2. 学会発表

- 1) 十鳥峻輔, 石本倅太郎, WANG YITONG, 嵐 海斗, 河田淳治, 森本滋郎, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎, 坊岡正之 : 走行速度の違いによる介助用車いすの乗り心地について, 電気学会 制御研究会「ヒューマンサポートシステムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-24-044, 2024 年 1 月.
- 2) 藤澤正一郎, 中川 凌, 廣瀬雄也, 筒井一馬, 坂見健二, 森本滋郎, 河田淳治, 加治芳雄, 樋口峰夫, 伊藤伸一, 稲垣具志 : 照度の違いによる点滅光の視認性について, 電気学会 制御研究会「ヒューマンサポートシステムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-24-045, 2024 年 1 月.
- 3) 森本滋郎, 堀尾 誠, 河田淳治, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : 脈拍に基づく感情の推定システムの実現に関する検討, 電気学会 制御研究会「ヒューマンサポートシステムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-24-046, 2024 年 1 月.
- 4) 加治芳雄, 山本由和, 河田淳治, 森本滋郎, 藤澤正一郎 : 脳波による認知機能評価の一考察, 電気学会 制御研究会「ヒューマンサポートシステムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-24-050, 2024 年 1 月.
- 5) 石田千紘, 西村風宇子, 加治芳雄, 山本由和, 河田淳治, 森本滋郎, 藤澤正一郎 : 性格のタイプ別相性による学習効果, 電気学会 制御研究会「ヒューマンサポートシステムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-24-051, 2024 年 1 月.
- 6) 西村風宇子, 石田千紘, 加治芳雄, 山本由和, 河田淳治, 森本滋郎, 藤澤正一郎 : 性格タイプによるグルーピングの学習効果, 電気学会 制御研究会「ヒューマンサポートシステムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-24-052, 2024 年 1 月.
- 7) 河田淳治, 森本滋郎, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : 視線追跡型 VR HMD を用いた電動車いすの制御とそのユーザ・インタフェース, 電気学会 制御研究会「ヒューマンサポートシステムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-24-053, 2024 年 1 月.
- 8) 森本滋郎, 堀尾 誠, 河田淳治, 加治芳雄, 樋口峰夫, 天野久徳, 藤澤正一郎: 脈拍に基づく感情推定モデルに関する考察, 2024 年電気学会電子・情報・システム部門大会, TC5-2, pp. 170-171, 2024 年 9 月.
- 9) 加治芳雄, 山本由和, 河田淳治, 森本滋郎, 藤澤正一郎: 暗算負荷時における認知機能評価に関する一考察, 2024 年電気学会電子・情報・システム部門大会, TC5-4, pp. 176-177, 2024 年 9 月.
- 10) 河田淳治, 森本滋郎, 加治芳雄, 樋口峰夫, 天野久徳, 藤澤正一郎: VR トラッキングによる電動車いすの制御, 2024 年電気学会電子・情報・システム部門大会, TC5-6, pp. 182-187, 2024 年 9 月.
- 11) 山形ひとみ, 芥川正武, 榎本崇宏, 木内陽介, 加治芳雄, 七條文雄, 池原敏孝 : 複数点滅刺激による SSVEP を用いた連続量入力の検討, 令和 6 年度 電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会, 2024. 9.

- 12) 山形ひとみ, 芥川正武, 榎本崇宏, 七條文雄, 加治芳雄, 木内陽介, 池原敏孝 :
CCA を用いた連続量入力 SSVEP 型 BMI の検討, 第 47 回 日本生体医工学会 中国四国
支部大会, 2024. 11.

3. 知的財産権の出願・取得状況

記載事項なし

4. 令和 6 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

科研費申請分 :

基盤研究(C)(一般), 医療福祉工学関連, 「視線入力型電動車いすの安全機能の開発
に関する研究」, 研究分担者

自己評価

学会・研究会など成果を発表できた。今後も継続して努力したい。

大学内運営

活動報告

- 1) 2 年生学年担任、チュータ担当(1 年 5 名、3 年 6 名、4 年 7 名)
- 2) 広報委員
- 3) 入試業務
- 4) オープンキャンパス : 模擬授業担当(2 回)

社会貢献

1. 学会等への貢献
 - 1) 電子情報通信学会四国支部学生会顧問(2015 年 4 月～)
2. 地域社会への貢献
 - 1) 小学生プログラミングコンテスト支援 (2024 年 4 月～)

個人情報

1. 氏名：山城 新吾
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域
総合領域 科学教育・教育工学 教育工学
総合領域 情報学 情報学基礎 メディア情報学
2. 学部授業担当科目
前期：インストラクショナルデザイン インストラクショナルデザイン演習 コンピュータグラフィックス論Ⅰ コンピュータグラフィックスⅠ メディア基礎論 メディア制作論 専門ゼミナールⅠ メディアデザイン通論 卒業研究
後期：メディア基礎演習 メディア教育演習 メディア教育論 専門ゼミナールⅡ コンピュータ基礎演習 情報科学 卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生
卒業論文（１）名、大学院修士（１）名
4. 自己評価：
全授業で視聴覚教材の提供や学生による課題遂行・レポート提出・プレゼンテーションを推進した。その他、「メディア基礎演習」でティームティーチング実施、「インストラクショナルデザイン演習」で学生によるeラーニング教材制作と実践を行った。

研究領域

1. 専門研究領域
総合領域 科学教育・教育工学 教育工学
複合領域・社会・安全システム科学・社会システム工学・安全システム
2. 研究課題及び概要
「課題」防災教育・啓発プログラム・教材の開発
専門職種に応じた研修設計・研修教材の開発
「概要」インストラクショナルデザインの知見を活かし、防災教育分野や各種の専門職に対応した研修の設計・研修教材の開発を行っている。
3. 令和6年度分 研究業績一覧
論文・著書
(なし)
学会発表
「1歳6か月児健診から3歳児健診までの継続的歯科保健指導を可能にするICTを活用した指導プログラムと教材の開発―多職種からのアプローチ―」
坂本治美・吉岡昌美・喜来浩子・山城新吾・船本孝子・森万里子
令和6年度徳島文理大学第17回「特色ある教育・研究」全学発表会
2024年9月12日

知的財産権の出願・取得状況

(なし)

令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

令和6年度徳島文理大学「特色ある教育・研究」

「1歳6か月児健診から3歳児健診までの継続的歯科保健指導を可能にするICTを活用した指導プログラムと教材の開発―多職種からのアプローチ―」

研究代表者 坂本浩美（保健福祉学部口腔保健学科） 採択

自己評価：

保健福祉学部および短期大学部との協同により、映像教材の開発を行った。

大学内運営

活動報告

- ・人間生活学部 学生指導委員会 委員
- ・人間生活学部 教員養成推進委員会 委員
- ・人間生活学部メディアデザイン学科 4年生担任・1～3年生チューター

社会貢献

- ・2024年5月15日 株式会社エイト日本技術開発
イブニングセミナー「インクルーシブ防災」
「保育現場における防災について」 ZOOM 研修講師担当
- ・2024年7月11日 徳島市保育所防災研修講師
「保育現場における防災について」
- ・2024年11月16日 学校法人高知学園 高知中学高等学校 出張講義
【体験型】「デジタル写真撮影の基礎
～スマートフォンでも一眼レフでも、もっときれいな写真撮影～」
- ・2024年11月14日 徳島県立城西高等学校 体験講義
「避難シミュレーションゲームに挑戦してみよう」

個人情報

1. 氏名：長濱太造
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：統計科学，マルチメディア
2. 学部授業担当科目
前期：メディアデザイン通論，コンピュータ概論，情報処理論，生活と情報A，情報処理，文理学，専門ゼミナールⅠ，卒業研究
後期：応用統計学，社会調査法，CGアニメーション，コンピュータグラフィックス演習Ⅰ，基礎ゼミナールB，文理学，専門ゼミナールⅡ，卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（1）名、大学院修士（0）名
4. 自己評価：
 - ・全ての授業において、Google ClassroomでPower PointやExcel、テキストファイル等の指導案を配布し、受講者の理解がより深まるように工夫している。
 - ・学習内容が定着するよう、授業のひとまとまり毎にレポート提出や小テストを実施している。
 - ・コンピュータグラフィックス系の授業では、コンテストを開催して受講者のモチベーションが向上するよう工夫している。
 - ・社会調査法で反転授業を導入・改良し、教育効果に手応えを感じている。
 - ・基礎ゼミナールBでは、メディアデザイン学科1年生全員を対象に本学図書館で課題解決型アクティブラーニングを実施し、教育効果に手応えを感じている。また、同授業をきっかけに、受講者6名が本学図書館のSNS等を活用した情報発信活動に積極的に参加することになった。

研究領域

1. 専門研究領域：統計科学，教育工学，マルチメディア
2. 研究課題及び概要：
 1. 対話型AIを活用した課題解決型アクティブラーニングの効果的な教育方法の検討
3. 令和6年度分 研究業績一覧：
学術論文・著書
 1. 「3歳児のう蝕に関連する危険因子の検討」2025.02，四国公衆衛生学会雑誌 第70巻・第1号，（坂本治美，長濱太造，吉岡 昌美，中江 弘美，十川悠香，篠原千尋，武市真那実，福井誠，日野出大輔）
 2. 「37年間の学校における歯科保健教育から見てきた養護実践のあり方 ―エスノグラフィを用いた分析を通して―」，徳島文理大研究紀要 第108号 33-39，（貴志知恵子，竹内理恵，長濱太造）学会発表
 1. 「学生の認知の変容を可視化する試み ―養護教諭の職務や求められる能力に対して―」2024.12.07，日本養護教諭教育学会 第32回 学術集会，（竹内理恵，長濱太造，加賀谷扶美世）

4. 知的財産権の出願・取得状況：該当なし

5. 令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：該当なし

6. 自己評価：

- ・今年度も、本学図書館で課題解決型アクティブラーニング（以下、AL）「ALと学生の講義への取り組み方が基礎的・汎用的能力に及ぼす影響」（図書館AL）をメディアデザイン学科の正規の授業として、1年生後期の「基礎ゼミナールB」で実施した。

昨年度の卒業研究で開発した図書館AL用の企画書可否判定AIを改良し、受講者に使用方法の説明と演習を実施した上で、図書館ALで活用させた。受講者からは「自分では気づきにくいことも客観的に可否判定してくれた」「アドバイスもちょっとした工夫でここまで変わるのかと気づかせてくれることが多々ありました」「企画に足りない点を的確に教えてもらえて使いやすかった」「自分では考えられないことも提案してくれたので助かった」等のフィードバックを得られた。次年度につながる、十分な成果を上げたといえる。

また、副産物的な成果ではあるが、本学図書館を舞台に次のような企画を実行し、成果を上げた。

- ・-Destiny with Books- 知らない本との出会い
- ・映画×小説の世界を深掘り！読書体験をもっと豊かに
- ・リフレッシュおみくじ
- ・勉強の間に座って出来る簡単な眠気解消&疲労回復
- ・クイズで図書館について知ろう
- ・しりとりを使って新しい本に触れてみようひとりしりとりチャレンジ

大学内運営

1. アカンサス会本部役員
2. アカンサス会徳島県支部役員
3. アカンサス会高知県支部事務局
4. 退学者防止対策検討委員
5. 新入生セミナー運営委員
6. 人間生活学部入学試験委員
7. 人間生活学部自己点検・自己実現委員
8. 人間生活学部就職支援委員
9. オープンキャンパス 模擬授業講師3回担当
10. 1年生担任，2～4年生チューター
11. 入学試験 監督・面接

社会貢献

1. 第59回徳島県高校放送コンテスト審査員（徳島県高等学校文化連盟）
2. 阿波の狸 奉賛会世話人 地域イベント支援と地域文化発信

第5節 建築デザイン学科

個人情報

1. 氏名：上田 泰史
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 建築環境学、建築設備、建築環境マネジメントシステム
2. 学部授業担当科目
前期：家庭電気・機械 建築デザイン学科1年生 後期：住居環境学 3年生
食物栄養1年生 住生活環境学Ⅰ 2年生
人間生活2年生 住宅設備Ⅱ 3年生
福祉住環境論 2年生 専門ゼミナール 3年生
住生活環境学Ⅱ 3年生 住居衛生学 食物栄養2年生
住宅設備Ⅰ 2年生
環境保全論 4年生
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文(Ⅰ)名
表題「四国地域の建築カーボンニュートラル化の調査研究」
4. 自己評価：
 - ・「家庭電気・機械」の出欠は受講生が多いため、本年度は出欠登録を学生の記入式とした。1年時の学生にもグループディスカッション形式を行った。
 - ・「福祉住環境論」では、建築士と福祉住環境コーディネーターとの建築における共通認識を高める重要性を強調した。資格試験問題を活用した講義や教員自身の要介護の親類の状況を写真で紹介した実践的な講義を行った。
 - ・「住生活環境学Ⅰ」と「住生活環境学Ⅱ」では、住居環境の要素である温熱・空気・光・音・水のうち2年生の「住生活環境学Ⅰ」では音、温熱・空気を中心に行った。3年生「住生活環境学Ⅱ」で光、空気、水を講義した上、毎回グループディスカッションテーマを与えて積極的に行った。
 - ・「住居環境学」では「人と住環境」の視点から人間の生理と関連付けた内容を中心に講義を行った。毎回、関連動画を視聴し、設定テーマについてグループディスカッションを行い、学生が自ら調べて考えた結果のプレゼン機会を設けた。
 - ・「住居衛生学」では受講生が3名と少人数のため対話形式として学生が住居衛生に関心が持てるように身近な事例を織り交ぜた講義を行った。学生が将来の職業について授業から活かせる内容のレポート課題とし添削指導を行った。
 - ・「住宅設備Ⅰ」は、給排水衛生設備、「住宅設備Ⅱ」は空気調和設備を主に取上げ、建築計画を行う上で建築と設備とのかかわりを重点的に講義を行った。「住宅設備Ⅰ」「住宅設備Ⅱ」ともに、関連動画や2級建築士試験問題演習と毎回グループディスカッション・発表を行った。学生との対話を積極的に行い、社会に出てからのコミュニケーションツールとしての手法を指導した。
 - ・「環境保全論」では、教員の会社経験から環境保全教材を作成し、講義を行った。学生が環境問題を題材にして、あるべき「環境」状況と現実の「環境」との乖離を「問題」と認識し、問題解決の方向が「課題」であることを指導した。その際問題と課題の区別をつけて、具体的な解決策を考えさせた。

研究領域

1. 専門研究領域： 建築環境学、建築設備
2. 研究課題及び概要
研究課題：地域社会のゼロカーボン化に向けた建築サプライチェーンマネジメントの取組み調査（令和5年度特色ある教育研究テーマ）
研究概要：建築会社の自社建設現場施工のCO₂発生量割合(自社範囲スコープ1・24%)に対して、建設資材を製造等のサプライチェーン上流のスコープ3のCO₂排出量割合が65%と高く、サプライチェーン上流排のCO₂削減が大きな課題である。
四国地域建築業界のカーボンニュートラル建築サプライチェーン調査研究を実施し9月12日（木）に香川キャンパスにて研究発表を行い、研究紀要第109号に投稿
3. 令和5年度分研究業績としての対外論文等は無
4. 知的財産権の出願は無
5. 令和5年度年度分科学研究費補助金等は無
6. 自己評価：令和5年度特色ある教育・研究を行い、四国地域（徳島・香川等）の建築会社へのカーボンサプライチェーン活動の啓発に寄与した。

大学内運営

- 1.活動報告
 - ①オープンキャンパスでの学科説明、模擬授業を担当
 - ②人間生活学部入学試験委員会委員長
地方入試の各学科担当者の人数振り分け
 - ③人間生活学部教育研究委員会委員
 - ④高校生体験授業担当（6月28日ヒューマンキャンパス高知学習センター、7月9日阿波西高校、11月12日池田高校）
 - ⑤保護者会・保護者面談（8月24日徳島、9月15日広島で対面形式にて実施）
 - ⑥高校先生方への進学説明会参加（6月19日鳴門・板野ブロック説明会）
 - ⑥建築デザイン学科3年生担任

社会貢献

- 1.学会等への貢献：
 - ①（公社）日本技術士会会員
 - ②（公社）日本技術士会近畿本部環境研究会幹事
 - ③（公社）日本技術士会四国本部会員
 - ④（公社）日本技術士会全国大会へ参加
 - ⑤京都大学技術士会幹事
 - ⑥日本食糧農業工学会員
 - ⑦環境情報科学会会員
 - ⑧（一社）日本能率協会専任審査員
 - ⑨新技術開発（株）技術士受験対策講師（環境部門）
 - ⑩（一社）日本要員認証協会会員（環境・品質マネジメントシステム）

個人情報

1. 氏名：岡松 道雄
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：建築設計学、建築計画学、都市計画学
2. 学部授業担当科目
前期：建築計画論、都市計画論、住宅政策論、生活施設計画、住宅設計製図Ⅱ、卒業研究
後期：住居学、景観論、人間工学、インテリアデザイン基礎、専門ゼミナール、卒業研究
大学院授業担当科目
博士前期課程：住生活環境学特論Ⅰ・Ⅱ、地域・市場調査演習Ⅱ、住居学特論
博士後期課程：住生活環境学特別講義、住生活環境学特別研究、生活習慣環境学域
3. 直接に研究指導した学部学生、大学院生：
卒業設計（８）名 修士論文（０）名
4. 自己評価：

４月に新任後、新しい研究教育環境に慣れることと新規授業の立ち上げに多くの時間を費やした。令和７年度に向けて本年度の教育の方法や成果、課題を自己分析し、再検討する必要がある。教育活動では１年生２年生のチャレンジラボで３作品を競技設計へ提出することができた。研究活動では大阪の河川敷空間の調査結果をまとめ、建築学会の技術報告書に掲載できたことと、ポートランドの街路景観調査が実施できたことが大きな成果である。

<専門科目・設計分野>

前期の住宅設計製図、23号館７階の大製図室と４階の模型制作室を使い実習を行った。そして設計力には個人差があるので、丁寧に個人指導を行った。後期のインテリアデザイン基礎では、地域公共図書館のインテリア設計を課し、大学図書館を生きた教材として活用した。模型制作実習は制作方法を教え合い、意見を交わすことが多く、設計実習はアクティブ・ラーニングとして充実した一形態と言える。なお重要な設計課題に和室のインテリアがある。和室は日本の室内意匠の基本であるが、自宅に和室がない学生が増え、将来に引き継ぐ必要を感じる。特に外部空間とのかかわりを強く発達させてきた日本建築の良さを多面的に伝えてゆきたい。

<専門科目・建築計画・都市計画分野>

座学である建築計画などの授業では、スライド上映も利用して視覚的な授業方法も活用したが、学生の反応は静かでおとなしい。ノートをとる受講態度は本当に少数組になり、板書をノートに書き写して理解することを求めても時代錯誤なのかもしれない。建築や都市の問題を国都交通省の資料から抜粋し、全国的な動きと徳島での問題をつなげるように身近な解決課題として感じてもらう様に務めた。また景観論においては、出来るだけ客観的な議論のベースとなる事項について取り扱った。

<卒業設計>

大学教育の質保証が重要な課題になり、それは卒業研究にあたって問題発見から課

題解決まで一貫して取り組むことにより養われると考えている。建築デザイン学科では主に卒業設計をするが、卒業設計は、自ら課題を見だし、調査を行い、課題の解決のための建築デザインの提案が期待される。その教育効果は大きいので、多くの学生が取り組むことを願う。

研究領域

1. 専門研究領域： 建築計画、都市計画

2. 研究課題及び概要

研究課題：境界領域における建築インターフェイスの一体型滞在快適性評価に関する研究

研究概要：2020 年都市再生特別措置法改正に伴い、街路と建築の「一体型滞在快適性」向上が求められ、「境界領域」の定性的評価が重要となった。従来の境界領域研究では一体性や快適性といった定性的な要因の検証が十分ではない。本研究では、境界領域の建築的「設え」（建築インターフェイス）が滞在や交流を促すことに着眼し、滞在快適性を向上させる要因を明確化・体系化する。

3. 令和 6 年度分 研究業績一覧

藏重晴香、岡松道雄、宋俊煥、河川敷活用と一体化した建築物の配置特性とインターフェイスの特徴 一大阪市の河川活用の取組みと 8 事例を対象に一、日本建築学会技術報告集,第 30 巻,第 76 号, 1512-1517, 2024 年 10 月

4. 知的財産権の出願・取得状況

なし

5. 令和 6 年度分 科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況

令和 6（2024）年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（B））
「境界領域における建築インターフェイスの一体型滞在快適性評価に関する研究」（2022 年度～2025 年度）

6. 自己評価

上記科研費課題において、大阪の河川敷空間の調査結果をまとめ、建築学会の技術報告書（査読付き）に掲載できたことと、本年 9 月にポートランドの街路景観調査を実施し、中心市街地（Downtown Districts）の 9 地区で 9 ブロック（合計 81 ブロック）のグランドレベルの実測調査が実施できたことが大きな成果である。

大学内運営

- 1) 1 年担任
- 2) 自己点検・自己評価委員
- 3) 学部広報委員長

社会貢献

1. 学会等への貢献：

- 1) 日本建築学会会員
- 2) 日本都市計画学会会員
- 3) 日本建築設計学会会員

2.社会活動

特になし

3.文化活動

- 1) 神山市視察（ヒアリングおよびフィールドワーク参加、4月17日認定NPO法人グリーンバレー事務局）
- 2) 上勝町視察（ヒアリング及び現地見学、4月27日上勝ゼロウェイストセンター、ブリュワリー）
- 3) 今治市合併20周年記念事業「丹下健三顕彰シンポジウム」（12月21日今治地域地域産業振興センター）

個人情報

- 1.氏名：笠井 敬正
- 2.職位：准教授

教育領域

- 1.教育担当専門領域：構造力学、建築計画、測量、インテリアデザイン
- 2.学部授業担当科目

前期：構造力学Ⅱ、測量学、インテリア計画、

後期：構造力学Ⅰ、住宅設計論、インテリアデザイン論、インテリアデザイン応用、
住宅設計製図Ⅳ、専門ゼミナール

- 3.直接に研究指導した学部学生：卒業論文（1）名、その他（0）名
- 4.自己評価

（1）授業について

「構造力学」については毎時間前回の復習をさせながら進めていった。基本に重点を置き、課題を増やしフィードバックすることによって少しでも学生の理解度が高まるよう心掛けた。頻繁に図や計算式を描く授業なので、特に学生には、自分が見てもわかりやすい図がフリーハンドで描けるようになることが大事であると指導した。

「測量学」は、座学・外業・内業という一連の流れを通して知識としてだけでなく経験として身につく授業である。測量実習では学生たちは熱心にまた楽しそうに取り組んでいた。班に分かれての実習は協働・責任・達成感等十分成果を収めることができたと思う。

「インテリアデザイン応用」では、本年度前期に自分が設計した木造住宅のパース作成およびインテリアを含めた模型製作、そして自分が興味を持った有名なデザイナーの椅子と自分が考案したフロアスタンドの模型製作、以上4テーマを課題とした。特に模型製作では、学生たちは、考え、お互いに教えあいながら興味を持って楽しく取り組んでくれた。

「住宅設計製図Ⅳ」では最後の設計製図として将来受験する建築士試験を見越しての課題を設定し、図面そして簡易パースの提出を課した。学生たちにはその建築物についてしっかり調べさせることから始めた。例年と同じく、構造、法規、設備上の問題等わからないところもたくさんあり当初なかなか考えがまとまらなかったようだが最後にはきちんと完成させることができた。

その他の科目に関しても、映像で理解度を深めるとともに、各種レポート、描画実践を含めた課題のレポート等で復習の機会を設けた。

学生にとって授業第一と考え、いろいろな方法を模索しながら進めてきたが、まだまだ反省点もあった。

（2）授業外について

ドローン操縦について、チャレンジラボで所属している学生たちと話し合いながら研究・練習を進めてきたが今年度もいろいろな規制で構外での飛行練習ができなかった。次年度の課題である。

研究領域

1.専門研究領域：建築計画

2.研究課題及び概要

研究課題：地域の状況から見える古民家の特徴についての調査に関する研究

研究概要：家の様相は過去から現在そして未来へと大きく変化していく。その変化の様子はかつてその地域に根ざした人々の生活の上にたって起こりうるものと考えられる。私達のまわりの地域の歴史や特徴、そしてそこに住む人々の生活の状況並びにそこに現存するまたは過去に存在した古民家の特徴を調査・研究していく。

3.令和6年度分 研究業績一覧（なし）

4.知的財産権の出願・取得状況：（なし）

5.令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：（なし）

6.自己評価：研究についてはあまり成果を上げられなかった。

大学内運営

1.活動報告

- ・ 建築デザイン学科2年担任
- ・ 新入生セミナー運営委員会委員
- ・ 学部学生指導委員会委員
- ・ 自衛消防隊員

社会貢献

1.学会等への貢献（なし）

2.地域社会への貢献（なし）

個人情報

- 1 氏名：川村 恭平
- 2 職位：教授

教育領域

- 1 教育の担当専門領域：
工学： 建築学 建築環境・設備 情報工学
家政学： 住居学
- 2 学部授業担当科目
前期：CAD演習Ⅰ、住生活論（製図を含む）、住居意匠学
後期：住生活論（製図を含む）、日本建築史、コンピュータ演習Ⅰ、CAD演習Ⅲ、専門ゼミナール
- 3 直接に研究指導した学部学生4名
卒業研究の指導3名
- 4 自己評価
授業については紙媒体も含めIT機器の活用などに努めた、しかしながら授業者としてITの活用(特にPowerPoint)の使用した授業の工夫・改善の必要があると痛感した。授業者は多くのデータ（通常の授業の3倍程度の情報量）に対して授業を受ける学生側の準備ができていないことがある、結果として流れた授業になった。

研究領域

- 1 専門研究領域：
工学 建築学 建築環境・設備
家政学 住居学
- 2 研究課題及び概要：
日本の住居形式と熱環境（伝統的な住まい方）についての研究
3Dプリンタの活用による建築模型の製作方法の研究
ドローン（無人航空機）による建築分野での活用方法の研究
- 3 令和6年度分 研究業績一覧
- 4 令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
- 5 自己評価
研究については、本学25号館の東側全面ガラス窓の熱環境、特に日射について実測調査を行い熱環境の分析と対応策の検討をおこなった。
また、本学で実施している避難訓練を学生の側からみた自主避難マニュアルを作成し、卒業論文の資料とした。
25年度 徳島県立光慶図書館の3D復元（徳島県立文書館）および村崎女子職業校の3D復元と卒業論文の指導
26年度 千秋閣3D復元と卒業論文の指導
27年度 フランクロイドライトの落水荘の再現に関する卒業論文の指導
28年度 3Dプリンタの建築プレゼンテーションの活用及戦前の徳島市の著名な建

建築物の再現に関する卒業論文の指導

- 29年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに3Dプリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において旧診療所や小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
- 30年度 3Dプリンタによる建築模型の製作及び間取り作成用のパーツを試作し、住宅会社における試用を開始している。また、高等学校家庭科の住居分野における間取り作成ツールを製作し、実際の高等学校の授業で使用している。
- 卒業研究で展示用の大学全景模型（1/300）の2号館を作成した。
- 31年度 特に3Dプリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作を行った。
- 令和2年度 3Dプリンタの活用において、県内設計事務所、住宅産業等とのコラボによる住宅模型の製作のノウハウが確立できた。トクシマビジネスチャレンジメッセに文理大学としてオンラインによる展示・出品を行った。
- 令和3年度 徳島県建築士事務所協会で「建築はおもしろい」において研究発表を指導した。
- 令和4年度 徳島県建築士事務所協会で「建築はおもしろい」において研究発表を指導した。トクシマビジネスチャレンジメッセに文理大学として展示・出品を行った。
- 令和5年度 3Dプリンタによる建築模型の製作、特に企業との連携を多く図っている。

大学内運営

1 活動報告

人間生活学部教員養成推進委員
人間生活学部学生指導委員
保護者会保護者面談（徳島&遠隔）
建築デザイン学科3年生担任（43名）

社会貢献

1 学会等への貢献：

日本環境学会（大阪市立大学）

2 地域社会への貢献：

- 19年度 徳島県のLOHASな徳島入門講座でecoな生活、ecoな住まいのテーマで講演
- 20年度 徳島県緑化マイスター講習会で講演
- 21年度 徳島県エコオフィス事業との連携による壁面緑化の効果に関する研究
- 22年度 徳島県エコオフィス事業との連携による壁面緑化の効果に関する研究
- 23年度 Yes21においてボランティアによる住宅間取り相談

- 24年度 とくしまエコみらいハウスの評価助言指導
- 24年度 徳島県立光慶図書館の3D復元 作業(徳島県立文書館)
- 25年度 徳島県立光慶図書館の3D復元 徳島県立文書館および村崎女子職業校の3D復元の完了
- 26年度 千秋閣の3D復元の完了および徳島県との地域連携として高開の石積みの擁壁の測量を行った。
- 27年度 徳島県との地域連携の2年目として高開の石積みの擁壁の測を行った。この際ドローンの積極的な活用を行った。
- 28年度 3Dプリンタの建築プレゼンテーションの活用及戦前の徳島市の著名な建築物の再現に関する指導、さらにドローンの建築現場における活用を行った。
- 29年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに3Dプリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において旧診療所や小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
- 30年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに3Dプリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において廃校となった種野小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
- 31年度 特に3Dプリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作を行った。
- 令和2年度 特に3Dプリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作し、ノウハウを確立した。
- 令和2年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに文理大学としてオンラインによる展示・出品を行った。
- 令和3年度 徳島県建築士事務所協会で建築はおもしろいにおいて研究発表を指導した。
- 令和4年度 徳島県建築士事務所協会で建築はおもしろいにおいて研究発指導した
徳島県ビジネスチャレンジメッセに文理大学として展示・出品を行った。
- 令和5年度 とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として小学生を対象に徳島文理大学建築デザイン学科で3Dモデルの作成体験を実施

令和6年度 3Dプリンタによる建築模型の製作、特に企業との連携を多く図っている。
さらに、黒川紀章設計による山川少年自然の家の再現模型の製作に取り組んでいる。

12年前に実施した徳島市山城町東浜傍示の約450軒のエコ対策への取り組みについて、新たに再調査を行っている。特に、従来の日本の生活の中で実施してきた建築物のもつ本来のエコ対策（パッシブ）の視点で調査している。

個人情報

- 1 氏名：畠 孝行
- 2 職位：教授

教育領域

- 1 教育の担当専門領域：住宅施工、住宅構造学Ⅰ、住宅構造学Ⅱ、図学、住宅材料学Ⅰ、住宅材料学Ⅱ、住居安全論、住宅管理、専門ゼミナール
- 2 学部教授担当科目

前期：図学・・・・・・1年生	後期：住宅構造学Ⅰ・・・1年生
住宅構造学Ⅱ・・・2年生	住居安全論・・・3年生
住宅施工・・・・・・3年生	住宅材料学Ⅰ・・・3年生
住宅材料学Ⅱ・・・4年生	専門ゼミナール・3年生
	住宅管理・・・・・・4年生
- 3 直接に研究指導した学生
 - ・卒業研究（0）名
- 4 自己評価
 - ・「住宅施工」は、特に建築専門用語を理解させること、工（構）法やモノの組合せ、および、仕組みを学ぶために、映像や見本（サンプル）による指導に時間を投じた。そのほか、要点を絞った内容のミニテストに力を注ぎ、具体的な学習により理解度を高めた。
また、3年生全員を対象に、各種の納まり、建設産業への魅力や関心をより深める授業の一環として、本校の高松キャンパス建設現場の研修・見学を前期1回、後期1回の計2回実施した。
 - ・「図学」は、三次元のモノを二次元に表現する作図法に要点をしぼり、実践的な課題を実施することにより理解度を高めた。
また、1点透視及び2点透視図の作成要領を詳しく指導した。
 - ・「住宅材料学Ⅰ」は、建物を建てるための仮設、土工、躯体から仕上げに至るまでのすべてに用いる主要な材料の映像や見本（サンプル）など個々の使い方、また重要な点を要点的に指導した。なお、実験は、コンクリート技師5名を実験室に招き、骨材のふるい試験から圧縮強度試験までを実施した。
 - ・「住宅材料学Ⅱ」は、材料の持つ力学的性質を理解させるため、コンクリートのひずみ実験を実施した。また、2級建築士程度及び2級建築施工管理技士程度の演習問題を実施した。
 - ・「構造学Ⅰ・Ⅱ」は、構造部材（骨組）の構成や関連付け（納まり）の理解、各種構造の性能が理解できるような映像、そのほかサンプルなどを用いて理解度を高めた。また、要点を絞った内容のミニテストを数回実施してより理解度を高めた。
更には、2級建築士程度及び2級建築施工管理技士程度の演習問題も実施した。
 - ・「住居安全論」は、特に「建物の火災について」に要点を絞って指導をした。また、23号館の消防設備にどのようなものがあるかを調査させて理解を深めた。
 - ・「住宅管理」は、長寿化が進み、かつ高度な文明が発達した現代、住環境も急激に

変化して、それに伴う住宅管理も専門的になっており、一個人では解決できない状況になってきた昨今である。従って授業は一個人で処理・調整などに手が届くメンテナンスや、集合住宅の管理、居住地の管理に重点をおいた内容として理解を求めるようにした。

研究領域

- 1 専門研究領域：特になし
- 2 研究課題及び概要：特になし

大学内運営

- 1 活動報告
 - ・ 建築デザイン学科 1 年担任・チューター
 - ・ オープンキャンパスにおいて学科説明、模擬授業を実施
 - ・ 3 年生全員を対象とした、学科独自の「就職セミナー」を 10 回にわたり開催、47 社に参加いただき、学生の就職支援をおこなった。

社会貢献

- 1 地域社会への貢献：特になし

個人情報

- 1.氏名：山田 幸
- 2.職位：教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域： 建築設計全般、コンピュータ（CAD）、建築法規
- 2.学部授業担当科目：
前期：住宅設計製図Ⅲ、建築法規、西洋建築史、CAD演習Ⅱ、造形演習
後期：住宅設計製図Ⅰ、コンピュータ演習Ⅱ、住居インテリア、専門ゼミ
- 3.直接に研究指導した学部学生：
卒業設計（8）名、その他（4）名
- 4.自己評価

本学に赴任して3年目となった。本年度は学科長を拝命し、学科の運営に携わったが、本学での経験も浅く、教員としての経歴も短い中、事務系の仕事をこなすだけで精一杯の状態であった。

講義の面では昨年より余裕をもって授業に臨めた。前年の経験を踏まえて、自分自身の設計例を手がかりに、設計過程を語ることで、講義に臨場感を出すことに努めた。また建築材料の実物を回覧し、手にとって見せた上で施工例を見せることが学生の注意を引きつけ、学習意欲向上に有効だったと感じた。

チャレンジラボのリノベーションの講座では、学生と一緒に実際の建物を実測しリノベーション案を作ることができて、非常に有意義な経験となった。

建築学会主催の「全国大学高専卒業設計展」を今年から本学を会場に開催した。3日間で130名の観覧者があり成功のうちに閉幕できた。全国の卒業設計の優秀作品が一同に会して見られる貴重な展覧会で有り、本学学生にとっても非常に参考になる機会であったが、本学学生の観覧者が予想より少なかったのが残念であった。

住宅設計製図Ⅲ 前年と同様、学生を6名ずつ7グループに分けて、グループごとに草案批評を行うようにした。グループワークとすることで、同じ課題に対して他の学生が考えている事やその案に対しての教員の指導内容を聞くことができ、個人指導よりも多くの内容が学べたと考える。

CAD 演習Ⅱ 講義を3段階に分けて、第1段階ではCADの操作を学び、あとの2段階で、住宅設計製図Ⅲで自分が設計した図面をCAD化する内容とした。手書きで製図した図面をすぐにCAD化することになり、取り組み易かったのではないかと考える。

建築法規 建築基準法は、随時変更、強化されている。学生にとっては始めて学ぶ法律だが、変更の過程も説明することで、法律の趣旨、目的、成立過程も一緒に学習し、建築基準法が生きた法律として意識できるように考えた。また、学校の校舎の実物を使って防火扉や防火区画、避難バルコニーなど、建築基準法が実際の建物にどのように影響しているか、法律とデザインの関係を解説した。机上の法律と建築の関係を具体的に知ることができて効果的であった。

西洋建築史 高校の時の覚えるだけの歴史ではなく、社会精神の反映としての建築、

構法の発達としての建築を、時代の流れと一緒に学べるように意識して講義を行った。昨年から、採用したより専門性の高い教科書に合わせて講義内容も一新したが、教科書に無い近代以降の建築についての講義内容を充実させた。

住宅設計製図Ⅰ 製図法を学ぶだけではなく、建築家がどのように考えて設計を行っているかを同時に学べるよう、名作と呼ばれる住宅作品の図面模写を行った。今年度は、二つの住宅を取り上げ、一般図の製図の後、模型製作や矩計図の製図を行い、それぞれの住宅をより深く理解できるように変更した。

コンピュータ演習Ⅱ CAD 演習Ⅱで作成した CAD データを使って、3D モデリングを行った。昨年度から採用した教科書をガイドに、細かな作図方法を広く学べるように留意した。学生の CAD 能力にばらつきがあるため、適宜個人指導も交えつつ、学生の能力に応じた指導をこころがけた。

住居インテリア 昨年度から担当した科目である。他のインテリア科目と内容が重ならないように、インテリアの歴史とインテリアの素材を中心に講義を行った。特に素材では、私の設計監理したインテリア設計を糸口にそこに使われた素材を実物を見ながら学べるようにしたことが学生の学修に効果的であったと感じている。

専門ゼミナール 設計を志す学生のために共同住宅の設計を指導した。大学近くの実際の敷地を指定し、自由に共同住宅を設計する内容とした。法規制の厳しい敷地であり、実際の設計業務に近い内容を課した。ここでもグループワークで他の学生の設計案や教員の指導を聞き、自分の計画に反映できるように考えた。

研究領域

1.専門研究領域：建築設計、建築再生、建築法規

2.研究課題及び概要

大規模木造建築の設計法の研究

木造4階建て共同住宅の研究

保有耐力法等による最新耐震設計技術の動向の研究

3.令和4年度分 研究業績一覧 特に無し

4.知的財産権の出願・取得状況 特に無し

5.令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況： 特に無し

6.自己評価

昨年に引き続き、木造4階建ての中規模共同住宅の設計検討を行った。法規の改正により実現できるようになった建物である。構造、耐火被覆などの問題点を整理し、今後の研究活動の方向性を見定めた。

建築学会四国支部徳島支所の常議員に選出され、学会の活動や運営にもかかわるようになった。今年から四国支部事務局が徳島市内に移転したので、より密接に学会の活動に参加できた。加えて、東京で開催された学会の総会に参加し、研究分野の動向を知ることが出来た。今後とも大学の存在感を高めるため、学内外の活動を続けたいと考えている。

大学内運営

1.活動報告

- ① 学科長として、学科の運営にかかわった。
- ② チャレンジラボ、リノベーション講座開講
- ③ 建築デザイン学科1年生担任

社会貢献

日本建築学会 四国支部徳島支局 常議員
木造住宅の耐震診断と耐震補強を考える会 副会長
古材文化の会会員

第6節 心理学科

個人情報

1. 氏名：青木 宏
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：心理学（臨床心理学、犯罪心理学等）
2. 学部授業担当科目
前期：心理学概論、臨床心理学概論、学習・言語心理学、異常心理学
後期：神経・生理心理学、教育相談、ジェンダー論、ライフサイクル論、専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文3名
4. 自己評価：学生の興味・関心を引き、知的好奇心を刺激するために、プレゼンテーションを自作するほか、映像や動画を活用した。また、テーマによっては、クラスルームを用いたフリーな意見発表やロールプレイング、簡易なテスト、PGR 測定器を用いた実習なども実施し、主体的な取り組みを促した。加えて、犯罪被害者遺族やトランスジェンダー当事者などをゲストスピーカーとして招いての講義も実施した。
5. ハイブリッド授業を引き続き実施し、体調不良等の理由で受講できない学生のニーズに対応した。

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学
2. 研究課題及び概要
「若者のストーカー被害実態調査」

徳島県警察本部との共同研究は終了し、啓発活動に重点を移している。心理学概論においてストーカーの心理等について講義するとともに、実際にストーカー対応に当たっている警察官をゲストスピーカーとして招き、ストーカーの実態や対策についての知見を伝えた。その後、ストーカー関連の相談も複数寄せられており、未然防止や早期介入に成果を上げている。

令和6年度分 研究業績一覧

1. 論文
該当なし。
2. 学会発表
該当なし
3. 知的財産権の出願・取得状況
該当なし
4. 令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
該当なし

5. 自己評価

「若者のストーカー被害実態調査」が終了し、県警本部の協力も得て学生への啓発活動に重点を移している。その結果、ストーカー関連の相談が複数寄せられており、未然防止や早期介入に成果を上げている。

大学内運営

- 1) 心理学科長
- 2) チューターとして学生の個別指導に当たった他、チューターでない学生からの相談事にも応じた。
- 3) オープンキャンパス等において学科説明、模擬授業を実施した。

社会貢献

- 1) 第 71 回四国地区人権教育研究大会発表者 (2024.7)
- 2) 徳島県私立学校退職金社団研修会講師 (2024. 7)
- 3) 県・大学等連携による教職員研修講師 (2024. 8)
- 4) 徳島県立総合教育センター研修会講師 (2024. 8)
- 5) 那賀町商工会研修会講師 (2024. 10)
- 6) 徳島被害者支援センター研修会講師 (2024. 12)
- 7) 徳島新聞コラム「勁草を知る」(年間数回の連載)
- 8) 日本犯罪心理学会地方区理事(2024. 9～)

個人情報

1. 氏名： 阿波 亨
2. 職位： 教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：心理学（家族心理学，福祉心理学，認知心理学等）
2. 学部授業担当科目

学部

前期：社会・集団・家族心理学（家族心理学），福祉心理学，心理統計学演習
後期：知覚・認知心理学（認知心理学），専門ゼミナール

大学院

前期：人格心理学特論
後期：投映法特論，臨床心理基礎実習Ⅱ

3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文4人、修士論文1人
4. 自己評価：

学部の授業では，毎回，最初に前回の授業の内容の簡単な復習を行い，最後にその日の授業の概要の説明を再度行うとともに，最後の回では全体の内容の説明を再度行うという具合に，同じ内容を繰り返し説明することで記憶の定着を図った。また，できるだけ視聴覚教材を活用し，90分間という授業の中で飽きがこないように工夫した。

大学院の授業では，学生が8人と少数であることから，心理検査を体験する機会を設けたり，順番に発表する場を与えたりして，授業への積極的な参加を促した。

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学，犯罪心理学
2. 研究課題及び概要

ブリーフ・セラピー，マイクロカウンセリングそして動機づけ面接法は，考え方や技法にかなり共通する点があるので，それらの共通点や相違点を整理しつつ、本学の臨床心理相談室における実践と大学院生への指導に生かす。

3. 令和6年度分 研究業績一覧

1. 論文
該当なし

2. 学会発表
該当なし

3. 知的財産権の出願・取得状況
該当なし

4. 令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
該当なし

5. 自己評価：

所属する学会の大会や研修会に参加するなどして専門性の向上を図り、臨床心理相談室の業務に生かした。また、心理サークルKOKOROのメンバーに対してロールシャッハ・

テストの説明をするなど、授業以外でも自分の持っている知識を学生に還元するようにした。

大学内運営

人権教育推進委員会委員
新入生セミナー委員
心理学科学生34人のチューター
オープンキャンパスにおける模擬授業
保護者会における保護者との面談
総合選抜型入試にかかる業務

社会貢献

少年サポートアドバイザー（徳島県警察本部）
徳島県留置施設視察委員会委員
学会活動
日本犯罪心理学会会員
日本家族心理学会会員
日本福祉心理学会会員
包括システムによる日本ロールシャッハ学会
日本ブリーフ・セラピー協会会員

その他

自衛隊高知駐屯地における「令和6年度ハラスメント防止教育」講師
徳島刑務所における傾聴技法、対話技法等に関する研修講師

個人情報

1. 氏名：伊藤 泰彦
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：臨床心理学、障害者心理学、健康心理学
2. 授業担当科目

学部

前期：発達障害論、心理学実験、心理実習Ⅰ

後期：コミュニティ心理学、健康・医療心理学、障害者・障害児心理学、
心理実習Ⅱ、専門ゼミナール

大学院(研究科 心理)

前期：心理療法特論Ⅰ、臨床心理面接特論Ⅱ、心理実践実習Ⅱ

後期：心理実践実習Ⅱ

3. 直接に研究指導した学部学生等：

卒業論文：2名

修士論文：2名

4. 自己評価

- ① 全ての講義の全単元においてレジメを作成し配布するとともに、スライドを提示することに加え、例示的に映像教材を視聴させたり、絵本の読み聞かせを挿入したりして、学生の興味を引き、理解を助け、飽きさせず分かりやすい授業の進め方に努めた。
- ② 毎回、授業終了時に感想・大事な点を学生に記入させたシートを提出させ、次回授業の最初に、シートに書かれた内容を集約もしくは抜粋したものを提示し説明することで、ポイントを復習させ、理解を深め、知識を定着できるようにした。

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学

2. 研究課題及び概要

- ・描画法、特に樹木画テストの描画過程や描画体験の検討による解釈枠組の洗練、解釈仮説の妥当性の検証についての研究
- ・大学院における心理実践実習における実習開始前の心構えや準備学習に関する指導方法に関する研究
- ・臨床心理相談室における相談活動の充実のための事例検討の在り方及び面接技法の習得についての研究

令和6年度分 研究業績一覧

1. 論文

樹木画テストの解釈における描画過程や描画体験を検討することの意義について
臨床心理相談室紀要 24 巻 1-12

筆記開示がこころの健康に与える影響についての一考察 ―標準的な筆記開示と短期筆記開示について効果の比較― 臨床相談室紀要 24 巻 13-27 (共著)

2. 学会発表

該当なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

4. 令和 6 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

5. 自己評価

日本犯罪心理学会や県臨床心理士会研修会への参加等により、最新の知見に触れ、自己の専門性の向上を図ることができた。

大学内運営

臨床心理相談室長

自己評価委員会委員

総合選抜型入試の面接試験官

オープンキャンパスにおける模擬授業

進学説明会における広報

保護者会における保護者との面談

学部心理学科 1 年チューター (6 名)、2 年 (6 名)、3 年 (7 名)、4 年 (9 名)

大学院心理学専攻修士 1 年学年担任 (8 名)

社会貢献

1. 学会等への貢献

日本心理臨床学会会員

日本描画テスト・描画療法学会会員

日本発達障害学会会員

日本健康心理学会会員

日本犯罪心理学会会員

2. 地域社会への貢献

徳島中央警察署管内犯罪被害者支援連絡協議会会員

ライフサポーター指導員 (徳島県教育委員会)

法務省矯正局高松矯正管区支所専攻科研修講師

個人情報

1. 氏名：加賀谷 扶美世
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：学校保健学、養護実践学、健康教育学
2. 学部授業担当科目
前期：養護概説、救急処置及び看護法Ⅰ、事前事後指導（養護教諭）、学校ボランティア実践、養護学特講
後期：学校保健、健康相談活動、救急処置及び看護法Ⅱ、教職実践演習、養護実践演習、専門ゼミナール、学校ボランティア実践
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文2名
4. 自己評価

担当授業ではパワーポイントを使用し、プレゼンテーション資料とワークシートを組み合わせた補助教材を作成して活用した。学生参加型授業となるよう心がけ、アウトプットの時間を設けるようにした。クリッカー、シンク・ペア・シェア、ロールプレイ、実技、一人一台タブレットを使用して MetaMoji ClassRoom を使ったグループ活動を設定するなど、授業内容に合わせて活動を組み、活動状況に合わせた柔軟な時間設定を行った。

また「自分の考えを書く」という活動も重視したため、後期よりコメントシートの提出を求めた。記載内容から学生の理解度を確認して内容によっては次時において紹介し、もう少し深く考えて欲しいと思った点や学生からの疑問については、再度柱の一つとして活動に位置づけるなどを行った。講義のコメントシートには、意見交換をすることによって新たな気づきを得る楽しさを書いたものが多くあったが、「自分の意見を書く、意見を交換する、発表することが苦手なので授業を通してできるようになっていきたい。」といったようなコメントも複数あったため、大学卒業後の社会へのトラジションという点からも、引き続き学生参加型の授業、アウトプットの場面を設定するという点を大切にしながら授業を構成していきたい。1年目ということもあり、内容や難易度、学習活動など授業づくりに悩み、試行錯誤しながら進めてきた。次年度には、よりブラッシュアップされた内容で実施できるようにしたい。

研究領域

1. 専門研究領域：学校保健学、養護実践学、アクティブラーニング
2. 研究課題及び概要
 - ・主体的、対話的で深い学びにつながる授業づくり
 - ・養護実習において、大学での学びを積極的に実践できるような事前事後指導（養護）における指導の在り方

令和6年度分 研究業績一覧

1. 論文

該当なし

2. 学会発表

竹内理恵、長濱太造、加賀谷扶美世 学生の認知の変容を可視化する試み-養護教諭の職務や求められる能力に対して-：日本養護教諭教育学会第32回学術集会 2024.12.8

3. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

4. 令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

5. 自己評価

日本養護教諭養成協議会、日本学校救急看護学会、日本養護教諭教育学会等の研修会やFD研修会に参加することにより、他大学の取組や最新の知見に触れ、自己の専門性の向上を図ることができた。

大学内運営

- 1)教職課程委員会委員
- 2)全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- 3)1～4年計21名のチューター
- 4)オープンキャンパスにおける学科説明及び模擬授業の実施
- 5)保護者会における保護者との面談
- 6) 心理学科入学試験にかかる業務
- 7) 進学説明会にかかる業務
- 8)第8回養護教諭研修会の運営
- 9) 保健室ボランティア活動の運営
- 10) 臨床看護実習の運営（各病院との事前打ち合わせ等）

社会貢献

1.学会等への貢献

- 1) 日本学校救急看護学会会員
- 2) 日本学校保健学会会員
- 3) 日本養護教諭教育学会会員

2.地域社会への貢献

- 1) 徳島県初任者研修(養護教諭)での講義
- 2) 徳島県中堅教諭等資質向上研修(養護教諭)での講義
- 3) 徳島県警察学校で赤十字救急法指導員として救急法講習会の実施
- 4) 徳島県教職員団体連合会養護教諭・冬季研修会における指導助言
- 5) とくしまマラソンで赤十字救急法指導員として救護活動ボランティア

個人情報

- 1.氏名：土中 幸宏
- 2.職位：教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域：臨床心理学・犯罪心理学・発達心理学
- 2.学部授業担当科目
学部
前期：司法・犯罪心理学、心理学的支援法、心理演習Ⅱ、心理実習Ⅰ
後期：人間発達学、心理演習Ⅰ、心理実習Ⅱ、専門ゼミナール、心理検査法実習Ⅰ、
心理検査法実習Ⅱ、臨床心理学（理学療法学科）、人間発達学（理学療法学科）
大学院
前期：心理統計法特論、心理実践実習Ⅱ
後期：心理実践実習Ⅱ
- 3.直接に研究指導した学生：卒業論文：6名 修士論文：2名
- 4.自己評価

授業形態は対面式を主としつつ、登校に困難を来す学生のために、オンライン・対面のハイブリッド方式の形態を採用し、授業への出席率の向上を図ったほか、工夫を凝らしたプレゼンテーションを使用した講義を実践した。また、絵本や絵画、映画を題材に用いることにより、学習への意欲を喚起するように試みた。そのほか、フリップボードを活用したグループワーク等の実践により、学生が相互に積極的な意見提出を促すよう工夫したり、Mentimeterを使用し、ライブのインタラクティブなアンケート等を行い、その結果をモニター上にワードクラウド等のスタイルでリアルタイムに提示するなどして、飽きない授業作りに努めた。

研究領域

- 1.専門研究領域：臨床心理学・犯罪心理学・発達心理学
- 2.研究課題及び概要
芸術療法・認知行動療法の実践・研究，実務と連動した心理査定のある方、進化心理学の進展を踏まえた人間発達学の展望等について
- 3.令和6年度分 研究業績一覧
 - 1.論文
該当なし
 - 2.学会発表
該当なし
 - 3.知的財産権の出願・取得状況
該当なし
- 4.令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
該当なし
- 5.自己評価

研究活動はやや停滞気味であるものの、他大学の研究者の協力者として、科研費への申請を検討するほか、今後も研究を推進していく意向である。

大学内運営

- 1) 心理学科 1～4 年計 27 名のチューター
- 2) 心理学科入学試験にかかる業務
- 3) 全学入学試験委員会
- 4) 高校への進学説明会・出前授業担当
- 5) オープンキャンパス来場者への対応
- 6) 専攻科入学試験にかかる業務

社会貢献

1.地域社会への貢献

- 1) 岡山就実大学非常勤講師夏期集中講義（司法・犯罪心理学）担当
- 2) 徳島大学総合科学部非常勤講師（司法・犯罪心理学）担当
- 3) 徳島大学大学院創成科学研究科臨床心理学専攻非常勤講師（犯罪心理学特論）担当
- 4) 名古屋少年鑑別所事例検討会鑑別アドバイザー

2.学会等への貢献

- 1) 日本犯罪心理学会会員及び編集委員
- 2) 日本芸術療法学会会員

個人情報

- 1.氏名：中嶋 英治
- 2.職位：教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域：心理学（発達、臨床、犯罪）、関係行政論（心理職）
- 2.学部授業担当科目
(学部)
前期：心理的アセスメントⅡ（心理検査法Ⅱ）、心理学実験、公認心理師の職責、心理学特講
後期：専門ゼミナール、発達心理学、関係行政論、心理学統計法（心理統計学）、心理学（A）
(大学院)
前期：心理療法特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践Ⅰ）、心理実践実習Ⅱ、特別研究
後期：発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）、心理実践実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅱ、特別研究
- 3.直接に研究指導した学生
卒業論文：4名
修士論文：1名
- 4.自己評価
より分かりやすいプレゼンテーション資料の作成、丁寧な説明と質問への対応に尽力しつつ講義等を進めた（詳細は以下のとおり）。
 - ・心理学特講では、心理学領域の職場についてアップデートした内容に基づき詳細な説明を行ったほか、公務員試験、教員採用試験、企業の入社試験等に向けて実戦的な授業となるよう、映像資料や討議形式を積極的に取り入れた。
 - ・心理学統計法では、（不得意とする者が多い）統計法への関心を高めるため、より身近な事例を取り上げて説明するなど、講義内容を工夫した。また、計算に苦慮する学生が見られたため、コンピュータ室を活用し、エクセル及びエクセル関数を使用した統計処理の方法についても講義を行った。
 - ・心理学（A）では、心理学を専攻科目としない学生が心理学への関心を高められるよう、日常生活との結び付きが強い内容を中心に、映像資料を積極的に活用した講義を行ったほか、複数の心理検査を体験させ、自分の性格を知る機会を取り入れる等により、印象に残る授業になるよう工夫した。
 - ・関係行政論では、既存の参考図書を活用しつつ、政府のHP等において最新の施策の運用状況及び今後の法令の改正状況を確認した上で、その内容についても講義を行った。また、本年度は、公認心理師の立場に立って討議する形式の授業を取り入れた。
 - ・全ての授業について、毎回、グーグル・クラスルームを活用して質問を求めた。各質問については、回答を作成の上質問者に個別に配信したほか、質疑内容を全ての受

講者が共有できるようクラスルームにアップし、学生の疑問の解消に向けて真摯に取り組んだ。

大学院における心理実践実習の指導教員として、各施設における実習担当者との連携を密にしつつ、継続的な事前事後指導を徹底した。

研究領域

1.専門研究領域

心理学（発達、臨床、犯罪）

2.研究課題及び概要

発達過程を踏まえた非行少年の心理アセスメントについて

3.令和6年度分 研究業績一覧

1.論文

該当なし

2.学会発表

該当なし

3.知的財産権の出願・取得状況

該当なし

4.令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

5.自己評価

講義の充実及び論文指導を優先しているところ、研究活動には着手できていないが、関連資料の収集等を継続している。

大学内運営

- 1) 退学者防止対策委員会委員
- 2) 人間生活学部学生指導委員会委員（委員長）
- 3) 人間生活学部教育研究委員会委員
- 4) 心理学科1～4年生計35名のチューター
- 5) 心理学科入学試験にかかる業務
- 6) 専攻科入学試験にかかる業務
- 7) オープンキャンパスにおける模擬授業

社会貢献

1.地域社会への貢献

徳島県再犯防止推進協議会委員長

2.学会への貢献

- 1) 日本犯罪心理学会会員
- 2) 日本矯正教育学会会員
- 3) 日本矯正医学会会員

個人情報

1. 氏名： 新見 員子
2. 職位： 准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 教育臨床心理学、臨床心理学
2. 学部授業担当科目
学部
前期：児童心理学、青年心理学、卒業研究
後期：感情・人格心理学、学校心理学/教育・学校心理学Ⅱ、専門ゼミナール、卒業研究
大学院
前期：学校臨床心理学、臨床心理学研究法特論、臨床心理実習Ⅰ、特別研究
心理実践実習Ⅱ、臨床心理基礎実習Ⅰ
後期：心の健康教育に関する理論と実践、臨床心理実習Ⅱ、心理実践実習Ⅱ、
臨床心理基礎実習Ⅱ、特別研究
3. 直接に研究指導した学部学生等
3年生ゼミナール：5名、4年生ゼミナール：4名
大学院2年生：1名
4. 自己評価：
 - 1) パワーポイントや、視聴覚教材を活用し、学生に分かりやすい授業を心掛けた。知識の伝達にとどまらず、適宜、授業の中で、読む・書く・話す等の活動場面を設定した。
 - 2) 学生が主体的に学ぶことができるアクティブラーニング形式の授業を設定し、学生の意欲喚起に努めた。
 - 3) 授業のはじめには、絵本の読み聞かせを行い、学生の感性や言語能力の育成を目指した。
 - 4) 授業終了時には、「振り返りシート」を用いて、本時の学びを確認させ、次の授業でフィードバックを行った。
 - 5) 大学院生の修士論文指導においては、倫理的配慮について、慎重に期する必要性を感じた。

研究領域

1. 専門研究領域： 教育臨床心理学、臨床心理学
2. 研究課題及び概要
 - ・学校教育の課題における心理学的理解と支援
 - ・絵本の読み聞かせの効果
 - ・箱庭療法を通してのカウンセラーの育成
3. 令和6年度分 研究業績一覧
 - 1) 論文 等
 - ・山本佑多・新見員子（共著）「小学校におけるスクールカウンセラーの役割に関する調

査」 徳島文理大学臨床心理相談室紀要 第 24 号 PP. 28-40

2) 学会発表

該当なし

3) 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

4) 令和 6 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

5) 自己評価

学生の指導が中心となり、研究についてはほとんど着手できていない。研修として、公認心理師実習担当教員講習会（オンライン）に参加した。今後は、学生の育成と共に研究の充実を図り自己研鑽に努めたい。

大学内運営

1. 活動報告

- 1) 全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- 2) オープンキャンパスにおける学科説明と模擬授業の実施
- 3) 2 年生担任：69 名、チューター：1 年生から 4 年生まで 31 名
- 4) 入学試験にかかる業務
- 5) 修士論文の副査
- 6) 高知支部保護者会における保護者面接
- 7) 臨床心理相談室相談員

社会貢献

1. 学会への貢献

- 1) 日本心理臨床学会会員
- 2) 日本カウンセリング学会会員
- 3) 日本箱庭療法学会会員
- 4) 徳島県公認心理師・臨床心理士会会員

2. 地域社会への貢献

- 1) 本学併設の臨床心理相談室にて外部（地域社会）からの相談活動
- 2) 鳴門教育大学附属学校入試における面接委員

個人情報

- 1.氏名：原田 耕太郎
- 2.職位：教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域：社会心理学、教育心理学
- 2.学部・大学院授業担当科目

学部

前期：学校・教育心理学（教育心理学）、教育心理学、
社会・集団・家族心理学（社会心理学）、心理学実験、心理学A、
心理演習Ⅱ、心理実習Ⅰ
＜以上、徳島キャンパス＞
心理学A、図書館総合演習
＜以上、香川キャンパス＞
後期：専門ゼミナール、産業・組織心理学、心理学研究法、心理実習Ⅱ、
心理演習Ⅰ、社会心理学
＜以上、徳島キャンパス＞
教育心理学、教職実践演習
＜以上、香川キャンパス＞

大学院

前期：心理学特別演習、心理実践実習Ⅰ、心理実践実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅰ
特別研究
後期：心理実践実習Ⅰ、心理実践実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅰ、特別研究
産業・労働分野に関する理論と支援の展開

- 3.直接に研究指導した学生：卒業論文3名

4.自己評価

卒業論文の指導については、受講生が本学大学院への進学を希望していたので、修士論文作成の予行練習という位置づけで指導を行った。合わせて、大学院の受験指導も行った。担当講義においては、指定のテキストをベースにしたオリジナルの資料を用いている。内容としては、基本的な内容を分かりやすく説明するとともに、適宜時事問題や、視聴覚資料、一部高度な内容を盛り込むなど、単調にならないように配慮している。この試みは、おおむね成功していると判断している。

研究領域

- 1.専門研究領域：社会心理学
- 2.研究課題及び概要

社会的公正知覚に関する研究。社会的公正とは社会活動を維持させ機能させる上で重要な規範の一つであり、社会的動機の一つだということもできる。しかし、「公正か否か」に関する客観的あるいは絶対的基準はなく、あくまでも知覚者の主観によって決定される。それゆえに、公正をめぐる対立やバイアスの介在といった、心理学上興

味深い事象が存在する。つまり、社会的公正知覚の研究は、心理学の観点からの社会活動の理解につながる。

3.令和6年度分 研究業績一覧

1.論文

山下真依・原田耕太郎（共著） 「障害のある人との接触経験が障害のある人との心理的距離に及ぼす影響 ―インクルーシブ教育の経験に注目して―」 徳島文理大学臨床心理相談室紀要 第23号 pp.41-55. 徳島文理大学

2.学会発表

該当なし

3.知的財産権の出願・取得状況

該当なし

4.令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

5.自己評価

共著論文1本は第1著者の卒業研究の指導の結果として公表したものである。
第1著者は卒業後国立大学の大学院に進学することが決まっており、進学後の研究活動のためのトレーニングを意図して指導を行い、一定の成果を得たと評価している。

大学内運営

- 1) 自己点検・自己評価委員会委員
- 2) 選挙管理委員
- 3) 大学入試共通テスト入試委員
- 4) 教職教養講座 講師
- 5) 公認心理師実習指導員
- 6) 臨床心理相談室相談員
- 7) 修士論文副査2件
- 8) 学部3年生担任
- 9) 学部チューター担当（1年～4年）
- 10) オープンキャンパスミニ講義担当
- 11) 大学院受験希望者への面談および進路説明
- 12) 大学学部入学試験業務
- 13) 大学院入試業務

社会貢献

1.学会等への貢献

該当なし

2.地域社会への貢献

放送大学面接授業「心理学実験1」非常勤講師

個人情報

1. 氏名 福本浩行
2. 職位 教授

教育情報

1. 教育の担当専門領域：心理学（臨床心理学、乳幼児精神医学等）
2. 学部授業担当科目
前期：心理演習Ⅱ、発達障害論、心理的アセスメントⅠ、臨床心理学
後期：専門ゼミナール、心理演習Ⅰ、心理検査法実習Ⅰ、心理検査法実習Ⅱ、卒業研究
大学院授業担当科目
前期：臨床心理面接特論Ⅰ、心理実践実習Ⅱ、臨床心理査定演習Ⅰ
後期：心理実践実習Ⅱ、臨床心理学特論Ⅱ、臨床心理実習Ⅱ、心理実践実習Ⅱ
3. 直接に研究指導した学生：修士論文2名、卒業論文1名
4. 自己評価：毎講時、動画を盛り込んだプレゼンテーション用スライド及び視聴覚教材を活用したほか、授業の重要事項に関する詳細な解説を盛り込んだ補助教材を配布し、受講生の理解を深めさせた。授業内容に関連して、公認心理師資格試験の過去問を解説し資格試験に対する動機付けを高める工夫をしたり、各種学会の最新情報を提供し専門的知見の啓発を行ったりした。

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、乳幼児精神医学
2. 研究課題及び概要
虐待の世代間伝達を中心的なテーマに据える。研究課題のキーワードとしては、ア．アタッチメントの内的作業モデル、イ．複雑性PTSD、ウ．心的外傷後成長（レジリエンスを含む）、エ．曖昧性耐性及び曖昧な喪失、オ．ネガティブ・ケイパビリティ、カ．メンタライジング等について、大学生が抱える臨床心理学的諸問題との関連を調査し、ダイナミック・アプローチの観点から考察している。また、データはカテゴリーデータとして扱い、仮説検証型分析であるファセット理論に基づく多変量解析を行っているほか、慶応大学大学院や鳴門教育大学大学院の研究会に所属し、共同してデータを取得したり情報収集を行ったりしている。

令和6年度分 研究業績一覧

1. 論文
該当なし。
2. 学会発表
なし
3. 知的財産権の出願・取得状況
該当なし。
4. 令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況

該当なし。

自己評価

修士論文や卒業論文の指導の充実を図るため、上記研究課題に係る資料収集を綿密に行って学生に還元したほか、英文ペーパー論文や英文書籍の学生とともに翻訳し抄読会を行っている。また、日本虐待防止学会等各種学会に参加して研究領域における最新の知見を吸収し、自らの専門性の向上及び学生への専門的知見の還元に努めている。

大学内運営

- 1) 心理学科広報委員会及び大学広報誌の作成編集
- 2) オープンキャンパス来場への対応
- 3) 高校への進学説明会・出前授業担当
- 4) 大学学部・大学院入学試験業務
- 5) 修士論文主査及び副査
- 6) 保護者会での保護者面談

社会貢献

1. 地域社会への貢献

- 1) 児童自立支援施設「徳島学院」安全委員会副委員長
- 2) 徳島県就業支援機構 FR センター障害者福祉施設従事者サポート事業アドバイザー
- 3) アジア刑政財団会員（犯罪防止の国際貢献）
- 4) 日本ばら会会員（世界ばら会議出席）
- 5) 綾川町地域振興（廃校活用プロジェクト）
- 6) 瀬戸内国際芸術祭参加（男木島の猫の家ガーデン設営）

2. 学会等への貢献

- 1) 日本虐待防止学会会員
- 2) 日本心理臨床学会会員
- 3) 日本犯罪心理学会会員

個人情報

1. 氏名：松本 新功
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：物理学，数学，情報処理
2. 授業担当科目
前期：情報処理(3 クラス)，数学 A，PC 文書作成実習 I，PC 文書作成実習 II
後期：情報科学，情報処理・統計学(2 クラス)，物理学 A，PC データ活用実習 I，PC データ活用実習 II
3. 直接に研究指導した学生：なし
4. 自己評価
 - ・ Google Meet を使って，対面・遠隔のハイブリッド形式で講義を実施した．健康観察期間中など通学が困難な学生にも，対面に近い形で遠隔講義を受講できる環境を提供できたと考えている．
 - ・ 数学や Excel など，苦手な学生が多い科目に関しては，Meet で録画した過去の講義動画を編集の上，Classroom にアップした．講義内容を動画で復習できるように配慮した．
 - ・ 講義中は pdf 等の電子ファイルを画面共有で学生に見せながら講義を行っている．その際に，講義中にコメントを資料ファイルに追記しながら説明をする．このコメントなどを追記した資料を，講義後に Classroom で配布した．復習時の利便性に配慮できたと考えている．

研究領域

1. 専門研究領域 プラズマ物理学，核融合学，量子ビーム科学
2. 研究課題及び概要
 - 1) 水素負イオン(H⁻)源プラズマ内における H 輸送の実験研究
 - 2) 水素負イオン源プラズマ内における低エネルギー電子輸送の実験研究
 - 3) プラズマ診断のための，低エネルギー電子銃の装置開発
 - 4) Particle-In-Cell(PIC)法を用いた，イオン源プラズマの数値シミュレーション
 - 5) PIC 法を用いた，低エネルギー電子銃の数値シミュレーション
 - 6) 低エネルギー量子ビームと低仕事関数金属表面の相互作用の実験研究
3. 令和 6 年度分 研究業績一覧
 1. 論文・著書
Hitoshi Yamaoka, Nozomi Tanaka, Mayuko Nishiwaki, Ippei Yamada, Mamiko Sasao, Yoshikatsu Matsumoto, Katsuyoshi Tsumori and Motoi Wada, “*Low-energy atomic and molecular hydrogen ion interaction with low-work function electride 12CaO·7Al₂O₃*”, J. Appl. Phys. 136, 043306 (2024)
 2. 学会発表

田中のぞみ, 山岡人志, James Edward Hernandez, 山田逸平, 笹尾真実子, 松本新功, 津守克嘉, 藤岡慎介, 中野治久, 和田元, 「低エネルギー水素イオンビームと低仕事関数材料表面の相互作用」, 第 41 回 プラズマ・核融合学会 年会 2024 11/17-20

3. 知的財産権の出願・取得情報

なし

4. 令和 6 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

- 1) 核融合科学研究所 一般共同研究(実験研究)・代表・採択
- 2) 核融合科学研究所 一般共同研究(実験研究)・協力者・採択
- 3) 核融合科学研究所 一般共同研究(数値計算研究)・代表・採択

5. 自己評価

- ・負イオン源プラズマ内での電子輸送の物理を明らかにするため, 新たなプラズマの計測法を開発中である. 今年度はこの計測法で用いる電子銃を再設計し, 大電流化を図った. 部品の修正を行いながら, 組み立て作業を実施中である. 2025 年 3 月にビーム実験を行い, 性能チェックを行う予定である.
- ・PIC シミュレーションコードで使用する, プラズマ内粒子の粒子間衝突ルーチン(荷電粒子-中性粒子間の弾性衝突)のコード作成を行った. 機能実装は一通り終えたものの, 実行時にエラーが発生する. デバッグ作業を令和 6 年度中に終わらせ, 令和 7 年度より, PIC 計算コードに衝突ルーチンを組み込み, 計算を実施する予定である.

大学内運営

- 1) 全学共通教育センター・マンツーマン講座(SA 講座)の運営
(面接等 SA 採用業務, SA の指導, ホームページの修正, 業務管理用 Web システムのプログラミング等)
- 2) 公務員試験対策講座(数的推理・2 回)
- 3) 幼保試験対策講座(数的推理・1 回)
- 4) 入学試験作題(4 回分)
- 5) 日商 PC 検定・試験監督及び事務業務(5, 6 回程度)
- 6) 文理学・全学部共通講座 II・「データ・AI 利活用で必要な統計学の基礎」の講演(2 回)

社会貢献

1. 学会等への貢献

- 1) 日本物理学会 会員
- 2) プラズマ・核融合学会 会員
- 3) 自然科学研究機構 核融合科学研究所 プラズマ装置学ユニット・メンバー

個人情報

1. 氏名：渡邊 悟
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：臨床心理学、心理査定
2. 授業担当科目
前期（学部）：老年心理学、心理演習Ⅱ
前期（大学院）：臨床心理学特論、臨床心理基礎実習Ⅰ、心理実践実習Ⅰ、特別研究
後期（学部）：臨床心理学、パーソナリティ障害論、心理検査法実習Ⅰ、心理検査法実習Ⅱ、専門ゼミナール、卒業研究
後期（大学院）：臨床心理査定実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅱ、心理実践実習Ⅱ、特別研究
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文4名、修士論文1名
4. 自己評価
担当授業については、パワーポイントにより授業を行い、それを印刷して補助教材として活用した。また、後期からは、一部の授業において、対面とオンラインによるハイブリッド授業を行った

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学、心理査定
2. 研究課題及び概要
非行・犯罪臨床における心理査定のあり方
3. 令和6年度分 研究業績一覧
 1. 論文等
 - 1) 渡邊 悟(分担執筆) 関係行政論 第3版. 第10章 少年非行 遠見書房(2024.4)
 - 2) 渡邊 悟(分担執筆) 心理実習. 第4部 実習で役立つ着眼点 第7章 司法・犯罪分野での実習 少年鑑別所・矯正施設 遠見書房(印刷中)
 2. 学会発表
該当なし
 3. 学会等主催研修会出席
 - 1) 包括システムによる日本ロールシャッハ学会第29回大会(2024.7)
 - 2) 日本犯罪心理学会第62回大会(2024.9)
 - 3) 公益社団法人日本公認心理師協会専門研修Ⅰ講師(2024.6)
 - 4) 公益社団法人日本公認心理師協会専門研修Ⅱ講師(2024.9)
 - 5) 一般社団法人日本臨床心理士会司法・矯正領域委員会研修会(2024.9)
 - 6) 公益社団法人日本公認心理師協会司法・犯罪分野委員会研修会司会(2024.10)
 - 7) 包括システムによる日本ロールシャッハ学会認定資格研修会講師(2024.11)
 - 8) 徳島文理大学心理臨床研究会講師(2024.11)
 - 9) 公認心理師実習演習担当教員・実習指導者養成講習会(2024.11)
 - 10) 日本公認心理師学会第4回学術集会(2024.12)

4. 知的財産権の出願・資格取得状況

該当なし

5. 令和6年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

6. 自己評価

有査論文はないものの、学会大会や研修会への参加等により、自己の専門性の向上を図った。

大学内運営

- 1) 大学院人間生活学研究科心理学専攻主任
- 2) 臨床心理相談室相談員
- 3) 心理学科就職支援委員
- 4) 修士論文主査及び副査
- 5) 大学院及び学部入学試験にかかる業務
- 6) 心理学科1～4年生のチューター
- 7) オープンキャンパスでの学科説明・模擬授業
- 8) 保護者会での保護者との面談

社会貢献

- 1) 公益社団法人日本公認心理師協会 理事、司法・犯罪分野委員会委員長、専門認定委員会委員長、政策調整委員会委員
- 2) 一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟 理事
- 3) 一般社団法人徳島県公認心理師・臨床心理士協会 監事
- 4) 包括システムによる日本ロールシャッハ学会 会長
- 5) 日本犯罪心理学会 全国区理事
- 6) 徳島県ときわプラザ相談室スーパーバイザー
- 7) 徳島県ライフサポーター指導員
- 8) 徳島ロールシャッハ・テスト研究会代表
- 9) 法務省矯正研修所法務技官（心理）通信研修講師（通年）
- 10) 法務省矯正研修所法務技官（心理）基礎科研修講師（2024. 6）
- 11) 法務省矯正研修所法務技官（心理）応用科研修講師（2024. 11）
- 12) 法務省大阪少年鑑別所事例検討会講師（2024. 9）
- 13) 法務省和歌山少年鑑別所事例検討会講師（2024. 12）
- 14) 法務省徳島少年鑑別所事例検討会講師（2025. 1）
- 15) 放送大学徳島センターまなびの森研修会講師（2025. 2）
- 16) 一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟主催公認心理師実習演習担当教員・実習指導者養成講習会講師（2025. 2・3）

編集後記

令和6年度の教育・研究年報作成にあたりましては、年度末の大変お忙しい中、多大なご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

この年報は人間生活学部の多岐にわたる教育・研究活動、そして社会貢献活動を記録し、教員相互の理解を深めるとともに、自己点検・自己評価の一助となることを目的としております。

振り返りますと、本年度は長引いた新型コロナウイルス感染症の影響からさらに社会経済活動が正常化へと向かう中で、学部としても新たな一步を踏み出した年となりました。

特に3月には、高松駅キャンパスの開学式が執り行われ、本学の新たな教育・研究拠点としての可能性が開かれました。また、来年度には学園創立130周年という記念すべき節目を迎えるにあたり、未来へと繋がる教育研究のあり方を改めて考える一年でもありました。

本報告書が、今後の教育研究活動のさらなる発展に活用されることを願っております。

徳島文理大学人間生活学部

令和6年度 自己点検・評価委員会

人間生活学科	高橋 昌江
食物栄養学科	犬伏 知子
児童学科	藤村 正司
メディアデザイン学科	長濱 太造（委員長）
建築デザイン学科	岡松 道雄
心理学科	原田 耕太郎

編集責任者：長濱 太造

